

の十四人。奥右筆見習より奥右筆となる者三人。日光門跡公澄法親王生花干菓子。安樂心院宮公延法親王葛煎餅を獻ず。こたびの御法會ことなく濟みしによりてなり。去る十六日日光山御法會速夜胎曼茶羅供導師日門つかふまつられ。并被物も濟みしよしを。かの山より驛をはせて注進あり。○廿三日船手頭橋本喜平太敬賢西城徒頭となり喜八郎と改む。西城小納戸曾我又兵衛朝祐船手頭となる。西城小姓組番頭に准じたる松平伊勢守近言申次を見習はしめられ。職務の内三千俵の高になし下さる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備前守高久代參す。日光山 靈廟代參使松平讚岐守頼儀。御法會總督松平伊豆守信明。同じこと奉はりし寺社の奉行植村駿河守家長。勘定の奉行中川飛驒守忠英各かへり謁す。日光門主山よりかへられしかば。太田備中守資愛御使して慰勞せられ。また御法會濟せられしにより。高家横瀬駿河守貞臣御使して。散樂見物のこと仰つかはさる。○廿五日臨時に外殿に出まして。松平伊豫守治好はじめ。就封の暇たまふもの三十五人。伊豫守治好は鷹御馬を賜ひ。細川越中守齊茲。松平大和守直恒。松平大膳大夫齊房。松平出雲守利謙。立花左近將監鑑壽。松平左兵衛佐直周は御馬を賜ふ。堺奉行矢部彦五郎定令賜物ありて初て赴任の暇たまひ。叙爵して駿河守とあらたむ。小十人より納戸番にうつるもの一人。日門より岩茸を獻ず。御歸寺によりてなり。○廿七日駒場野追鳥狩として成らせらる。御みづから鷹もて雉五羽狩せらる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。紀伊中納言治寶卿封邑の暇

伊藤忠移大目付に任ず

たまひ。御饗ありて御對面せられ御鷹馬を下さる。また 大納言殿より三種二荷。御臺所よりも二種一荷進らせられしを謝して使まいらせらる。上杉駿河守勝定就封のいとまたまふ。松平周防守康定子軍次郎康任はじめて見えたてまつる。清水郎勤番の支配伊藤河内守忠移大目付となり。先手弓頭新見大炊頭正徧清水郎勤番の支配となる。勤務の内廩米貳千苞下され。座班は新番頭の次たるべしとなり。○晦日三縁山 有章院殿靈廟へ御詣あり。○閏四月朔日松浦壹岐守清就封のいとまたまふ。日光山よりかへりし松平壹岐守定剛。高家中條山城守信復。宮原長門守義潔。日光奉行森川越前守俊尹。中奥小姓内藤加賀守忠高。酒井大内記忠求。松平因幡守康盛。小笠原安房守政恒。松平石見守正卜。目付横田十郎兵衛延松。佐久間左京信近。徒頭土屋帶刀廉直。納戸頭平岩六郎左衛門親充はじめ。所屬の吏まで調したてまつる。僧侶入院又繼目を謝するもの五人。水戸兩卿へ御使して。明の日申樂命せられしにより。まうのぼり遊覽有べしと仰つかはさる。○二日日光山御法會すみしにより猿樂あり。日光門主。水戸兩卿はじめ。萬石以上父子。上野正僧正。院家。その他僧中。又上直のともがらにいたりて見る事をゆるさる。よて三家のかたぐし使して鮮鯛をまいらす。在府四位以上の父子ちなじく肴一尾をたてまつり。日光門主二種一荷をまいらす。まづ白木書院に出まして日光門主御對面あり。はては大廣間へわたらせられ。水戸中納言治保卿父子に御對面。はては御襖をひらかせ給ひ。御次伺候のともがらまみえたてまつり

五百姫卒

て。少老堀田攝津守正敦舞臺にいで、申樂始むべき事を大夫に告て樂はじまる。番組は翁三番叟。竹生島。忠度。熊野。道成寺。祝言弓八幡。狂言二番。寶の槌。不聞座頭なり。奏者番して唐織纏頭及び要脚廣蓋例の如し。樂の半に席々にして御饗應あり。喜多七大夫舞臺にしてはじめて唐織を下さる。○三日五百姫君これよりさきなやませられしが。けふ辰刻にうせ給ひぬ。御とし二にならせ給ひしとぞ。よて音樂停廢三日。留守居岡野肥前守知曉。目付小長谷和泉守政良。小島孫右衛門正苗御新葬の事命ぜらる。五百姫君の御事にて。溜詰。高家。雁間詰。諸番頭。諸物頭。布衣の輩まうのぼり御けしきうかゞふ。○四日駿府城代淺野壹岐守長致子賢之丞。西城留守居桑原伊豫守盛員子新番頭善兵衛盛倫。寄合新見長門守正登子吉次郎正路はじめ。父死して家つぐ者十一人。今朝姫君生れさせ給ふ。御腹はあとせの方。小普請梶久三郎勝俊の女なり。墓目は。御臺所用人中山長門守信勝。矢取はその子小姓組勘右衛門信珉。篋刀は小納戸高鳥近江守廣備これをたてまつる。けふ五百姫君に諡して瑩光院と稱しまいらす。○五日きのふ姫君生れさせたまふにより。御祝として三家のかたぐ。おなじく世子使まいらせ。溜詰。高家。雁間詰。諸番頭。諸物頭。布衣已上まうのぼり祝し奉る。寄合近藤隼人用倫瑩光院殿御法會の警衛命ぜらる。○六日瑩光院御方上野凌雲院へ送りまいらす。○八日日光奉行森川越前守俊尹京の町奉行となり。勘定吟味役大久保内膳忠寅日光奉行となる。○九日下總國結城の城主水野日向守勝剛病により致仕し。そ

峯姫生

休野勝剛致

野木昌綱致

の子下野守勝愛をして所領一萬八千石をつがしむ。この勝剛實は中川修理大夫久貞の第三子にして。天明三年六月七日嗣子に命ぜられし日に襲封し。その月二十二日凌明院殿に拜謁し奉り。その暮從五位下に叙し兼日向守に任じ。寛政十二年閏四月九日致仕し。その月の二十五日攝津守とあらため。天保五年三月十二日卒す。齡つもりて七十五歳なりしとぞ。丹波國福知山の城主朽木近江守昌綱病に犯されしにより致仕し。その養子實弟土佐守倫綱をして領地三萬二千石を繼しむ。この昌綱は實は大炊頭綱貞が子にして。兄伊豫守鋪綱が養子となり。安永六年三月十九日初見したてまつり。九年十二月叙爵して隱岐守と稱し。のち今の名にあらため。天明七年十一月家つぎ。けふ致仕剃髮して近江入道と號し。のち享和二年四月十七日五十三歳にして卒す。代官平岡彦兵衛良林裏門切手番の頭となる。○十日勘定村山半大夫貞休坂城金奉行とせらる。○十一日御出生の御かた。御名まいらせられて峯姫君と稱したてまつる。この御名は少老京極備前守高久奉はりしにより。奥にして布帛を賜ふ。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十三日羅漢寺のほとりへ成らせらる。御拳は梅首鷄よし五位なり。日光山御法會濟せられしにより。その事奉はりし寺社の奉行植村駿河守家長時服五。勘定奉行中川飛驒守忠英。日光奉行有田播磨守貞勝三づい。目付横田十郎兵衛延松。納戸頭平岩六郎左衛門親充各貳。十郎兵衛延松は更に金五枚給ふ。その他所屬の吏賜物ものく差あり。奥右筆三人に金銀賜ふ。お

なじ事によて上野 大猷院殿別當東漸院某白銀を下さる。○十五日月次の賀例のごとし。松平筑前守齊廣就封のいとま給ひ御鷹馬を下さる。佐竹右京大夫義和はじめ参観三人。使番木原兵三郎白郷先手弓頭となる。朽木土佐寺倫綱。水野下野守勝愛共に封繼しを謝して物を獻ず。大番頭小笠原近江守貞温。長谷川丹後守勝宮二條の在成はて、歸謁す。與頭番士も同じ。甲府勤番初見四人。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代参す。○十八日目付佐久間左京信近日光山御法會の事奉はりしにより時服二。更に金五枚を賜ふ。○十九日上野中堂前唐門廻廊。其他修復の檢視つとめしをもて。小普請奉行松平淡路守信行時服を賜ひ。所屬の吏賜物ものゝ差あり。○二十日白木書院に出たまひ。諸職諸番小普請のともがらにいたりて武技御覽あり。おのこの布帛をたまふ。○廿二日新番細田三右衛門時賢老免して小普請となり褒金をたまふ。奥祐筆見習より本職となるもの一人。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代参す。安藤對馬守信成東叡山にしてこの六月 有徳院殿五十年周忌御法會總督命ぜらる。同じ事を日光門主にも仰つかはさる。御使は對馬守信成なり。大目付松浦越前守信程留守居となり。目付横山十郎兵衛延松佐渡奉行となる。○廿七日駒場藥園管植村左平太政養累年出精を賞せられ。官料百苞下され。小石川藥園奉行次に居るべしとなり。○廿八日小普請より大番に入もの六人。○廿九日寺社奉行脇坂淡路守安董。勘定奉行柳生主膳正久通。東叡山 靈廟御法會の事司るべしと

大目付松浦
信程留守居
に賜す

大目付池田
長惠卒

作事奉行神
保長光大目
付に任ず

命ぜられ。黒田大和守直温おなじ山の警衛の事命ぜらる。○五月初日月次の拜賀例の如し。日光門主端午の佳賀として使して二種一荷進らせらる。井伊掃部頭直中。松平越中守定信。松平讃岐守頼儀就封のいとま給ひ。おのゝ鷹馬を下さる。京町奉行森川越前守俊尹赴任により。舊の如く金三百兩恩借せらる。○二日端午の賀として。三家のかたゝはじめ。萬石以上例のともがら。兩本願寺より時服を進らす。西城へもおなじ。小普請より大番に入もの一人。○三日大目付池田筑後守長惠養子修理。齋藤帶刀利惠養子健次郎はじめ。父死して家つぐもの八人。○五日端午の御祝規のごとし。○六日作事奉行神保佐渡守長光大目付となり。大番淺草米廩の事奉はりし澤次郎右衛門幸純勘定吟味役となる。○八日東叡山 嚴有院殿靈廟及び 心觀院殿靈牌所に御詣あり。 浚明院殿靈廟に水野出羽守忠友代参す。○九日田安右衛門督齊匡卿水痘やませらるゝにより。御側岡部因幡守長貴御使して。生干魚を送らせられ御たづねあり。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に安藤對馬守信成代参す。○十一日御産のと墓目の役勤めし 御臺所用人中山長門守信勝銀三十枚。時服三。篋刀の役小納戸高島近江守廣傳同じく賜ふ。矢取小姓組中山勘右衛門信珉同じく銀時服を下さる。けふ峯姫君を 御臺所の御養ひになさる。よりて 御所より松平伊豆守信明御使して。姫君へ綿五十把。産衣二襲。二種千疋。 大納言殿より水野出羽守忠友御使して綿三十把。御産衣一襲。一種千疋。 御臺所より綿三十把。御産衣一襲。二種千疋

まいらせらる。其他かたゞ御取かはせ差あり。先手弓頭竹本隼人正恒鍵奉行命せらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。けふ峯姫君七夜の御祝あり。日光門主よりも使して一種進らせらる。○十三日峯姫君御事 御臺所の御やしなひとならせられし御祝として。三家のかたゞ使進らせらる。けさ小姓組番頭本多大隅守政房御使して。水戸中納言治保卿に巢鷹三据おくらせらる。よてまうのぼられ謝し奉る。小普請橋本和田吉房春逼塞。和田吉房春養父彌之助房茂重き追放。本多政太郎。菅沼友之丞久忠御前を憚らしめらる。その外連座のもの多し。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十五日月次の拜賀例の如し。松平隱岐守定國參覲す。松平甲斐守保光は御馬を下さる。その子將八郎保泰。稻垣若狹守定淳子藤五郎定成はじめて見えたてまつる。駿府城代杉浦丹波守正勝賜物ありて赴任のいとま給ふ。僧侶の拜謝するもの多し。拜賀すぎてのち松平加賀守治脩はじめ萬石のともがら。及び交代寄合。布衣已上西城へまうのぼり。 大納言殿をおがみ奉る。○十六日作事奉行三上因幡守季寛。目付小長谷和泉守政良。勘定吟味役岡松八右衛門久稠。三縁山 桂昌院殿。 月光院殿靈牌所。その他修理檢視の事命せられ。那須衆一人就封のいとまたまふ。○十七日紅葉山 御宮 諸廟に御詣あり。○十八日奥にて散樂を催さる。老臣はじめ觀覽せしめらる。樂組は高砂。經政。姨捨。雷電。枕慈童。藤戸。昭君。狂言は粟田口。昆布うり。惠比壽毘沙門。地藏舞。狐塚なり。○十九

日水戸中納言治保卿生母うせられしかば。書院番頭安藤伊豫守直久御使して吊慰せらる。この日尾邸より巢鷹二据さげらる。去し十九日東本願寺門主室逝去により。 大納言殿。 臺の上喪に籠らせらる。こは近衛殿息女にして。 臺の上御養方御妹なればなり。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。那須衆二人いとまたまふ。西城目付松平伊織康英目付となり。徒頭細井豊前守正房西城目付となる。○廿一日けさ尾中將のもとへ巢鷹二据つかはさる。○廿三日濱の庭園に成らせらる。諸組火繩屋敷のうち。闕所家作のことによて令せらる。○廿三日ねあり。濫法○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に安藤對馬守信成代參し。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。普請奉行平賀式部少輔貞愛作事奉行となり。先手弓頭佐橋長門守佳如普請奉行となり。寄合谷主計衛明先手筒頭となる。又表右筆組頭倉林五郎右衛門。房博一橋邸用人となる。 御臺所けふよりして御喪關の事仰つかはさる。○廿五日御側大久保豊前守忠温御使して。水戸中納言治保卿の制中を問はせられ槍重を贈らせらる。この日表右筆より奥向職見習はしむるもの四人。甲府勤番堀内糸之丞氏有士籍を削られ。小普請勝與八郎忠昌御前をとめらる。其外連及のもの若干なり。智積院集議席慧珊淺草大護院住職たらしむ。○廿六日留守居酒井因幡守忠敬御産屋の事奉はりしをもて時服を賜ふ。小普請奉行石野筑前守範堯紅葉山 嚴有院殿。 孝恭院殿靈廟唐門。その他修復の事奉はりしを以て時服をた

伊能忠敬蝦夷を測量す

伊能忠敬の事蹟

まふ。所屬の吏賜物差あり。○廿七日小十人北太左衛門保室老免して小普請となる。褒金あり。○廿九日土用に入りしかば。三家のかたぐい使進らせ。高家。詰衆。奏者番。まうのぼり御けしき伺ふ。日光門主は使して掛香を進らせらる。また日門へ御祈禱の料遣さる。○三十日三縁山 有章院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。土用に入りしをもて増上寺方丈會海使して草花一桶。熟瓜一籠をまいらせ御けしき伺はる。○此月

伊能勘解由忠敬蝦夷地測量の事を奉はり。府を發して彼地に赴く。
〔休明光記卷二〕云。西丸御書院番頭津田山城守知行所百姓伊能三郎右衛門父勘解由といふもの。高橋作右衛門門人にて文學に通じ蝦夷地に至り測量せんとを願ふ。先頃堀田仁助をして海路の方位を測らしむといへどもいまだ陸路の測量あらざれば。則伺を願て彼地に至らしむ。寛政十二申年五月勘解由府を立て十一月歸り。測量の次第悉く圖にあらはして出し。則出雲守種周朝臣へ呈す。執政方も一覽し玉ひぬとて後に下し玉ふ。御役所に藏す。勘ケ由手當履醫師の通リ。二日銀五匁七分。

〔伊能東河墓碣銘〕云。君諱忠敬。字子齊。伊能氏。號東河。稱三郎右衛門。晚稱勘解由。北總香取郡佐原村人。原姓神保氏。南總武射郡小堤村神保貞恒之第三子。出買伊能氏。伊能氏世爲閩右族。大同中有諱景能者。知北總香取郡大須賀莊。居伊能村。因以氏焉。子孫蟬聯占其地。至永祿中。有諱景久者。始徙佐原。天正中爲居民。開肆廩貿易。實君九世祖也。高祖諱景利。曾祖諱昌雄。祖諱景慶。考諱長由。無胤。

伊能忠敬宛内與地全圖を著して

伊能忠敬五畿七道及江戸府内を測量す

胤。其配神保氏。君之從祖姑也。因以君爲嗣。長由蚤歿。産頗荒。君既來嗣。慨然以幹蠱爲志。听夕黽勉。守儉素。去奢靡。家衆百口。以躬率先。産稍々復。天明三年關東大餓。君爲發私儲。賑貸閭里。施及旁近村落。多所全活。六年又饑。嗣之如初。君嘗好星曆之學。其欲肆力從事也久矣。以家道未復故。因循數年。至寛政六年。決然委産於子景敬。身獨來都僑居。徧訪曆家。舉疑義。而叩問之。竟未釋然。及見高橋君東岡。始聞西洋曆法。理精數密。超越諸家。於是宿疑渙然氷釋。遂棄舊學。學之。多所發明。東岡之門。蓋不之於人。而推步測量之精。則獨推君云。寛政十二年庚申閏四月。官命君。測量北陸道及蝦夷地方東南沿海。以定地度。明年正月官賜君父子銀各十錠。許姓刀。賞其天明年内兩救窮餓也。享和元年三月命測量伊豆。和模。二總。常陸。陸奥沿海。六月又命測量出羽。三越。佐渡。能登。駿河。遠江。參河。尾張沿海。至文化紀元。集地方各圖進呈。其九月賞賜廩米。擢爲散手。屬日官。既而又命測量山陽。山陰。西海。南海四道。壹岐。對馬官道及沿海。十二年又命測量伊豆七島及箱根湖。尋測量江都府内。十四年四月府内圖成進呈。自寛政庚申至此閱十八年。五畿七道遐陬僻壤。無地不涉。盡測量而圖記之。後復有命。修定寓内與地全圖。及度數譜行程記。至文政元年。齡七十又四。疾。其四月十三日亟。殆不起。至四年七月。輿地全圖及譜記成進呈。以其九月四日。官追賞其功。厚賚孫忠誨。以旌之。君稟賦朴直。精力過絶於人。齡踰

伊能忠敬の著書

七旬。鬢霜皤然被_レ肩。而其意氣蓬勃。如_レ少壯人。每_レ測量命下。輒喜見_レ顔色。不日而發。乃躬歷_レ險阻。凌_レ海濤。奔走數十百里。風雨寒暑。未_レ嘗少沮喪。噫嘻何其氣之豪而事之勤也哉。所_レ著有_レ國郡晝夜時刻對數表。紀源術并用法。求割圖八線法。割圖八線表。紀源法。地球測遠術問答。凡若干卷。藏_レ存於家。君先閨長由之女。繼配桑原氏。皆先焉。得_レ三男二女。昆季並殤。仲子景敬家督。亦蚤世。孫忠誨承_レ重。墓在_レ淺草源空寺東岡君之塋側。以_レ遺託_レ也。君嘗俾_レ忠誨從_レ余游。忠誨才敏。箕業行將_レ有望。乃者件_レ繫其世系履歷。丐_レ余選_レ墓門之銘。嗚呼余文豈足以不_レ朽君_レ哉。雖然其請惓惓矣。不可_レ不_レ徇也。乃歷_レ叙之。係以_レ銘四章。俾_レ大書而深_レ刻之。其一曰。叩_レ天之關。極_レ地之輿。瘴烟毒霧。不能_レ爲_レ瘖。祁寒暑雨。不能_レ爲_レ癩。乃如_レ之人。罕見_レ其儔。其二曰。維昔夏后。跡遍_レ四陲。泥濘山楬。手胼足胝。八_レ年于外。思日孜孜。百世之下。維君似_レ之。其三曰。樹表亘線。縱橫步算。遠邇廣袤。靡_レ或毫升。保章分_レ野。何獮而繆。樞星定_レ度。孔彰且亘。其四曰。閱_レ十八年。行_レ數千里。一氣佻然。未_レ曾委靡。老而益壯。斃而後已。績勳_レ于世。銘惡乎埃。文政五年壬午嘉平月下瀨江都佐藤坦造。

○六月朔日月次の拜賀例の如し。書院番頭松平内匠頭康休紀伊國への御使命せられ暇たまふ。賜物金十枚なり。本多伯耆守正温子三彌正意。駿府城代杉浦丹波守正勝子直次郎はじめて見え奉る。淺草大護院一東一本獻じ住職を謝し奉る。○二日水戸中將治紀卿喪制はてしかばまうのぼり。制中御尋ねの御使を謝したてまつる。小普請より

大番に入るもの一人。○三日留守居曲淵甲斐守景漸子京都町奉行和泉守景露。信濃衆知久監物頼膺養子圖書助頼福はじめ。父死して家つぐもの七人。天守番の頭山川清右衛門英直老免して小普請となる。褒金を賜ふ。尾張中將の方より使して巢雀鷓一さ、げらる。○五日小普請より小十人組に入るもの十二人。○六日日光門主増上寺方丈に。御使もて暑氣を問はせたまひ楡重を遣さる。○七日使番大久保彦左衛門忠順病免す。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○九日東叡山 淨圓院殿靈牌所に安藤對馬守信成代參す。この日日光門跡公澄法親王より新蓮根をまいらせらる。○十一日臨時朝會あり。酒井修理大夫忠貫。神原式部大輔政永はじめ。參覲のもの二十一一人。○十二日三緣山 惇信院殿靈廟御詣雨にて延滞せらる。松平伊豆守信明代參す。○十三日臨時朝會あり。小笠原右近將監忠苗はじめ。就封のいとま賜はるもの二十四人。京都町奉行森川越前守俊尹金五枚。時服三。羽織をへ。初めて赴任のいとまたまふ。○十四日東叡山 有徳院殿御法會總督の事奉はりし安藤對馬守信成始め。寺社の奉行脇坂淡路守安董。勘定の奉行柳生主膳正久通山に赴くにより謁を賜ふ。○十五日山王の社へ御側高井飛驒守清寅代參す。御太刀一腰。黄金三枚薦めらる。徒頭して神輿護送せしめらる。吹上の御覽所へならせられ。山王祭祀の練物を觀給ふ。臺の上にも同じ。○十六日嘉祥の御祝例のごとし。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參す。東叡山 有徳院殿五十回御忌御法會初日にて。水

野出羽守忠友代參す。表右筆關牧之助勝尚同じ與頭となる。○十八日御法會千部讀經導師凌雲院某つかまつる。けふ中日にて紀尾のかたぐ菓子を進らせて御けしき伺はる。同じ事によて少老京極備前守高久御使して。日光門主に楡重をつかはされ。また備前守高久して總督はじめに御懇問あり。この日水黄門のもとへ御側本郷大和守泰行して。水菓つかはされ制中を尋問せらる。○十九日台曼陀羅供導師日門つかまつらる。此日御法會結願によて松平伊豆守信明代參す。同じ事によて御側因幡守長貴して。日門へ龍眼肉をつかはさる。西城小十人頭長田讃岐守守盈先手弓頭となる。小姓組佐野宇右衛門庸貞徒頭となり。寄合小笠原越中守宗準火災巡視命ぜられ。根來喜内正聖同じく本所深川の地巡視すべしとなり。勘定組頭に準じたる羽田藤右衛門保貞數年の精勤を褒せられ布衣の士に加へらる。大番戸田甚十郎直春老衰により番ゆるされ小普請に入寢金賜ふ。○廿日東叡山 有徳院殿靈廟に御詣あり。又御法會濟せられしによて。安藤對馬守信成御使して。日光門主に施物として銀二百枚。時服十を贈らせられ。僧侶中へも若干給ふ。○廿一日同じ事によて群臣皆出仕あり。總督安藤對馬守信成に時服七を賜ふ。日門。安樂心院宮より使もて菓子。生花。葛煎餅を獻る。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。信濃衆一人在邑のいとまたまふ。○廿五日端午に時服たてまつりし三家のかたぐはじめ。例のともがら。兩本願寺へ御内書をたまふ。 大納言殿よりは奉書をわたさる。○廿六日

有徳院殿御法會の事奉はりし寺社奉行脇坂淡路守安董。勘定奉行柳生主膳正久通時服。目付松平田宮榮隆同じく巻物二を賜ひ。その他奥表右筆のともがら賜物あり。○廿七日小十人服部金左衛門保貞同じ與頭となり。大番玉井藤右衛門祐徳淺草米廩の事奉はる。○廿八日細川和泉守立之。池田山城守政恭。參向公卿の館伴命ぜらる。納戸上野四郎資善。大番大岡久之丞忠辰代官の職となり。奥右筆眞崎彦左衛門保吉鐵砲玉藥奉行となる。

文恭院殿御實紀卷二十九 寛政十二年七月に
始り十二月に終る

○七月朔日月次の拜賀あり。永井山城守尙佐。大關伊豫守増輔。稻垣若狹守定計。酒井右京亮忠盡大坂城の加番にさしれいとまたまふ。又就封のいとま賜はるもの。牧野越中守貞喜はじめ五人。板倉周防守勝政子新十郎勝駿初見し奉る。僧侶二人紫衣入院を謝して東巻を獻ず。大番頭堀内藏頭直皓。同じ與頭及び番士等まで坂城戌役の暇給ふ。飛驒郡代小出大助照方初て任所への暇給ふ。時服羽織を下さる。○二日西城奥瘍醫員太田瑞玄明恒子察玄家業出精により。めし出されて番瘍醫となり二十人口下さる。○三日西丸書院番長坂忠七郎高景屋敷改奉はる。○四日槍奉行大久保遠江守教近子江七兵衛教富はじめ。父死して家つぐもの九人。日光門主七夕の御祝として。二種一

荷をまいらせらる。○五日大番與頭宮重傳六郎信銳老免して。小普請となり褒金を賜ふ。この日小姓組屋敷改奉はりし田付又四郎景利家事不正。そのうへ御番に應ぜずとて小普請に入れ御前をとどめらる。○七日七夕の御祝として。三家の方々始め。例のともがら使してものく鯖料たてまつらる。半井大和守成美弟又吉。さきに子傳吉を召連家出せしが近頃立歸りしにより。又吉は家に籠置。傳吉も卒爾なきやうにとの事を命じ置しが。こたび兩人共再び家出致せしを急速にも聞へ上ず。旁不調法の事によて。御前を憚からしめらる。○七日七夕の御祝のごとし。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。小普請奉行松平淡路守信行清水郎その他修營巡視の事奉はりしをもて時服たまふ。西城奥の祐筆蘆屋源五左衛門利宇本城にうつり。同じ見習平岡又兵衛資貞西城奥祐筆となる。○九日水戸中納言治保卿喪闋はて。兩御所より制中御たづねありしを謝せられてまうのほり。老臣に謁し退てらる。小姓組秋田平大夫季泰老免して小普請となり褒金を賜ふ。○十一日奏者番本庄甲斐守道利病免して。菊の間椽頼詰となさる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。小姓組久保田十左衛門義和西城小十人頭となり。同番士小尾直三郎信一おなじ與頭となる。この日父致仕して家づくもの多し。○十三日駿河國田中城主本多伯耆守正温病により致仕し。その子三彌正意に領地四萬石を襲しむ。この正温は紀伊守正供が子にして。安永六年八月五日家つぎ。天明二年六月朔日初見したてまつり。

仕本多正温致

その十二月愈舊し。けふ致仕して後紀伊守とあらため。天保九年閏四月廿日とし七十三にして卒しぬ。○十四日紅葉山 諸廟に御詣あり。東叡山 至心院殿靈牌所に御側平岡美濃守頼長代參す。○十五日東叡三縁の兩山に盆料つかはさる。事舊のごとし。この日大番戸田庄左衛門政儀おなじ與頭となさる。○十六日小十人勘定小普請より。表右筆となるもの十人。小普請より西城同職に入もの一人。又西城表右筆泉本庄左衛門忠亮本城の奥右筆を見習はしめらる。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏教代參す。○十八日日光山三社 正遷宮濟しによて。高家六角主殿頭廣胖御使して。日光門主に銀五十枚をつかはさる。○十九日大番頭遠藤但馬守胤富時服。金。羽織をへ坂城へのいとまたまふ。病によりけふにおよぶ。○二十日駿河國小島の領主松平丹後守信義病により致仕し。子寛之進信圭をして遺領一万石を襲がしむ。この信義は。

仕松平信義致

○廿一日高家大友式部大輔義珍老免によて時服五褒賜あり。○廿二日紀黄門へ驛使もて雲雀をつかはさる。○廿三日水尾兩卿。水世子へも同じ品を進らせらる。徳川前黄門へも驛をはせて下さる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備前守高久代參す。○廿五日松平加賀守治脩はじめ。使番して御鷹の雲雀を下さる。者廿人。奥にて老臣へおなじ品を給ふ。大番組頭三田彦次郎守壽病免す。○廿七日西城小十人與頭松井忠左衛門政照天守番の頭とせらる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。上杉彈

正大弼齊定はじめ参観のもの四人。三浦志摩守前次就封のいとまたまふ。本多三彌正意。松平寛之進信圭共に封つぎしを謝し獻りものす。細川能登守利庸子龜之丞利國初見し奉る。勘定組頭甲斐庄武助正方西城裏門番の頭となさる。日光奉行大久保内膳正寅初て赴任の暇たまひ。叙爵して正となる。賜物舊になじし。使番倉橋内匠久道。西城小姓組大岡次郎兵衛直孝大坂目付にさし暇給ふ。賜物舊に同じ。奥右筆布施藏之丞毅。蘆屋源五左衛門利守御前をとめらる。こは紀の國に御使命せられし書院番頭松平内匠頭康休使はてしけふ謁見に出づべきに。その儀なければ不調法を咎めらる。○廿九日三河國瀧山 御宮正遷宮により高家織田主計頭信山金。時服。羽織をへ代参の暇たまふ。○八月朔日當賀例のごとし。書院番頭松平内匠頭康休伊國よりかへり謁す。○二日寺社奉行吟味物調役にて組頭に准じたる羽田藤右衛門保定おなじ與頭となり。西城廣敷番の頭築山文左衛門美雅本城にうつる。兩番に准じたる庭番馬場吉之助通高西城廣敷番の頭となる。○三日濱の庭園に成らせらる。大川にして徒士の水泳并天地丸を觀たまふ。一橋邸用人中村永左衛門信之養子兩番格庭番與八郎惟寅はじめ。父死して家つぐもの五人。○五日小姓組川井次郎兵衛久徳屋敷改とせらる。この日峯姫君御色直しにより。西城より御側藤室肥後守良峯して本城へ鮮肴(四下六字)。また西城より御側松平佐渡守康道して。峯姫君の方へ一種千疋つかはさる。萬年 ○六日釋奠により御側岡部内幡守長貴代参し。太刀金御進薦あり。 大納言殿よりは御側松平佐

渡守康道代参し。おなじく御進薦あり。○八日東叡山 澄明院殿靈廟に安藤對馬守信成代参す。○九日百人組の頭室賀兵庫正細病免して寄合となる。○十日久能に有し榊原越中守照郷いとまたまふ。新番新見藤左衛門正温老免して小普請となり褒金をたまふ。○十一日大番門奈半左衛門直暉其與頭命せらる。小普請より腰物かたへ入もの一人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に太田備中守資愛代参す。火消役本多修理忠盈百人組の頭となる。○十五日月次の拜賀例のごとし。大久保安藝守忠眞はじめ参観の者八人。堀田大藏大輔正順はじめ。就封の暇たまはるもの十一人。使番神尾五郎三郎春始駿河國府の目付にさし暇給ふ。上州世良田長樂寺。莊嚴寺權僧正住職并權僧正。東叡山寒松院 御宮別當職。觀成院も別當職を共に謝し奉る。○十七日紅葉山 御宮に安藤對馬守信成代参す。大久保安藝守忠眞。大番頭小笠原近江守貞温奏者番となり。小十人頭黒川與市成匡徒頭となり。寄合拓植左京亮英成小十人頭となる。○十八日小普請より納戸番に入もの一人。○二十日東叡山 心觀院殿靈牌所に安藤對馬守信成代参す。○廿二日小普請より書院番に入もの十三人。○廿三日日光門主山にのぼらるにより。高家戸田備後守氏侍御使して梨子一籠をおくらせらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に井伊兵部少輔直朗代参す。この六月 有徳院殿御法會濟みて御登山により。日光門主まうのぼられ。御饗應ありて御對面あり。その他僧正院家僧中おなじくまうのぼり饗下さる。高家織田主計頭信山三河國瀧山よりか

井上正廣の
事蹟

へり調す。寄合火災の地巡察奉はりし一柳獻吉在郷火消役となる。○廿五日常陸國下妻の領主井上遠江守正廣卒して子なきにより。請ふまゝにその弟内膳正建を嗣子とし遺領一萬石をつがしむ。この正廣は石見守正榮が子なり。天明七年十二月十五月初見したてまつり。寛政元年三月十四日家つぎ。その冬叙爵し。おなじ二年二月十五日はじめて就封し。同三年九月二日光祭祀奉行にさゝれ。同五年正月廿七日坂城加番奉はり。同八年八月十六日田安門の警衛し。ことし七月四日二十九歳にしてうせぬ。○廿六日備前國岡山の支封池田信濃守政直病により致仕し。その子陽助政養をして領地二萬五千石をつがしむ。此政直は故信濃守政方が子にして。寛政三年十月十五日初見の禮をとり。同十二年八月廿六日信濃守政直致仕の日封をつぎ。同じ年十月日比谷御門戌となり。同じ年十二月十六日諸大夫内匠頭と稱し。享和三年正月參向公卿館伴を奉はり。のち猿江本所御藏警衛し。文化十四年四月常盤橋門の戌役奉はり。文政二年七月三日四十三歳にして身まかりぬ。弓矢鎗奉行兼天文方吉田勅負秀升病免す。其子天文方見習勇太郎秀賢をして父の本職たらしむ。○廿八日遠江國相良の領主田沼左衛門佐意壹卒す。子なければ請ふまゝに實弟鎌之丞意信をして遺領一萬石をつがしむ。この意信は山城守意知が二男にして。寛政八年十一月十九日兄淡路守意明が嗣子となりし日家つぎ。その年十二月朔日初見し奉り。その月十九日叙爵して左衛門佐と改め。同じ九年正月坂城加番命ぜられ。十二年六月竹橋門の戌り奉はり。その八

池田政直致
仕

田沼意壹卒

林辻齋等命
を奉じて後
義録を編す

月十七日卒しぬ。とし二十一。書院番頭菅沼伊賀守定候大番頭となり。寄合大久保玄蕃忠陽火災巡視命ぜらる。○廿九日孝義録編集功なりしをもて。儒臣林大學頭衡に時服をたまひ。その他西城奥詰儒臣柴野彦助邦彦銀十五錠奥にて下さる。おなじ事にて尾藤良助孝肇。古賀彌助樸。山上藤一郎定保銀十五枚づゝ賜ふ。其他この事にあづかりし輩も賜物差あり。此書は先に命令を下され。公料私料より忠孝奇特の人々の行狀を書上しを。學問所にて編集ありしを印行命ぜられ。書肆にて賣る事をゆるさる。小普請湯川安道日光門主御登山により。驛路警衛の事命ぜらる。○九月朔日伊達遠江守村壽參觀す。大久保山城守忠喜。分部左京亮光實。土方大和守義苗。永井信濃守直方坂城加番はてゝかへり調す。加藤出雲守泰賢。寄合酒井主馬忠懿。酒井玄蕃忠善。賜物例のまゝにして駿府加番にさゝれ暇給ふ。井上内膳正建襲封を謝し物を獻ず。大番頭諏訪若狹守頼伊。中坊河内守廣看。同じ典頭番士まで在番はてゝ歸り調見す。日光奉行有田播磨守貞勝も山より參謁す。參向の公卿着到により。松平伊豆守信明御使して慰勞せらる。高家戸田土佐守氏明添てまいる。○二日吹上の庭園に成らせられ。それより神田橋一橋の兩邸へよぎらせらる。重陽の佳儀として三家の方々始め。萬石以上。兩本願寺。例の輩より使して時服まいらせらる。大納言殿へも同じ。○三日公卿引見により。溜詰。普第の大名父子。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。白木書院へ出まし。勅使勸修寺前大納言經逸卿。千種前中納言有政卿。院使梅小路前中納言定福

勅院使下向

勅定吟味役
小笠原長幸
勅定奉行
勤定手方
任じ勝手
となる

卿御對面あり。歳首の御祝として。 禁裏より 兩御所へ太刀。黄金三枚。 仙洞よりおなじく二枚。 中宮より同じく一枚まいらせらる。はて、公卿自の拜賀あり。攝家。門跡。勾當内侍の使者。公卿の家士自分。樂人總代。冠帽末廣師にいたるまで物獻じ見えたてまつる。また 仙洞より御賀の御祝として。 御所へ絹十匹。三種二荷。 大納言殿へ縮緬五卷。二種一荷まいらせらる。御對面濟せられしにより。高家大友因幡守義方御使として。公卿のもとにおのゝく鹽鶴一匣一荷を送らせらる。○四日公卿饗應の猿樂あり。水戸中納言治保卿。おなじく世子。溜詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番父子。諸番頭。諸物頭。布衣以上。法印法眼の醫まうのぼる。水戸の兩卿。公卿御對面あり。御次伺公のともがら拜謁はてし。少老井伊兵部少輔直朗舞臺に出で。その大夫に申樂はじむべきよし傳ふ。番組は翁三番叟。嵐山。頼政。六浦。鳥頭。祝言高砂。狂言二番。粟田口。禰宜山伏なり。この半に大夫には奏者番して。唐織時服纏頭し。その他へは要脚給ふ事舊のごとし。席々にして饗を賜ふ。○五日 大納言殿水痘御惱あり。御輕症により出仕のともがらおのゝく賀したてまつる。勘定吟味役小笠原三九郎長幸勘定奉行となり。廩米百俵の處。加恩ありて實祿五百石となり。國用の事司るべしとなり。西城小姓組與頭高林彌十郎利直先手筒頭となる。○六日小姓組與頭曾根隼之助。昌子八十次郎はじめ。父死して家つぐ者十三人。○七日溜詰。普第の大名父子。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。白木書院に出まして 勅使 院使御對

淺野長員致

稻葉弘通致

面あり。歳首御祝の御返詞仰合られ暇の賜物たまふ。 大納言殿。 臺の上よりおなじ物たまふ。はてし、 仙洞より御賀祝の御返詞を。梅小路前中納言定福卿に松平伊豆守信明これを傳へ。 大納言殿よりは水野出羽守忠友をして傳へらる。また攝家門跡の使者。公卿の家司等すべて賜物差あり。○八日東叡山 淺明院殿靈廟へ御詣あり。同じ山の 嚴有院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○九日重陽の佳儀例のごとし。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に太田備中守資愛代參す。公卿發途により。細川和泉守立之。池田山城守政恭まうのぼる。安藝國廣島支封松平近江守長員病により。宗家安藝守齊賢よりも請しまゝに致仕し。その子兵部長容にその祿三萬石をつがしめらる。この長員實は但馬守宗恒の三男にして。故兵部少輔長喬の養子となり。明和七年二月四日家をつぎ。同じ年二月十五月初て見え奉り。十二月十六日爵賜りて近江守と稱し。のち左京亮とあらむ。同じ八年七月公卿の館伴奉はり。其後しばらくにして。寛政三年四月櫻田組防火奉はり。おなじ十一年十月聖堂構造の助役し時服十賜はり。家士等にも賜物あり。文化五年六月廿日六十四歳にして終をとれり。又豊後國臼杵の城主稻葉能登守弘通多病により致仕し。その子伊豫守雍通に領地五萬六十五石餘をつがしむ。この弘通は故能登守泰通が子にて。明和五年八月家をついで臼杵の城賜はり。七年二月十五月初見し奉り。その冬愈爵し。其後公卿館伴を兩度奉はり。寛政元年三月濃勢兩州の河渠浚利助けしにより時のふく賜はり。及び家臣等にも時服白銀く

だし賜はり。同じ四年四月神田橋門の成を命ぜられ。其後大手組火防を奉はり。けふ致仕して丹波守とあらため。文化八年七月剃髪して伊賀入道と稱し。文政元年十月廿八日六十六歳にて終りをとれり。この日西九小十人佐久間三郎兵衛信輝おなじ與頭となる。○十一日高家中條河内守信義日光山 御宮代參使命せられ暇たまふ。祭祀の奉行渡邊大學頭春綱またおなじ。安藤對馬守信成日光山自拜として發途により謁見あり。御手づから御羽織を下さる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○十三日 大納言殿水痘御酒湯により。御祝としてまうのぼるともがら宿老に謁し退く。同じ御祝に 御所より松平伊豆守信明御使して 大納言殿へ綿百把。二種一荷。又女房使して 御臺所より綿五十把。二種一荷。峯姫君より鮮鯛。 大納言殿より 御所へ水野出羽守忠友して二種一荷。 臺の上。峯姫君へ鮮鯛。 御所より 臺の上に鮮鯛。 大納言殿へ二種一荷。峯姫君より鮮鯛。 御所より淑姫峯姫兩君へおなじ。 大納言殿より淑姫兩姫君へも同じ。 御臺所より淑姫兩姫へおなじ。 大納言殿より一橋右衛門督。民部卿。並右衛門民部兩卿籠中。貞章乘連兩尼へ同じ。 大納言殿よりらくの方へ巻物五。一種。 大納言殿へらくの方より鯛鮮を進らせらる。坂城藏奉行正木直吉義知弓矢鎗奉行となる。又納戸より新番にうつるもの一人。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に太田備中守資愛代參し。 清揚院殿靈廟に奏者番大久保安藝守忠真代參す。西城書院番頭淺野

佐渡守長富本城にうつり。小姓組番頭近藤淡路守政明西城書院番頭となり。小普請組の支配山口勘兵衛直良小姓組番頭となる。和州寶生寺曉惠湯島根生院住職となる。○十五日月次の拜賀例の如し。松平上總介齊政。松平遠江守忠吉參觀す。毛利直次郎元義。山内攝津守豊泰子松太郎豊武初見したてまつり。松平兵部長容家繼しを謝し。太刀金巻物獻す。三河國瀧山 御宮修復を謝して。別當青龍院一東一本獻し見えたてまつる。高野山僧侶も在番代を謝し奉る。浦賀奉行秋元隼人保朝時服羽織をへ任所への暇たまふ。○十七日紅葉山 御宮。 諸廟に御詣あり。○十八日 御臺所吹上に成らせられ。夫より一橋神田の兩邸へよぎらせらる。水尾の兩卿使して新茶まいらせらる。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。 高家中條河内守信義。祭祀の奉行渡邊大學頭春綱日光山よりかへり謁す。○廿一日吹上庭園に成らせられ田安邸に過らせらる。○廿二日安藤對馬守信成干鯛をさしげ。日光山拜禮はてし歸り謁す。松平加賀守治脩新茶獻らる。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。日光門主山よりかへられしかば。高家宮原長門守義潔して慰勞せらる。○廿五日臨時朝會あり。田村紀三郎宗顯初見し奉る。又寄合堀田幸之助一〇。宮城三左衛門和中。西城旗奉行永井監物白衆孫平八郎。作事奉行三上因幡守季寛子吉郎季富。使番小菅猪右衛門正容子徳太郎。徒頭遠山金四郎景普養子九十郎景善。佐野宇右

衛門庸貞子專之助。小納戸永田權八郎尙賢養子釜之助。寄合松平圖書勝政養子政之助も同じく見え奉る。其他いと多し。使番仁賀保孫九郎誠善。書院番脇坂甚兵衛安崇坂城目付はて、歸り謁見す。日門御歸寺にて菓積を獻す。○廿六日日光門主まうのぼられ御對面あり饗給ふ。○廿七日高田のほとり成らせらるべき處。雨により延られて尾邸の御守殿のみへならせらる。淑姬君へ純子十卷。中將の方へ八丈縞十反。聖聰院尼へ羽二重紅白十疋。琴姫へちりめん七反。ちのく魚をへてつかはさる。○廿八日日光山本坊修營功なりしにより。日光門主使して昆布一匣。巻物五をまいらせて謝し申さる。○廿九日日門へ使して本月御祈禱料を進らせらる。○晦日三縁山 有章院殿靈廟に戸田采女正氏敷代參す。番醫奈須玄竹恒徳書籍たてまつりしにより白銀を賜ふ。○十月朔日月次の拜賀例のごとし。王子村のほとり成らせらる。御物員鶉九羽。烏一羽。堀田攝津守正敦従ひて鶉一羽を捉得らる。西城少老青山下野守忠裕大坂城代となり従四位下に叙せらる。湯島根生院某。下谷廣徳寺某入院を謝し奉る。○二日玄猪の御祝規のごとし。○三日昨夜玄猪の御祝事なく濟ませられしにより。三家の方々使して賀し申さる。この日勘定留役堀内藤兵衛氏熙^{後藤}坂城藏奉行となる。○四日内藤豊前守信敦。朽木土佐守倫綱奏者番となる。○五日御生誕の御祝として。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。拜謁以上。上直のともがら席々にして餅酒を賜ふ。奥にして散樂あり。例の輩祝る事を允さる。樂は國栖。巴。野宮。竹雪。鞍馬天狗。弱法師。舟辨慶。

西丸若年寄
青山忠裕大
坂城代に任

狂言末廣がり。二千石。不聞座頭。富士松。法師が母なり。○六日先手筒頭山岡十兵衛景寧子彌五郎。西城裏門番の頭竹本藤兵衛正譽子勇吉。徒頭三田權之助守貴子左兵衛はじめ。父死して家つぐもの十七人。御側衆平岡美濃守頼長養子隼人政恒めし出されて西城小姓となり。廩米五百俵下さる。また日光山諸堂社修理助役の事。石川主殿頭總博。藤堂左近將監高允。森右兵衛佐忠贊。六郷佐渡守政速に命ぜらる。主殿頭總博。佐渡守政速在邑により驛をはせて傳へらる。○七日日光山諸堂社修理の事奉はりし勘定奉行柳生主膳正久通時服三。大坂町奉行森川越前守俊尹金三枚。日光奉行有田播磨守貞勝同じく七枚賜ひ。越前守俊尹は日光奉行たりしときを賞せらる。所屬のともがらちのく賜物差あり。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。寄合指揮奉はりし本多兵庫成存小普請組の支配となる。○十日先手筒頭奥田主馬高寛火賊捕盜の事命ぜらる。紀伊中納言治寶卿には。有徳院殿御法會のをり香資たてまつられしにより。その家司めして奉書をわたさる。○十一日一橋門外閑地へ成らせられ。御みづから鷹もて雜鴨小鷺を狩給ふ。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十四日 文昭院殿靈廟に御詣あり。○十五日月次の拜賀例の如し。松平紀伊守信彰。稻葉長門守正備參観す。青木甲斐守一貞。寄合齋藤主殿三英。上田彌右衛門義茂駿河國府城加番はて、歸り謁す。東叡山寂陽院東本獻じ院家を謝し。湯島根生院色衣を謝し奉る。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參

浦賀奉行秋元保朝四丸小姓組番頭松平輝和卒

采女正氏教代參す。浦賀奉行秋元隼人保朝西城小姓組番頭となる。上野國高崎城主松平右京大夫輝和卒せしにより。其養嗣美濃守輝延して遺領八萬二千石を襲しむ。この輝和は故右京大夫輝高の第二子にして。兄下野守輝行身まかりしかば安永四年七月五日嗣子となり。幼名長三郎又酒之丞といふ。その年十一月十五日 凌明院殿を拜し奉り。同じ年十二月十一日從五位下美濃守に叙任し。天明元年十一月十一日襲封し。其二十三日右京亮と改め。同じ三年九月朔日奏者の事奉はり。明の年四月廿六日寺社の奉行を兼。寛政四年八月十五日從四位下に叙し。同じ十年十二月八日大坂の城代に進み。翌十一年九月十六日左京大夫と改稱し。今年九月二十日任所にして身まかる。年五十一。○十三日濱の庭園に成らせられ。御みづから鷹もて鴨鷺を狩らせ給ふ。小普請醫村岡玄超良弼番醫となる。仙臺駒御牽入ありしによて。松平政千代の家人等時服白銀を賜ふ。この日使番して酒井左衛門尉忠徳はじめ雁給ふもの十三人。○十四日寄合松平圖書勝政養子政之助はじめ。父致仕して子家つぐもの二十九人。船手頭見習向井左門正直本職となる。○十五日月なみの拜賀例のごとし。大村信濃守純鎮參觀す。表高家島山二郎四郎國傳子榮三郎初見したてまつる。表右筆鳥居市十郎正房奥の職を見習はしむ。又池上本門寺束卷を獻じ住職を謝す。この日吹上へ成らせられ南部馬御覽あり。○十六日西城先手筒頭花村三郎兵衛正利病免して寄合となる。使番して御鷹の雁たまはるものは。松平下總守忠和はじめ五人。○十七日紅葉山 御宮に太

新番頭水野忠良浦賀奉行に任ず

田備中守資愛代參す。日門より口切の茶に蜜柑をへて獻ぜらる。この日恭將某のものを召して。その技を御覽ぜらる。○十九日寄合武田河内守信親おなじ肝煎となる。小姓安西徳太郎正倫小納戸にうつる。けふ吹上にして諸番士小普請のともがら騎射御覽あり。○二十日新番頭水野伯耆守忠良浦賀奉行となり。西城小姓酒井但馬守忠宣新番頭となる。きのふ騎射御覽ありしをもて。その師寄合小笠原平兵衛常方に時服をたまひ。射手のともがら二十五人おの／＼黄金二枚を賜ふ。○廿一日西城書院番大久保三十郎忠休老免して小普請となり褒金を賜ふ。關東郡代手附御勘定與頭勤方西野嘉内久備同じ組頭となる。○廿二日小寒に入れば。御けしきうかゞひとして三家のたがた使まいらせ。及び溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのほり御起居を候し奉る。○廿三日木下川のほとり放鷹として成らせらる。御物員は眞鴨眞雁なり。この日日門より使もて菓積獻られ。また増上寺方丈使僧して。生花蜜柑をまいらせ寒氣を伺ふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備前守高久代參す。小納戸伊藤左衛門恒弘二丸留守居となり。官料はその儘給ふ。○廿五日去りし廿三日御成のをり鳥射し番士二人に時服を賜ふ。老臣はじめ大坂城代青山下野守忠裕御鷹の雁を奥にて賜ふ。この日下野守忠裕任所へ赴くにより。金壹萬兩恩貸せらる。○廿六日作事奉行平賀式部少輔貞愛。目付松平田宮榮隆。勘定吟味役澤次郎右衛門幸純。増上寺本堂山門その他修復の事命ぜらる。この日勘定がたより小十人組へ入るもの一人。○廿八日伏見奉行

松平但馬守昌陸西城御側となり。菊の間椽頼詰加納遠江守久周伏見奉行となる。○三十日留守居駒木根大内記政永。小普請奉行石野筑前守範堯。大奥小座敷その他修復の事奉はりしをもて時服黄金を賜ひ。下吏等みな賜物差あり。○十二月朔日月次の拜賀例のごとし。土井三郎利謙。大村信濃守純鎮子春之進純昌初見したてまつり。御側大久保豊前守忠温御使し。日光門主に楡重を贈らせられ。増上寺方丈に使番玉虫八左衛門千茂して楡重をおくらせらる。これ寒入を慰せられてなり。○二日使番朽木左京金綱思召旨あるをもて。職とかせられ寄合となる。○三日濱の庭園に成らせられ。鷹もて小鴨十一羽。雛鴨二羽捉得給ふ。此日歳暮の褒賞賜ふもの多し。○四日小姓組番頭南部肥前守信喜子主税信鄰。寄合佐野右兵衛尉茂幸子主水茂親。鍋島伊豫守直賢養子雄之助はじめ。父死して家つぐ者十人。歳暮の賞あり。○五日けふも歳抄褒賞例の如し。去りし三日御成のをり鳥射し番士時服を賜ふ。○七日少老のともがらへもの御鷹の雁を賜ふ。又酒井修理大夫忠貫はじめ。御鷹の雁賜はる者三人。○八日東叡山浚明院殿靈廟に太田備中守資愛代參す。先手筒頭池田雅次郎政貞火賊捕盜の事命ぜらる。○九日小普請より小姓組に入もの十人。御使して日光門主へ蜜柑をおくらせらる。水黄門。尾水世子の方へもおなじ。増上寺方丈へもおなじくつかはさる。水戸中納言治保卿へ小姓組番頭高木伊勢守守富。尾張中將齊朝卿へ小姓組番頭山口和泉守直良して。御鷹の鶴をつかはされしにより使もて謝せらる。又紀伊中納言治寶卿恩

賜の鷹にて捉へられし鶴を驛をはせて獻せらる。この日大久保安藝守忠真はじめ十五人へ。御鷹の雁を下さる。歳抄の褒賜あり。○十一日歳暮の御祝として。三家の方々はじめ。萬石以上。兩本願寺。例のともがらより使して時服を獻らる。大納言殿へもおなじ。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。大番與頭坪内久四郎定英西城先手筒頭となり。西城書院番會我七兵衛助弼おなじ與頭となる。三河國瀧山 御宮諸堂社修理の事奉はりし諸職賜物差あり。同じ修復のうち警衛つとめし土井三郎利謙が家人等また賜物あり。○十三日小松川のほとりへ放鷹として成らせらる。御拳は眞雁朱鷺を狩得給ふ。掃塵例の如し。使番石河甚太郎政央病免して寄合となる。疊奉行萬年三左衛門頼慶田安邸郡奉行となる。此日水世子のもとへ御鷹の鶴を。書院番頭永井大和守直諒して遣さる。○十四日三縁山 桂昌院殿 月光院殿靈牌所修復の事奉はり檢視つとめしをもて。作事奉行三上因幡守季寛。目付小長谷和泉守政良。勘定吟味役岡松八右衛門久稠ものく時服を賜ふ。其他所屬のもの賜物差あり。○十五日月次の拜賀例のごとし。宗對馬守義功はじめ參觀のもの八人。松平右京亮輝延封繼しを謝し奉る。那須衆一人參謁す。使番神尾五郎三郎春始駿河國府の目付はてしかへり謁す。日門使して初雪により御けしき伺ふ。○十六日松平左兵衛督信充侍從に任ず。また從五位下に叙するもの二十四人。毛利直次郎元義は甲斐守。本多三彌正意は豊前守。田村紀三郎宗顯は右京大夫。松平兵部長容は近江守。池田

陽助政養は内匠頭。井上内膳正建は正。田沼鎌之丞意信は主計頭。松平甲斐守保光子將八郎保泰は美濃守。牧野越中守貞喜子幸之助貞爲は日向守。松平周防守康定養子軍次郎康任は左京亮。板倉周防守勝政子新十郎勝峻は左近將監。永井日向守直進子虎之助直與は左京亮。大村信濃守純鎮子春之進純昌は上總介。小姓組番頭山口勘兵衛直良は和泉守。西城同職秋元隼人保朝は正。勘定奉行小笠原三九郎長幸は和泉守。小姓岡村彌右衛門直恒は備後守。安藤郷右衛門惟久は淡路守。鳥居政之進忠容は越前守。松平吉之丞正賢は佐渡守。西城小姓大久保仙之助康高は筑後守。戸川熊五郎安悌は隠岐守。飯田友之助易直は讃岐守。平岡隼人政恒は石見守。小納戸戸川藤十郎安倫は筑前守となる。其他尾張中將齊朝卿及び松平加賀守重脩の家士。請ふまゝに叙爵せしめらる。また布衣の士に加はる者十八人。小普請組支配本多兵庫成存。火消役一柳獻吉直郷。西城先手筒頭坪内久四郎定英。使番逸見左近長祥。西城書院番與頭曾我七兵衛助弼。長田六左衛門繁昌。富永仙次郎直之。小姓組與頭小尾直三郎信一。同城小姓組與頭小菅新五左衛門正幸。徒頭遠山金四郎景晋。佐野六郎右衛門庸貞。西城小十人頭久保田十左衛門義和。船手頭向井將監正直。勘定吟味役岡松八右衛門久稠。澤次郎右衛門幸純。金澤瀬兵衛千秋。小納戸安西徳太郎正倫。西城奥儒柴野彦助邦彦。民部右衛門兩卿の請ひ奉りしにより。丸山勝五郎政俊。倉林五郎右衛門房博。石守伊織なり。法眼に叙するもの奥醫廣井宗壽盈顯。笠原養玄なり。けふ初雪降しかば。三家の方々。及び水

世子使して物獻し御けしき伺ふ。又西城小十人一人。勘定一人納戸へうつさる。この日松平加賀守治脩はじめ。御鷹の雁下さる者六人。けふも歳暮の褒賞あり。○十七日紅葉山 御宮 諸廟に御詣あり。歳暮の御祝として。日光門主使して二種一荷まいらせらる。○十八日濱の庭園に成らせらる。御拳は鴨若干狩給ふ。日光門主山にのぼらるゝにより。高家大澤下野守基季御使して。時の服に枝柿を贈らせらる。○十九日使番して松平豊後守齊宣へ御鷹の鶴賜ふ。この日奥にて申樂の御遊あり。樂組は江島。清經。吉野靜。百萬。融。狂言は麻生。止動方角。節分なり。例のごとく觀覽あり。○二十日日光門主ちかく御登山により。まうのぼられ御饗應あり。御感冒によて御對面はし給はず。故尾張大納言宗睦卿小祥の忌により。御側白須中斐守政雍御使して。中將齊朝卿に檢重を贈らせらる。齊朝卿使して謝したてまつらる。○廿一日小普請より大番に入る者八人。○廿八日松平豊後守齊宣父致仕榮翁重豪へ御鷹の鶴を使番して賜ふ。○廿三日學校巡視の事奉はり。規矩も立しにより。目付小長谷和泉守政良。羽太庄左衛門正養に時服二を賜ひ。儒員林大學頭衡三を賜ふ。その他の儒官も賜物差あり。この日高家横瀬駿河守貞臣子兵庫貞經。西城御側松平佐渡守康道子正次郎。寄合新見勘左衛門正房子斧次郎。表高家由良新六年貞經子信丸はじめ。父死して家つぐもの廿五人。本所彌勒寺某護持院住職たらしめらる。又大番坂本岩次郎貞秀同じ與頭となる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。○

廿五日 大岡主膳正忠正奏者番となる。留守居駒木根大内記政永子孫助。書院番頭安藤伊豫守直之子空之助。勘定奉行柳生主膳正久通養子求馬。小姓武川讚岐守恒前子隼之助。留守居番成瀬吉藏正延子安次郎。先手頭谷主計頭衛明子鍊之助。久松忠次郎定安子榮三郎定國。瀬名傳右衛門貞刻養子彦次郎。西丸目付高木又兵衛次賢養子力三郎。細井豊前守正房子富之丞正愛。使番玉虫八左衛門千茂子太郎助。西城書院番組頭長田六左衛門繁昌養子求馬繁茂。同城小姓組與頭小菅新五左衛門正幸養子乘允。徒頭蜂屋權大夫清茂子捨三郎清行。小十人頭拓植左京亮英成子哲之助。西城同職江島平左衛門季寛子寅之丞。久保田十左衛門義知子金四郎。同城小納戸宇都野金右衛門正用子與五郎。酒井作右衛門政長養子與九郎。梶久五郎忠郷子亘。一橋邸用人倉林五郎右衛門房博子鍊五郎はじめ。初見の禮とりし者と多し。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側本郷大和守泰行代參す。大工頭江原深五郎墨奉行となり。作事下奉行牧定五郎大工頭となる。書院番組頭井戸十右衛門弘俊布衣の士に加へらる。○廿七日千住のほとり成らせられ。御みづから鷹もて黒鶴。雁。五位鷲を捉得給ふ。本城後閣前銅多門。その他修復の事奉はりし作事の奉行三上因幡守季寛時服を賜ひ。所屬の吏賜物差あり。また銀座改正の事つとめし勘定方の者同じく賜物あり。○廿九日去りし廿七日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○此月攝州四天王寺雷火悉く焼失。泰平年表。○此年より駿州富士山に女人登山を許す。同上

攝津四天王
寺焼失す
富士山女人
登山を許す

文恭院殿御實紀卷三十 享和元年正月に始り六月に終る御齡二十九

享和元年辛酉正月元日群臣歳首の拜賀恒例の如し。○二日三日舊に同じ。謠曲はじめ規のごとし。この日御乗馬はじめ濟せられしにより。厩かたのもの賜物あり。○五日濱の庭園に成らせられ。御みづから小嶋五羽。真嶋一羽。雜嶋二羽捉得給ふ。○六日僧侶洞官の拜賀舊規の同じ。○七日若菜の御祝規のごとし。伊勢代參使高家大澤下野守基季。京の御使戸田土佐守氏明。日光山代參使大友因幡守義方。ともに 大納言殿御使をも兼命せられ暇給ふ。大坂城代青山下野守忠裕赴任により。備後國正興の御刀に御馬時服をへ下さる。小姓組番頭石河壹岐守貞通は下野守忠裕引渡として登坂せしにより。金十枚たまひ共にいとまたまふ。○八日東叡山 嚴有院殿。 浚明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○九日さりし五日濱園にならせられしをり鳥射し番士二人に時服を賜ふ。○十日東叡山 諸廟御詣雨にて延らる。 常憲院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十一日具足の御祝例におなじ。中奥番仙石次兵衛久貞。小姓組戸田大膳氏昌。雨宮清三郎正安。西城小姓組井上仲正章。書院番石野新左衛門廣温。中根勘解由正長。神尾安次郎元孝。のち市左衛門。西城書院番桑山十郎右衛門晴喜使番となる。連歌はじめ恒例のごとし。松にしれ國榮へたる御代の春。昌耕す民の多き里々。御雪問そふ陌廣くも明初る。其又吹上の御庭にして弓場はじめあり。射手のともがら

當座の賜物例におなじ。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代参す。さふの射手の番士に褒金を賜ひ。其師小笠原館次郎持齡に時服を下さる。此日大塚護持院僧正に任せらる。○十三日小松村の邊にて鷹つがはせられ雁鳴を狩らせらる。御厨所は正福寺にて餉参らせたまふ。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に安藤對馬守信成代参す。儒員古賀彌助樸教授の事精研によて時服を賜ふ。○十五日月次の拜賀例のごとし。僧侶洞官等の歳首の賀また同じ。今朝山王の社へ御側白須甲斐守政雍代参して太刀金進薦せらる。歳首を賀する僧正洞官の輩多し。この日水黄門尾中將のかたへ御拳の雁各一羽を使用して進らせらる。此日淑姫君歳首をほがせ西城へいらせられ御滞留あり。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏教代参す。○二十日東叡山大猷院殿。有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代参す。勘定かたより小十人組へ入も一人。○廿一日水黄門さまに御拳の雁つかはされしにより。まうのぼり宿老に謁し退てらる。この日西丸小姓福村久米之助正策官料三百俵賜ふ。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に安藤對馬守信成代参す。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代参す。日光門主山よりかへられしかば。高家戸田備後守氏倚御使して慰勞せられ。明の月朔日まうのぼられ御對面の事をも仰つかはさる。稻葉伊豫守雍通。池田内匠頭政養。参向公卿の館伴を命ぜらる。○廿五日春雪ふりしかば。三家のかたへ使して御けしきうかへはる。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側大久保豊前守

勘定奉行石川忠房、目付羽太正養、暇を暇に派遣す

忠温代参す。○廿七日紅葉山 御宮。諸廟に御詣あり。西城よりは水野出羽守忠友代参す。高家大友因幡守義方日光山より歸り謁す。○廿八日月次の拜賀例のごとし。松平相模守齊邦初て就封のいとまたまひ鷹馬を下さる。閑院伏見兩家歳首の使者および遠國の僧侶洞官等見えたまつり。勘定奉行石川左近將監忠房金十枚。時服三。羽織とへ。目付羽太庄左衛門正養金十枚。時服二。羽織とへ暇夷地の事奉はりて暇給ふ。○廿九日濱の庭園に成らせらる。御拳は小鴨五。雜鴨一なり。高家中條河内守信義して。日光門跡公延法親王へ本月御祈禱の料をつかはさる。○三十日三縁山御詣雪ふりしかば延滞せらる。よて 有章院殿靈廟に戸田采女正氏教代参す。再雪によて三家のかたへ使して御けしきうかへはる。○二月朔日白木書院に出たまひ。日光久能兩山の御鏡餅及び符籙いたたまひ。山門總代。日光山總代。その他遠國台宗の僧侶。上野一山の僧中見えたまつる。高家大澤下野守基季伊勢よりかへり謁す。○二日大坂城代青山下野守忠裕明の日發途により。謁見し御懇詞を賜ふ。西城旗奉行永井監物白衆老免して寄合となる。褒賜例の如し。去りし九日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。松平左兵衛督信充去月二十日拜禮の途中供立場廣。その上先管手代りまで立るよし相聞ゆ。供達の儀はかねく、仰出され置れしに。今に改めぬは等閑の所行如何の事。旁以不行届の由。又本多伊豫守忠育同じ事を咎がめられ。左兵衛督信充。伊豫守忠育共にみづから御前を憚しむ。又勘定水越源兵衛某松前表御用奉はりしに

改元

より。引續蝦夷地の御用奉はりながら。くさく等閑の所行相聞へ。御取立の詮もなく不埒の事により役儀召放。御目見以下命せられ家に籠めらる。○三日三井寺總代はじめ寺社のともがら暇たまふ。この日奥にて散樂の御遊あり。○四日西城目付山木若狭守正富本城にうつり。徒頭土屋帶刀廉直西城目付となる。閑院伏見兩家の使者暇たまふ。この日淑姬君本城より尾邸へ歸らせ給ふ。○六日濱の庭園に成らせられ鴨を狩得たまふ。尾張中將齊朝卿養方叔父松平藤馬勝綱尾張中納言宗勝卿御九男名古屋にしてうせられしかば。書院番頭永井大和守直諒して吊慰せらる。○七日青蓮院宮使者はじめ。遠國の寺僧等暇たまふ。○八日紅葉山 諸廟に御詣あり。東叡山 浚明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○九日さきに濱園に御放鷹のとき鳥射し番士に時ふくたまふ。○十日小普請より西城小十人組に入もの七人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。一橋邸用人遠藤六郎右衛門易全徒頭となる。○十三日群臣ことごとく出仕ありて。享和と年號改元のよし。席々にして安藤對馬守信成して傳ふ。紀水兩家はその家司。東叡一山は執當めしてつたへらる。○十五日月次の拜賀例のごとし。大久保安藝守忠真はじめ。就封のいとまたまはる者十二人。伏見奉行加納遠江守久周初て赴任の暇たまふ。金十枚。時ふく四。羽織をへて下さる。二條在番の大番頭市橋下總守長照。高木主水正剛暇たまふ。賜物例のごとし。與頭番士もあなじ。歳首の御禮遠國の寺社及び長崎の市人見えたてまつる。○十六日西城小姓組田中久兵衛政

諸老免して小普請となる。褒金を賜ふ。連歌師等銀二十枚。時服。羽織をへて暇たまひ。あなじく加はりしともがらも賜物あり。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參す。小普請醫官望月三作彦好獻りし書籍の事にて褒銀を賜ふ。○十八日釋奠により聖廟に御側平岡美濃守頼長代參し。太刀馬資。黄金一枚御進薦あり。尾張中將齊朝卿使して。松平藤馬勝綱うせしにより御たづねありしを謝したてまつらる。○十九日吹上にならせられ番士の大的を視たまふ。○二十日東叡山 乘臺院のかた靈牌所に御側岡部因幡守長貴代參す。高家戸田土佐守氏明京よりかへり謁す。この日勘定組頭岡松八右衛門久稠同じ吟味役命ぜられ。五十苞加恩ありて百俵高にせらる。○廿一日一橋門外閑地に成らせらる。御獲物は鴨五羽なり。この日歳首に時服たてまつりし三家のかたくはじめ。例のともがら。兩本願寺まで御内書を賜ひ。大納言殿よりは奉書をわたさる。○廿三日去りし二十一日御成のをり鳥射し書院の番士一人時服を賜ふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。西城鍵奉行渡邊圖書頭貞綱同じ旗奉行となる。○廿五日濱の庭園に成らせられ。鷹にて鴨狩捉たまふ。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に戸田采女正氏教代參す。○廿七日吹上庭園に成らせられ。それより一橋邸へ過らせ給ふ。○廿八日月次の拜賀例の如し。宗對馬守義功はじめ。就封のいとまたまはるもの三人。内藤春之丞政璟。増山河内守正賢子勇之丞正寧はじめ見えたてまつる。日光山諸堂社修理助役つとめし石川主殿

頭總師。藤堂左近將監高免。六郷佐渡守政速。森右兵衛佐忠贊あの一々時服十をたまふ。小納戸頭取に准じたる石川筑前守安倫本職を命ぜらる。○三月朔日上巳の御祝として。三家のかたへ使して一種一荷をまいらせられ。日光門主同じく使して二種二荷をまいらせらる。○二日日光山諸堂社修復助役つとめし石川主殿頭總師。藤堂左近將監高免。六郷佐渡守政速。森右兵衛佐忠贊の家人等。白銀。時服。羽織等賜はる事差あり。日門山の櫻花をさへぐ。○三日上巳の御祝規のごとし。○四日西城小姓黒川近江守盛胤子内匠。使番花房長左衛門榮養子銀之助榮親はじめ。父死して家つぐもの六人。西城留守居三枝豊前守守歳老免して寄合となる。褒賜例に同じ。奥石筆見習ふ藤井清次郎義知西城の奥右筆となる。○五日 御臺所濱の庭園に遊ばせらる。尾濃勢水行修築並熱田桑名渡海修理奉はりし勘定吟味役鈴木門三郎正勝金五枚。時服二。羽織をへ暇たまふ。屬吏も同じ。○八日東叡山 澄明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。 蓮光院殿靈牌所に御側高井飛驒守清寅代參す。備中國松山の城主板倉周防守勝政病により致仕し。其子左近將監勝隆に領知五萬石をつがしむ。この勝政は故周防守勝澄が長男にして。兄日向守勝從が嗣子となり。安永七年二月二十七日家つぎ。四月二十八日襲封を謝したてまつれる日初見し。明る八年の冬叙爵し左近將監に任じ。のち今の名にあらため。天明四年五月十五日奏者番となり。八年六月二十六日寺社の奉行を兼ね。寛政十年春より病により兩職を解んことを請ひたてまつりしに。寺

板倉勝政致仕

社の職は四月二十六日ゆるされしかば。ふたへび請ひて明のとし三月二十四日奏者の事をも辭し。この日致仕してのち大炊頭又主膳正とあらため。文政四年三月二日卒す。とし六十五。○九日小普請奉行松平淡路守信行。目付小島孫右衛門正苗。勘定吟味役岡松八右衛門久稠。傳奏屋敷修復檢視の事つとめしによりあの一々時服を賜ひ。その他所屬の輩賜物差あり。新番朝比奈新十郎正輝老免して小普請となる。褒金をたまふ。西城醫官小野西育 大納言殿の尙藥命ぜらる。○十日小十人岩室萬右衛門正易老免して小普請となる。褒金例のごとし。下總千葉妙見寺盛高本所彌勒寺住職たらしめらる。○十一日峰姫君山玉の社御宮參あり。白かね二十枚薦められ。又祝巫へ十五枚。總中へ三十五枚下さる。御かへさに田安邸へ立よらせらる。御かへりの後陪從のともがら席々にして祝酒吸物を下され。其以下のともがらへも酒肴を賜ふ。同じ事により御取かはせとして。 御所 臺の上より右衛門督の方へ綿二十把。一種千疋づ。同じ方簾中へ一種千疋つかはさる。同じ事により峰姫御かたより右衛門督の方へ綿二十把。白かね二十枚。二種千疋。同じ方の簾中へ紅白ちりめん十卷。一種千疋。近包兩君へ紅白縮緬二卷づ。干鯛をへ。香詮院尼へ紅白ちりめん二卷つかはさる。又家士はじめその他の女中へ巻物銀子下さる。事差あり。 御所より右衛門督のかたへ縮緬十卷。鮮鯛。御側大久保豊前守忠温してつかはさる。又右衛門督かたより峰姫のかたへ鮮鯛。同じ簾中より同じ品を進らせらる。京極備前守高久御名進らせし

により巻物五。臺の上用人中山長門守信勝養目。小納戸高島近江守廣備篋刀の役せしにより。同じ品三ついたまはる。○十二日東叡山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代参す。小普請より西城書院番に入もの八人。○十三日日門及び安樂心院の宮よりてこたびの御宮参を賀し昆布を進らせらる。貞章院尼清水中納言重好卿北のかたよりも鮮鯛をつかはさる。○十五日月次の拜賀例のごとし。紀伊中納言治寶卿参觀せられしかば御對面あり。銀五十枚。巻物二十獻せらる。よりて水黄門及び世子も謝儀として御對面せらる。松平豊前守齊宣就封のいとま給ひ。松平左衛門佐齊直。松平駿河守親賢参觀す。板倉周防守勝峻家繼しを謝し獻りものす。家士も拜み奉るもの多し。小姓組番頭石河壺岐守貞通大坂城代引渡の事はていかへり調す。御側大久保豊前守忠温養子波之助。旗奉行太田駿河守資倍子彦十郎資寧。使番井上伸正章養子松三郎。中根勘解由正長養子主税。桑山十郎左衛門晴喜子金之丞。寄合高木筑後守正鼎子九助初見したてまつる。其他尙多し。此日清水の官邸に成らせらる。大納言殿も同じ御あらしなれど。雨にて延滞せらる。○十七日紅葉山 御宮に安藤對馬守信成代参す。○十八日紀伊中納言治寶卿御叔母前黄門重倫卿御養女實支封松平修理大夫頼興女。保姫の方。さのふうせられしかば。小姓組番頭山口和泉守直良して吊慰せらる。勘定奉行中川飛驒守忠英。同じ吟味役金澤瀬兵衛千秋。河渠凌利道路造作の事命せらる。此日 御所 臺の上西城にわたらせらる。○二十日一橋邸家司久田縫殿頭長考大目付となり。佐渡奉行横田十

一橋家老久田長考大目付に任ず

相馬祥胤致仕

郎兵衛延松一橋邸家司となり。大納言殿治濟卿の方用向も兼ね。先手筒頭平塚伊賀守爲吉西城鍵奉行となり。留守居番山田讚岐守利往先手筒頭となり。西城小姓青山播磨守宣時留守居番となる。十郎兵衛延松は二百石加秩ありて實祿五百石となる。又先手弓頭水野筑前守勝羨病免して寄合となり。大番田邊宇右衛門その與頭となる。○廿一日小姓組番頭佐野肥前守義行御使して。紀伊中納言治寶卿制中を問はせられ。冰糖一壺をおくらせらる。この日淑姫君歳首をほぎて西城に入らせらる。○廿二日鏡砲箆筒奉行大村藤右衛門高德病免す。先手筒頭奥田主馬高寛火賊捕盜の事免さる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備前守高久代参す。未の半頃より 御臺所外殿に臨ませたまふ。○廿五日陸奥國中村の城主相馬因幡守祥胤病により致仕し。其子讚岐守樹胤に領知六萬石をつがしむ。此祥胤は故因幡守恕胤が三男にして。兄ども世を早うしまたは病にて籠居せしかば。祥胤嗣子となり。安永六年四月朔日初見したてまつり。七年十二月十六日叙爵して讚岐守と稱し。天明三年十二月二日父が譲りをうけ。のち今の名に改め。けふ致仕してのち彈正少弼にあられため。文化十三年六月二十三日卒す。年五十二。○廿八日番町藥園に成らせられ。それより尾邸御守殿に過らせらる。寄合神保紀伊守長孝養子四郎右衛門はじめ。父致仕して家つぐもの十六人。けさ 勅使。院使参着により戸田采女正氏致して慰勞せらる。高家六角越前守廣孝添てまいる。○廿九日尾邸より家司出し。さのふの事を謝し奉らる。この夜子過

勅院使下向

る頃尾張町より火起り數街におよぶ。○三十日持筒頭宅間與右衛門紀峰西城留守居となる。この日吹上にて騎射御覽あり。○四月朔日參向の公卿引見あり。よて溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのぼる。まづ白木書院へ出たまひ。勅使勸修寺前大納言經逸卿。千種前中納言有政卿。院使平松宰相時政卿御對面あり。禁裏より 兩御所へ御太刀目録。黄金三枚。 仙洞よりおなじく黄金二枚。 中宮よりもおなじく黄金一枚まいらせらる。西城へも同じ。 臺の上に攝家諸門公卿より物さしげ。近衛家よりは淑峯兩姬へも獻り物ありて同じく歳首をほがる。次に攝家門跡勾當内侍の使者おのくものさしげて見えたてまつる。また公卿より物さしげ自の拜賀あり。その家司等。樂人總代。冠帽末廣師。吉田三位の使までおなじくものさしげて見えたてまつる。さて御對面濟みしにより。高家大澤右京大夫基之して。勅使。院使のものにおのく鹽鶴一箱檜一荷を贈らせらる。また大友因幡守義方して。明日申樂命せられしにより。まうのぼり觀覽あるべきよしを仰つかはさる。水戸の兩卿へも御使して同じ事を傳へらる。○二日公卿應の散樂あり。水戸の兩卿はじめ。溜詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番。菊間縁頼詰父子。布衣以上。法印法眼の醫員等までまうのぼり。大廣間に出たまひ。勅使 院使に御對面せられ。水戸の兩卿も同じ。はて、御次伺候のともがら見えたてまつりて。御能はじむべきよしを。少老京極備前守高久して申樂大夫へ傳へらる。樂組は翁三番更。和布刈。經政。井筒。望月。祝言

大坂町奉行
成瀬正定長
崎奉行に任

弓八幡。狂言二番。墨ぬり。首引なり。奏者番内藤豊前守信敦舞臺に出て。唐織纏頭あり。要脚廣蓋例のごとし。散樂半に席々にして饗膳を賜ひ。その他の輩も同じ。○三日大坂町奉行成瀬因幡守 正定長崎の奉行となる。この日目付大草大次郎公美養子熊藏公弼はじめ。父死して家つぐもの五人。○五日 兩御所白木書院に出たまひ。勅使 院使辭見あり。 大内への御返詞仰られ歸洛の暇たまひ。勅使にはおのく銀二百枚。綿百把。 大納言殿より銀百枚。 院使には百枚百把。 大納言殿より五十枚。 臺の上よりは千種へ時服十。平松へ六下さる。その他攝家門跡の使者はじめ。樂人總代。冠帽末廣師にいたるまでいとま給ひ賜物あり。又近衛内大臣の使者には。 御臺所。淑姬君よりもおなじく白銀を下さる。○六日日光門主御登山により。高家宮原長門守義潔御使して。時服をおくらせられ御對面の事仰つかはさる。この日王子筋へ御放鷹としてならせられ雉子十を捉たまふ。少老堀田攝津守正敦陪從して雉子三を得たり。○七日目付佐久間左京信近大坂町奉行となり。同職蜂屋源八郎成定佐渡奉行となり。先手筒頭市岡丹後守房仲持筒頭となり。納戸頭伊東長兵衛祐香目付となり。奥右筆組頭萩原金十郎友政納戸頭となり。奥右筆尾島鍋三郎信賢同じ組頭となる。又奥右筆秋山松之丞惟祺。同じ與頭勤向手傳はしめらる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。日光山 御宮代參使。 大納言殿の御使もかねたる高家戸田備後守氏倚。おなじ山の 靈廟代參使内藤大和守頼以。また

祭祀の奉行永井信濃守直方。丹羽式部少輔氏昭命せられともに暇たまふ。賜物は例に替らず。日光門主御登山によりまうのぼられ。御饗應はて、御對面あり。勅使 院使に發途により。館伴奉はりし稻葉伊豫守雍通。池田内匠頭正養まうのぼり老臣に調し退く。○九日西城の目付土屋帶刀廉直本城にうつり。使番火災巡視奉りたる齋藤次左衛門利道西城の目付となる。この日小普請相場幸三郎忠順罪ありて追放たる。その他連及のもの多し。○十一日吹上の御庭にならせられ草鹿御覽あり。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏敬代參す。使番村上三十郎正親。書院番與頭近藤七郎右衛門正方ともに先手筒頭となり。西城小納戸天野權十郎雄行。おなじ小姓組鶴殿十郎左衛門長居ともに使番となり。中與番安藤小膳信姿二九留守居となる。○十三日使番牧野靱負成傑火災巡視の事兼ねしめらる。○十四日林奉行古板弁藏孟雅鐵砲箆筒奉行となり。學問所勤番與頭黒澤正助林奉行となる。○十五日月なみの拜賀例の如し。松平筑前守齊廣。松平伊豫守治好。松平越中守定信。松平阿波守治昭。細川越中守治年。松平大膳大夫齊房はじめ參觀廿五人。龜戸の邊成らせらる。御奉は梅首鷄八羽。よし五位三羽。水鷄七羽なり。御憩息所は普門院にて晝餉進らせ給ふ。○十七日紅葉山 御宮に御詣あり。かへらせたまひてのち 大納言殿にも御詣あり。宿老太田備中守資愛病により職とかん事を請ひたてまつるにより。戚族水野壹岐守忠詔めして。こゝろながく保護いたすべしと。中與小姓北條筑後守氏軋して命せらる。○十

享和生

八日不時朝會あり。松平肥後守容住。藤堂和泉守高巖はじめ。就封の暇たまはるもの三十一人。相馬讚岐守樹胤家つぎしを謝し獻り物す。駿府加番金田近江守正延參謁す。先手筒頭水野長左衛門景守鑓奉行となり。小十人頭三浦和泉守義和先手筒頭となる。○十九日日光山祭祀事なく濟みしにより。三家のかたぐい使して賀し奉らる。この日小納戸永井百之助正扶病もて奥の勤を免さる。けさ傳通院前火あり。○二十日東叡山 大猷院殿靈廟。 深徳院殿。 至心院殿靈牌所に御詣ありし御かへさ聖廟に御詣あり。大刀金一枚御進薦あり。高家戸田備後守氏倚日光山よりかへり謁す。祭祀の奉行永井信濃守直方。丹羽式部少輔氏昭歸り謁す。○廿二日辰刻姫君御生誕あり。御腹はちてふのかた。西城納戸曾根彌三郎重辰の女なり。御養目は 御臺所用人小笠原大隅守義武。矢取は其子彌太郎義備つかまつる。小納戸熊倉小野右衛門茂周篋刀をたてまつる。○廿三日さのふ姫君御生誕により。三家の方々使し。溜詰。高家。詰衆。諸番頭。諸物頭。布衣の輩まうのぼり賀し奉らる。濱園の奉行豊島左兵衛武經吹上奉行となり。常に精勤を寝せられ。座班賄頭の次。奥の勤は其儘奉はるべしとなり。同添奉行木村又助喜之同じ奉行となり。作事下奉行竹村七左衛門は大工頭となる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に代參使立られず。御産穢によりてなり。白木書院に出たまひ。布衣以上寄合諸番士。その他小吏小普請の輩の武技御覽あり。布衣以上。寄合のともがらには酒吸ものを賜ひ。その他の人ぐはちのぐ布帛二反をたまふ。○

廿五日奥詰醫寮岸春菴瑞興與醫となる。又さきに謁見をゆるされし醫柴田玄養。あらたに召出され祿二百苞をたまひ。西城奥醫となり元泰と改む。○廿六日書院番高木左京正雄おなじ與頭となる。西城奥右筆稻田喜藏安邦本城にうつり。同じ見習中山鯛藏克匡西城の奥右筆となる。又表右筆濱田三之丞恒久。黒部勘右衛門忠長奥の職見習ふべしと命ぜらる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。松平飛驒守利考はじめ。就封の暇たまはるもの三人。飛驒守利考御馬を下さる。松平豊前守仲雅參覲す。僧侶住職謝するもの二人。加茂の祠人葵を獻す。けふ御生誕の姫君七夜の御祝により。御所より松平伊豆守信明は使して産衣二襲。綿五十把。二種千疋。二種千疋。御所より水野出羽守忠友御使して。同じく二襲三十把。一種千疋。御臺所より女房使して同じく二襲。三十把。二種千疋まいらせられ。御名まいらせて享姫君と稱し奉り。御臺所の御やしなひとなさる。また御名たてまつりし少老京極備前守高久布帛を賜ひ。墓目の事つとめし。御臺所用人小笠原大隅守義武。矢取その子彌太郎義侍。篋刀の役小納戸熊倉小野右衛門茂周ものく銀時服を賜ふ。おなじ御祝に。御所より。大納言殿に一種千疋。臺の上に綿二十把。一種千疋。大納言殿より。御所。一種千疋なり。又。御所。大納言殿。臺の上より淑峯兩姫のかた。一橋田安兩邸。民部卿のかた。及び籠中の方。貞章乘遠兩尼。久之助。本之丞。近包兩姫。並産婦

池田政貞禁
禮附に任ず

の方御取かはせあり。一橋田安兩卿。民部卿の方よりも産衣一重一種づゝ家士して獻る。貞章院尼よりもおなじ。○廿九日三縁山。有章院殿靈廟に御詣あり。高家内藤大和守頼以日光山よりかへり謁す。○五月朔日享姫君御事。御臺所御やしなひと仰出されしを賀して。三家のかたぐゝ使まいらせらる。日光門主使して端午の御祝二種二荷。又姫君七夜の御祝として一種をまいらせらる。先手筒頭火賊捕盜奉はりし池田雅次郎政貞。禁裏附となり。納戸組頭長崎源之助元良西城の同じ頭となる。○二日端午の御祝として。三家のかたぐゝはじめ。例のともがら。兩本願寺より使して時服を獻せらる。大納言殿にもおなじ。先手筒頭岡部内記。忠英火賊捕盜の事命ぜらる。○三日寄合新庄與惣右衛門直内子斧七はじめ。父致仕して家つぐもの九人。○五日端午の御祝規のごとし。○六日西城御膳奉行永田松次郎直茂一昨四日餉聞しめされしをり。さげ物拵方鹿末のよし。心とどかさるにより御前をとめらる。○七日西城先手筒頭大河内善兵衛政壽本城にうつり。目付渡邊久藏糺西城先手筒頭となる。那須衆一人暇たまふ。○八日東叡山。嚴有院殿靈廟。心觀院殿靈牌所に御詣あり。浚明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○九日讚州淨願寺春朝同じ國の法然寺住職命ぜらる。○十日東叡山。常憲院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○十一日甲府勤番小普請より大番に入もの十一人。○十二日三縁山。惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。西丸表右筆福田六郎左衛門堅備。西城少老松平能登守乘保裏印の

居し御借米手形紛失のよし。鹿忽の至りなりとて逼塞命ぜらる。○十四日三縁山
 文昭院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。小普請より西城小姓組に入もの八人。○十五
 日月次の拜賀例のごとし。井伊掃部頭直中。松平讃岐守頼儀參觀す。松平隱岐守定國
 はじめ。就封の暇たまふもの三人。隱岐守定國は御鷹馬を下さる。稻葉丹後守正誼御
 馬を下さる。松平駿河守親賢養子直之助親明初て見えたてまつり。佐渡奉行蜂屋源八
 郎成定初て赴任のいとまたまふ。賜物は恒例に同じ。美濃尾張伊勢三國川々水行普請
 はてし。勘定がたのともがら歸り謁す。讃州法然寺春朝東卷獻じ住職を謝す。本所彌
 勒寺色衣を謝し奉る。○十六日西城目付永井鞆負直堯本城にうつり。中奥番松浦大膳
 忠門後猪右衛門と改む。西城の目付となる。○十七日紅葉山 御宮。 諸廟に御詣あり。○十八
 日奥能あり。例の輩視ることをゆるさる。樂は氷室。通盛。東北。山姥。雲雀山。猩々。狂
 言末廣がり。相合烏帽子。草びら。山伏なり。○十九日僧侶。若王寺使僧。青木山木兩大
 夫時服賜ひ暇たまふ。○廿日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に戸田采女正氏
 教代參す。大坂定番保科越前守正率病免す。○廿一日留守居松浦越前守信程享姫君御
 生誕の事奉はりしをもて時服を賜ふ。おなじ事によて奥右筆二人銀を下さる。○廿二
 日大坂破損奉行野間金三郎成澄小十人頭となり。寄合醫千田玄知恭副。番醫坂兵衛宗
 之とともに奥詰醫となる。○廿三日播磨國赤穂城主森右兵衛佐忠贊病もて致仕し。その
 子右近忠哲二萬石をつぐ。この忠贊は故和泉守忠供の第二子にして。安永九年四月廿

森忠贊致仕

九日嗣子となり。そのとし六月朔日 凌明院殿に拜謁し。同年八月六日襲封し。十
 二月十八日從五の下して伊豫守に任じ。天明六年四月十三日大内記と改め。寛政元年
 の二月二十二日右兵衛佐。享和元年五月二十三日隱退し。文政二年三月二十七日美濃
 守とあらため。天保六年月日不知卒す。歳七十八。西城裏門番の頭近藤助八郎義種老免し
 て寄合となる。時ふくをたまふ。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に松平伊豆守信明
 代參す。○東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。日光門主山よりか
 へられしかば。高家大澤左京大夫基之して慰勞せらる。○廿五日三家のかたぐへ御
 使して巢鷹をおくらせらる。よてまうのぼり謝し奉らる。また尾郎より使して巢鷹巢
 雀おのの二据さぐ。○廿六日日光門主まうのぼられ御饗應。御座所にして御對
 面あり。○廿七日遠江國横須賀の城主西尾隱岐守忠移卒す。養子右京亮忠善をして所
 領三萬五千石を襲しむ。この忠移は故主水正忠需が二子なり。兄播磨守忠種父に先だ
 ちてうせしかば嗣子となり。明和三年三月初日初見し奉り。その冬叙爵して山城守と
 稱し。天明二年九月二十九日家つぎ。のち今の名に改め。四年五月十五日奏者番とな
 り。八年三月二十五日寺社の事奉はり。ことし四月三日年五十六歳にしてうせぬ。○
 廿八日大番與頭諸星明之丞信豊西城裏門番の頭となる。○廿九日本月御祈禱の料。高
 家前田信濃守長禧して銀百枚をおくらせらる。この日小姓西尾充太郎政温西城の小
 納戸となる。○三十日三縁山 有章院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。小姓西尾充

西尾忠移卒

老中太田資
愛免

板橋驛水車
下より奇魚
を獲たり

太郎政温西城小納戸となる。○六月朔日月次の拜賀例のごとし。西尾隠岐守忠善。森右近忠哲。共に金に巻物を獻じ襲封を謝す。禁裏附池田雅次郎政貞初て赴任の暇賜ひ。贈物金五枚。時服。羽織をへ下さる。仙洞附大久保大隅守景章歸り謁見す。○三日小納戸伊丹三郎右衛門直純子七之助直榮はじめ。父死して家つぐもの六人。この日小納戸佐野龜五郎貴行小姓命ぜらる。○七日宿老太田備中守資愛さきより病床にありしが今に懈らず。再び請ふまゝに。一類板倉周防守勝峻めして職ゆるされ。舊班に有べしと命ぜらる。この旨あり合布衣より上のともがらに傳へらる。美濃尾張伊勢の國々川々普請の事奉りし勘定奉行柳生主膳正久通はじめ。所屬のともがら賜物差あり。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。父の蔭もて大番より兩番にうつる者一人。小普請林源一郎學問所勤番組頭とせらる。○九日東叡山 淨圓院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參す。○十日土用に入りしかば。三家のかたぐい使まいらせ。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。西城厩別當村松四兵衛歳尹病により致仕せしかば。嫡孫同職見習ふ萬藏歳行家つぎ父の原職命ぜらる。○十一日臨時の朝會あり。日光門主使して掛香進らせ。暑中の御けしき伺はる。増上寺方丈よりも同じ事もて生花熟瓜を獻ぜらる。酒井雅樂頭忠道はじめ參觀のもの十一人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に御詣あり。此日板橋驛水車下より奇魚を獲たり。長五尺一寸。横二尺五寸にして四足あり。僅に三寸餘。巨口微目にして。惣身の色

栗の如く黒き斑なり。世人その名な
しるものなし。○十三日酒井修理大夫忠貫はじめ就封のいとまたまはるもの三十人。真田信濃守幸專參觀す。大坂町奉行佐久間左京信近初て赴任の暇たまふ。爵ゆりて備後守と改稱す。その養子右京信輝はじめて見えたてまつる。駿河國府の町奉行岩瀬式部氏紀奈良の奉行となり。使番にて火災地巡察奉はりし牧野靱負成傑駿河國府の町奉行となる。この日 御所より松平伊豆守信明御使して。大納言殿より鮮魚をさしげらる。○十五日山王の社へ御側本郷大和守泰行御使して。白銀十枚御進薦あり。○十六日嘉祥御祝規のごとし。けさ淺草寺の境内火あり。○十七日紅葉山 御宮に安藤對馬守信成代參す。○十八日暑中を問はせられて。御側本郷大和守泰行御使して。日光門主に檢重をおくらせられ。使番水野虎之助忠篤して増上寺方丈へ同じ品つかはさる。西城小姓山木八十八本城にうつる。○十九日寄合密官岡本玄治介壽はじめ六人。香需散を獻るべしと命ぜらる。○二十日東叡山 有徳院殿靈廟に御詣あり。○廿一日美濃國高富の領主本庄甲斐守道利病により致仕し。その子近江城守道昌にその所領一萬石をつがしむ。この道利實は松平對馬守信直が二男にして。山城守道揚が養子となり。明和八年十二月十二日家つぎ。その十五日謝恩の日初見したてまつり。廿八日叙爵して伊勢守と稱し。のち今の名にあらため。安永九年十月八日大番の頭となり。寛政三年五月二十四日伏見奉行にうつり。七年十二月八日奏者番と

本庄道利致
仕

なりしが。十二年七月十一日病により職を辭し。けふ致仕してのち織部正と改め。文化二年五月十三日卒す。年五十二。この日小十人與頭三宅三郎兵衛俊徳病免す。日門より不忍池の蓮藕を獻らる。○廿二日大番榊原九右衛門政範同じ與頭となる。○廿三日西城小姓白須加賀守政徳中奥の小姓となり。小納戸戸田寛之丞氏寧。西城小納戸山本清五郎茂村ともに西城の小姓となる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。新番筑山伊右衛門貞暢老免して小普請となる。褒金を賜ふ。○廿五日端午に時服獻りし三家のかたぐははじめ。例のともがら。兩本願寺。松平上總介齊政に御内書をたまふ。 大納言殿より奉書をわたさる。大番頭諏訪若狹守頼伊病免す。○廿七日松平和泉守乘寛。松平右京亮輝延奏者番となり。松平日向守直昭大坂定番となる。

文恭院殿御實紀卷卅一 享和元年七月に始
り十二月に終る

○七月朔日月次例のごとし。三宅備前守康友參觀す。松平駿河守親賢就封のいとま給ふ。本庄近江守道昌襲封を謝し金巻物を獻す。土井能登守利貞。本多越中守忠誠。水野日向守勝愛。山口周防守弘致坂城加番のいとま給ふ。時服羽織とへ下さるゝ事差あり。又大番頭内藤甲斐守正範。建部内匠頭政堅坂城成役の暇給ふ。賜物あり。與頭番士

宗齊天地丸
に驚して芝
浦沖に漁獲
を觀る

増山正賢致
仕

所司代牧野
忠精老中に
寺社奉行土
井利厚所司
代に任ず

等も舊のごとし。又大番頭堀近江守直起二條成役はて、歸調す。長崎奉行成瀬因幡守正定はじめて赴任の暇給ふ。賜物は金時服羽織なり。佐渡奉行鈴木新吉正義參調す。○二日濱園にならせられ天地丸御乗船。夫より芝浦沖にて漁を觀給ふ。同じ園の御懇所にして餉を薦め奉る。○三日 禁裏附加藤相模守則陳子氏之丞。鎗奉行中山周防守直彰孫要人直興はじめ家つぐ者六人。御膳所臺所與頭小槍助八郎同じ頭となる。けさ湯島麟祥院領酒井大和守忠和別墅火をあやまてり。○四日大坂定番松平日向守直紹赴任により。例のまゝに金三千兩恩貸せらる。駿府城番金田近江守正延病もて職を辭す。日門より七夕を祝して二種一荷獻せらる。○五日下谷梅林寺某遠州可睡齋住職たらしむ。此日伊勢國長島城主増山河内守正賢病により致仕し。所領二萬石を其子勇之丞正寧して襲しむ。此正賢は故對馬守正賢の子にして。○六日三家のともがら。その他例のまゝに鯖代をさへげらる。大番伊藤三右衛門元長。同じ與頭納戸伴野權次その組頭。西城 番小栗松五郎正備同城與頭命ぜらる。○七日七夕佳賀例に同じ。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。この日俊徳院殿清水中納言 重好卿御事の七回御忌法會により安藤對馬守信成。西城よりは水野出羽守忠友代參す。同じ事により三家のかたぐは使して御起居を同ふ。此日書院番頭松平内匠頭康休大番の頭命ぜらる。又小十人山中半之助のち長左衛門。同じ與頭となる。○十一日所司代牧野備前守 忠精加判の列に加へらる。寺社奉行土井大炊守利厚所司代とな

奏者番阿部
正由寺社奉
行を兼任す

り侍従に任せらる。紀水へは使してこの事を告らる。尾郎は家士めして傳ふ。寄合小濱長五郎壽隆火災巡察仰付らる。奥日少老京極備前守高久備中守と改稱す。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。先手筒頭奥田主馬高寛。駿府城番留守居番成瀬吉藏正延。先手筒頭西城目付高木又兵衛次賢留守居番となる。○十四日紅葉山 諸廟に詣てたまふ。東叡山 至心院殿靈牌所に御側白須甲斐守政雅代參す。○十五日日光門主へ六角主殿頭廣胖して。時服二十ちくらせらる。孟蘭盆なればなり。増上寺へは奏者番水野左近將監忠鼎御使して。銀二百枚。時ふくくたさる。おなじ事にてなり。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏教代參す。奏者番阿部播磨守正由寺社の奉行をかねしめらる。○十八日交代寄合本堂大和守親房子内藏助親庸。寄合戸田孫十郎光智養子朝負光陽。水野主膳忠明子□之助。藪主計忠居養子三郎左衛門忠恒。山高八左衛門養子辨之助はじめ。父隠退して家つぐもの十五人。この日松平加賀守治脩所勞により。奏者番水野左近將監忠鼎して尋問せらる。○十九日白木書院へ出まし奏樂聞し召れしにて。詰合布衣より上のともがら聽聞を免さる。樂組は盤涉調。青海波。蘇莫者破。郢曲德是一反。千秋樂。笙多但馬守忠林。音頭辻下野守近徳。篳篥音頭窪甲斐守近義。窪陸奥守。笛音頭辻駿河守高美。多左近將監忠得。鞆鼓上越後守近周。太鼓上左近將監近之。鉦鼓辻和泉守近敦。郢曲多但馬守忠林。多左近將監忠得。振鉦窪甲斐守近義。東遊上左近將監近之。打球樂近義。近之。陵王近之。退出近

之。笙多但馬守忠林。音頭辻和泉守近敦。篳篥音頭窪甲斐守近義。笛音頭上越後守近周。東遊多左近將監忠得。鞆鼓辻駿河守高美。太鼓辻下野守近徳なり。○廿二日亥牌の頃本郷新町失火す。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に井伊兵部少輔直朗代參す。西城書院番頭近藤淡路守政明本城にうつり。小姓組番頭石河壹岐守貞通。西城書院番頭寄合指揮せし高井左京常房小姓組番頭命せらる。○廿五日西城書院番頭長田六左衛門繁昌同城目付となる。○廿七日紀伊中納言治寶卿に書院番頭淺野中務少輔長富。水戸中納言治保卿。同じ中將治紀卿に小姓組番頭高木伊勢守守富。尾張中將齊朝卿に小姓組番頭山口和泉守直良御使して。告天子各五十賜ふ。おの／＼まうのぼり。尾郎よりは使して謝し奉らる。徳川前黃門重倫卿へは驛使して同じ品進らせらる。○廿八日月なみ佳賀例のごとし。加藤遠江守泰濟。本多中務大輔忠顯。鍋島紀伊守直知。小笠原右近將監忠苗養子伊豫守忠固參觀す。奥平大膳大夫昌高就封の暇たまふ。増山勇之丞正寧家つぎしを謝して物獻る。遠州可睡齋某住職。高野聖方大徳院某繼目を謝し奉り束巻を獻ず。使番進喜太郎成美。書院番夏目内膳爲殺大坂目付の暇給ふ。賜物おのちの金五枚下さる。又使番して告天子賜はる者松平加賀守治脩を始め廿人。土井大炊頭利厚子周防守利廣雁問班命せらる。○廿九日奥にして老臣に告天子卅づ下さる。○八月朔日當賀規に同じ。○三日寄合高木筑後守正鼎子九助。奈良奉行加藤伯耆守正脩子楢之進。中奥小姓小笠原丹後守長有養子角之進長坦はじめ。父死して家繼ぐ者十

人。所司代土井大炊頭利厚任所へ赴くにより金壹萬兩恩借せらる。寄合近藤登助壽用同僚指揮すべしとなり。○四日水邸より初鮭一尺進らせらる。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。日光奉行支配組頭大原大藏信好。小十人前澤藤十郎光貞代官となる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。釋奠により御側高井飛驒守清寅代參して黄金壹枚。西丸よりは御側會我伊賀守助鑑代參して。同じく壹枚を進薦したまふ。持弓頭内藤伊織忠良鍵奉行命せらる。○十五日月なみの賀例のごとし。松平大和守直恒はじめ。參觀するもの十二人。襲封の暇下さるるもの。堀田大藏大輔正順始め八人。表高家横瀬兵庫貞經初見し奉る。東叡山龍王院某院家を謝して束卷を獻す。此日駿府町奉行牧野靱負成傑初て登駿の暇下さる。賜物舊のごとし。使番神原左衛門職序同所日付の暇たまふ。賜物金時ふくなり。民部卿殿家老飯田能登守易信累年精研なればとて。三百石増加せられ實祿千石となる。水邸より後閑へ鮭を進らせらる。○十六日上總國久留里城主黒田大和守直温卒す。嗣子なければ請まゝに叔父十五郎直方して相續せしめられ。遺領三萬石を賜はる。此直温は故和泉守直英の二子にして。天明六年九月二十九日襲封し雁の間班に列り。その年の十一月十五日家つぎしを謝し奉り。寛政五年九月晦日大手組火防命せられ。同じ八年六月十四日御ゆるしあり。十一年十一月朔日初見し。その年十二月十八日叙爵して大和守と改め。十二年四月廿六日櫻田火防奉はりながら。閏四月廿九日 有徳院殿五十

黒田直温卒

回御忌御法會警衛命せられ。その八月十五日御ゆるしあり。享和元年八月十二日十八歳にして卒しけり。この日大番淺井熊之助元善納戸番にうつる。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。先手弓頭彦坂九兵衛忠篤持弓頭命せられ。寄合安藤内藏助廣榮中川口の衛となる。○十九日町奉行吟味役大塚龜之進盛定日光奉行支配組頭命せらる。寄合井上内記正矩明の月三縁山にして 月光院尼君五十回の御法會行はるゝにより山の守護仰付らる。○二十日東叡山 心觀院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參す。○廿二日先手筒頭伊澤内記方守病免す。松平出雲守利謙病重きよし聞し召れしにより。奏者番松平和泉守乘寛して尋問せらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に京極備中守高久代參す。使番にて火災地査視奉はりし徳永小膳昌常。徒頭深尾八大夫元方共に先手弓頭命せらる。○廿六日船手頭會我又兵衛朝祐徒頭となり。民部卿用人戸田次郎左衛門由相船手頭となる。又使番安部主膳信旨火災巡視兼しめらる。○廿八日松平頼母利幹のもとへ。奏者番大久保安藝守忠眞御使して。父出雲守利謙卒せしにより。檀嚙として銀卅錠をつかはさる。○廿九日小石川傳通院にして傳通院殿二百回御忌營み給ふにより。奏者番有馬左兵衛佐譽純代參せしめらる。此日馬方岩波七五郎延壽に傳へらるゝは。村松四兵衛歳行未幼稚なれば。厩局萬事に心をそへ世話致べし。是迄出精勤しにより馬預並命せられ。職務の内廩米二百俵十五口下さる。○晦日奥醫官峯岸春庵瑞興奥醫はゆるしありて寄合命せらる。○九月朔日月次

松平利謙卒

佳賀例のごとし。坂城定番松平日向守直紹任所への暇たまふ。賜物例におなじ。駿府加番上杉駿河守勝定。寄合岡田將監善明。宮城三左衛門和中時ふく羽織をへて下され暇たまふ。仙洞附大久保大隅守景章。奈良奉行岩瀬式部氏紀。坂城定番引渡奉はりし新番頭小野飛驒守則武共に暇給ふ。賜物は金時服羽織をへ下さる。式部氏紀は叙爵して加賀守と稱す。○二日濱の園に 兩御所ならせたまふ。重陽の佳儀として例の家家より時服獻る事恒例のごとし。西城へも同じ。日光門跡近々御登山により。高家織田主計頭信由御使し。蒲萄一籠おくらせられ。かつ明後四日まうのぼられ。御對面せまほしきよしを仰つかはさる。○四日日光門主まうのぼられ御對面あり。例のさまに饗膳たまふ。在山によりてなり。○五日高家有馬兵部大輔廣春養子兼之丞廣壽。寄合本多孝之進忠恒養子玄蕃忠暉始め。父死して子家つぐもの九人。この日松平伊豆守信明御筆の幣を下さる。○六日吹上の花園にならせられ。夫より民部卿邸へ過らせらる。西城小納戸頭取石谷豊前守豊完病もて奥勤をゆるさる。○七日 臺の上用人中山長門守信勝西城小納戸頭取命ぜられ志摩守と改む。松平大學頭頼亮所勞により。奏者番大久保安藝守忠真して尋問せらる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に御詣あり。又嚴有院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○九日菊節の佳賀舊のごとし。この曉男御子生れさせ給ふ。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に代參立られず。御産穢によりてなり。奏者番松平和泉守乘寛して。松平式部大輔頼愼父大學頭頼亮身まかりしかば。

菊千代生

松平頼亮卒

香資として銀二十枚おくらせらる。小納戸東條源右衛門長祇累年精研なれば。諸大夫命ぜられ信濃守と改め。御臺所用人命ぜらる。○十一日臨時の朝會あり。駿府城番奥田主馬高寛。日光奉行有田播磨守貞勝。浦賀奉行水野伯耆守忠良共に赴任の暇たまふ。賜物例の如し。主馬高寛。伯耆守忠良はじめてなり。小納戸戸川筑前守安倫子雄三郎安清。瀧川久助一昌子八之助。大林彌左衛門親中子茂助親民。諏訪庄兵衛正徳子友之丞。根來勝之進長喬養子吉藏。本多喜太郎玄堅子弁之丞。寄合内藤越前守信義養子縫殿。大久保主膳忠丘子勝五郎。片桐新之丞佑賢子虎之助貞恒始め初見し奉る。其他の者若干なり。こたび男御子御生誕ありしにより。溜詰。高家。詰衆。奏者番。諸番諸物頭。布衣より上のともがら壽き奉る。高家六角主殿頭廣胖。祭祀奉行井上内膳正建日光への暇たまはる。賜物舊に同じ。奥右筆を見習ふ永田安次郎高明病により表の同職にかへさる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟御産穢なれば代參使は立られず。○十三日一橋門外の閑地へ放鷹としてならせらる。此日小普請水島十兵衛大坂破損奉行となる。けさ卯牌過るころ虎門口外小姓太田信濃守好行表長屋火あり。○十四日御産穢中により。 文昭院殿。 清揚院殿靈廟に代參は立られず。さりし十三日御成のをり鳥射し小姓組番士に時ふくをたまふ。けふ午牌過田畑村民家火あり。○十五日月なみの當賀例のごとし。宿老牧野備前守忠精京への御暇たまはり。御手づから羽織を下さる。所司代土井大炊頭利厚任所への暇給ふ。賜物は金二十枚。時ふく五。羽

織。馬。御刀美濃國兼定なり。大坂加番永井山城守直弼。大關伊豫守増輔。稻垣若狹守定淳。酒井右京亮忠蓋歸謁して捧物す。中川萬之助久貴。久留島祥丸通嘉初見し奉る。又青龍院某別當職を謝し奉る。坂城戌役の大番頭遠藤左近將監胤富。堀内藏頭直皓歸謁す。與頭番士も同じ。松平彈正大弼勝當病により。尋問の御使は奏者番有馬左兵衛佐譽純なり。此日西城小納戸福村理大夫正慰淑姫君用人となる。こたび御生誕の男御子を松平菊千代殿と稱せられ。臺の上御養ひ仰出さる。○十六日菊千代殿御養ひにならせられしを祝はせられて。三家の輩より使出し老臣に謁し退く。小納戸小川七郎左衛門廣隆墓目の役。大井庄三郎昌富篋刀の役。小川初太郎廣昵矢取の役勤めしにより。銀時服給ふ事差あり。此日勘定となる者五人。新に召出されて同職となる者七人。○十七日紅葉山 御宮に詣させ給ふ。○十八日三縁山にて 月光院殿五十回御忌御法會により。高家。詰衆はじめまうのぼり御けしき伺ふ。尾張中將齊朝卿のもとへ。書院番頭永井大和守直諒御使して。松平彈正大弼勝當卒しければ弔慰せらる。御養方御叔父なればなり。奏者番松平攝津守義居養父彈正大弼勝當卒せしにより。檀輓として銀三十枚おくらせらる。○十九日三縁山 月光院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參し。西城よりは少老植村駿河守家長代參す。伊豆守信明して増上寺方丈へ銀百枚つかはさる。これは 月光院尼君五十回御忌御法會事なくはてしによりてなり。その他僧中へも銀給はる事舊の如し。同じ山の守衛奉はりし井上内記正矩まうのぼり老臣に謁し

松平勝當卒

退く。○二十日東叡山 大猷院殿 有徳院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。高家六角主殿頭廣胖。祭祀奉行井上内膳正建日光山よりかへり謁見す。増上寺方丈さのぶの御施物を謝し。登營し老臣に謁して退く。○廿一日紀邸より御茶一壺。有蒲萄。樽魚をへ。水邸より御茶一壺。中。柿。樽魚をへ獻せらる。御口切なればなり。此夜子の牌淺草福富町代地出火す。○廿二日 大納言殿淺草の邊ならせらる。淺草寺轉法院にて餉まいる。小姓組山本武右衛門正達民部卿方の物頭命せらる。○廿三日一橋閑地へならせらる。御拳眞鴨なり。此日小普請より小十人組に入もの十二人。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に松平伊豆守信成代參す。また東叡山 孝恭院殿靈廟に堀田攝津守正敦代參す。高家前田信濃守長禱して。日門御歸寺により。明後廿六日まうのぼり御對面あるべき由を仰遣さる。○廿五日吹上花圃へならせられ。夫より田安邸へ過らせらる。大納言殿にも同じ。日光門主御歸寺により菓積を獻せらる。○廿六日日光門跡御歸寺により御對面あり。西九書院番戸田市郎兵衛同じ與頭命せらる。奥右筆與頭近藤吉左衛門孟郷御用多き處精勤せしにより。三百五十俵増賜はり實祿五百石となる。○廿七日尾邸より口切により茶。橋。柿。魚樽をへ獻せらる。小普請より西城納戸へ入る者一人。豊後國佐伯城主毛利伊勢守高標卒しければ。子美濃守高聽して遺領二萬石つがしむ。此高標は故利濟が子にして。○廿八日高家大澤下野守基季して。日門へ本月御祈禱の料をおくらせらる。牧野備前

毛利高標卒

守忠精。土井大炊頭利厚近々京都へ發途により見え奉る。この日淑姫君本城へ入らせられ御滞留あり。○廿九日三縁山 有章院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十月朔日月次當賀舊に同じ。松平相模守治邦。松平甲斐守保光。藤堂左近將監高允參觀す。毛利美濃守高聽金卷物獻じ家つぎしを謝し奉る。織田出雲守信憑子大學信守初て見えたてまつる。坂城目付奉はりし使番倉橋内匠久道。小姓組大岡次郎兵衛直孝歸謁し奉る。○三日父死して家つぐもの九人。此夜麻布谷町勘定益田吉郎脩正邸火をあやまつ。○四日留守居駒木根大内記政永御産屋の事奉はりしにより時ふく四賜ふ。奥右筆二人も銀五枚づゝ下さる。○五日奥にして申樂の御遊あり。宿老少老視ることを允さる。此日は 文恭院殿御生誕本日なれば。詰合の輩に祝酒餅たまはると例のさまなり。樂は嵐山。土蜘蛛。定家。烏頭。黒塚。舟辨慶。海人。二段。狂言は三本柱。墨ぬり。文荷。鈍太郎。鍋八撥なり。○六日淑姫君市ヶ谷の館に還らせ給ふ。萬年記 ○七日小納戸江原孫三郎親章西城にうつさる。淺草山の宿町出火す。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に戸田采女正氏致代參す。この日初瀬小池坊寺中歡喜院某阿州通法寺後住となる。寄合醫員杉浦玄徳安定奥醫官命ぜらる。又吹上にして大的御覽あり。今夜亥日佳儀舊のごとし。○九日大川の邊にならせたまひて漁を觀給ふ。箱崎田安邸別墅にて餽參らせらる。御拳は鴨いと多し。○十日肥前國鹿島領主鍋島和泉守直宜病により。宗家肥前守治茂よりも請置しまゝに致仕し。其養子總吉直繁に所領二萬石をつがしめらる。こ

鍋島直宜致仕

の直宜はもとの和泉守直熙が家をつぎ。實は一族紀伊守直員の第四子にして幼名守三郎といふ。明和八年十一月十一日襲封し。安永七年十一月十五月初見し。其冬叙爵して和泉守と改め。寛政元年四月十三日備前守と改稱し。同じ十一年四月廿二日再び和泉守となり。けふ致仕し。文政二年十二月廿四日卒せしなり。歳五十九。小普請より書院番に入もの十人。松平伊豆守信明御拳の鴨給ふ。○十一日土屋相模守英直病により。こふまゝに奏者番御ゆるしあり。雁の間班にいる。去し九日大川の邊ならせられしとき鳥射し書院番士に時服三賜ふ。けさ六時頃本郷森川宿火あり。○十二日小普請奉行松平淡路守信行。西城目付鶴殿式部長衛。西丸山里門外石垣その他修理のとき檢視せしにより時ふく給ふ。屬吏金銀たまふ事差あり。けさ三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○この日越中國富山城主松平出雲守利謙身まかりしかば。養子頼母利幹して遺領十萬石襲しむ。この利謙は

松平利謙

○十三日 大納言殿雜司ヶ谷の邊ならせらる。厨所は法妙寺なり。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に詣させたまふ。此日小日向川添屋敷表街出火す。○十五日月次當賀規のごとし。加藤出雲守泰賢。寄合酒井主馬忠懿。酒井玄蕃忠善駿府加番はて、歸謁す。黒田十五郎直方獻り物して家繼しを謝す。又阿波國通法寺東卷獻じ住職を謝し奉る。吹上にて騎射御覽あり。○十六日傳通院某京知恩院住職たらしめらる。西城表右筆中島民次郎盛喜奥同職を見習はしむ。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏

教代參す。先手筒頭近藤七郎右衛門正火賊考察命ぜらる。○十八日濱の園庭に御出遊あり。鷹を放たれ鴨若干狩らせらる。○十九日此夜元飯田町焼失す。○二十日濱園御出遊のをり鳥射し小姓組番士時ふくを賜ふ。○廿一日駒場野にて鶉狩させらる。官邸にして晝餉奉る。此日重陽に時ふく奉りし家々に御内書を給ふ。西城よりは奉書なり。奥醫員多喜安長元簡御慮に應ぜずとて寄合命ぜらる。○廿三日けさ辰牌頃淺草日輪寺門前火あり。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に立花出雲守種周代參し。同じ山の 深徳院殿靈牌所に戸田采女正氏教代參し。池上本門寺の同じ 靈牌所に御側白須甲斐守政雅代參す。陸奥國守山の領主松平大學頭頼亮卒せしかば。其子式部大輔頼愼して遺領二萬石を襲しむ。此頼亮

松平頼亮

北條氏助致仕

○廿五日木下川のほとり放鷹せらる。御膳所は淨光寺に御憩あり。御物員雁。鴨。菱喰なり。○廿六日吹上庭園にして圓物御覽あり。この日河内國狹山領主北條相模守氏防致仕の請をゆるされ。その子左京氏喬して遺領一萬石をつがしむ。この氏防は故遠江守氏彦が子にて。幼名を豊吉といふ。明和六年の六月二十六日家つぎ。安永五申年七月朔日はじめてまみえ奉り。おなじ八年の冬從五位下兼相模守とあらため。天明元年駿城加番にさゝる。のち諸門の守衛しばくうけたまはり。けふ致仕し。この冬十二月十一日修理亮となり。文化八年正月十八日卒せしなり。歳五十二。○廿七日紀伊中納言治實卿のもとへ。小姓組番頭高井左京常方して御奉の雁つかはさる。また使番し

松平勝當

て松平伊豫守治好。井伊掃部頭直中。松平越中守定信へおなじ品下さる。さりし廿五日木下川邊ならせられしとき鳥射し小姓組番士時ふくをたまふ。美濃國高須領主松平彈正大弼勝當卒せしにより。養子攝津守義居をして遺領三萬石をつがしむ。この勝當は

松平重喜卒

○廿八日新番頭桑原善兵衛盛倫民部卿かたの家司となる。此日尾邸より支封松平攝津守義居の襲射を謝し使出さる。○廿九日けふ未の半頃大塚吹上松平大學頭頼愼別墅火をあやまつ。○三十日新番に入者十七人。腰物方より一人。大番より七人。甲府勤番より二人。兩城小十人より四人。小普請より三人なり。この日 臺の上御實母うせられしかば。けふより御いもゐあり。○十一月朔日當賀例のごとし。松平大學頭頼愼。松平頼母利幹。北條左京氏喬家つぎしを謝し奉りて共に獻りものす。大學頭頼愼。頼母利幹の家士例により拜し奉る。坂城定番引渡しにまかりし新番頭小野飛騨守則武歸謁す。知恩院住職を謝して束巻を献ず。使番して雁給ふ者松平筑前守齊廣始め三人。○二日濱園にならせ給ふ。御物員鴨數多し。奏者番有馬左兵衛佐譽純して。松平阿波守治昭父大炊頭重喜卒しければ吊慰せらる。○三日父死して子家つぐもの九人。○四日吹上花園にわたらせられ南部馬を視給ふ。○五日けふも吹上にして仙臺馬上覽あり。○六日使番して致仕松平宮内大輔頼謙左京大夫頼啓祖父。始め三人へ雁おのく二賜ふ。○七日吹上苑にして騎射を視たまふ。○八日 大納言殿本城

へならせらる。さのふ騎射御覽ありしにより。寄合小笠原平兵衛常方に時ふくたまふ。その射手に金賜ふ事例のごとし。けさ東叡山 凌明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。此夜子の牌頃青山六軒町火をあやまつ。○九日大番猪飼五郎兵衛正胤子半五郎正喬追放たる。○十日 御臺所けふより御さうじ解させ給ふ。○十一日使番して雁二づゝたまふもの。細川越中守齊茲はじめ六人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。牧野備前守忠精京より歸謁す。普請奉行高尾伊賀守信福新番頭となり。目付小長谷和泉守政良普請奉行となる。寄合藪三郎左衛門忠恒。東叡山 寶樹院殿殿有院殿 御母君百五十回御忌御法會中守衛命せらる。○十三日南部大膳大夫信敬家士馬買の事奉はりしにより時ふく給ふ。松平相模守齊邦はじめ十一人雁二づゝ下さる。此日未の牌淺草日輪寺火あり。牧野備前守忠精 兩御所へ干鯛。 御臺所へ色羽二重五巻をさゝぐ。こは京師より歸府なればなり。○十四日父致仕して家つぐもの二十四人。○十五日月なみの拜賀あり。松平肥前守治茂參謁す。松平攝津守義居家繼しを謝して獻物す。酒井左衛門尉忠徳子新太郎忠器。植村駿河守家長子鐵喜千家教初見す。攝津守義居家士等も拜謁す。又長崎奉行肥田豊後守頼常參謁す。今曉牛込中里袋町火起る。○十六日丹波國山家の領主谷播磨守衛量請置しまゝに。子房之助衛萬して遺領一萬八十二石八斗三升をつがしむ。此衛量は故播磨守衛秀の三子にして幼名鶴太郎といふ。兄ども皆世を早うせしかば嗣子となり。安永八年の十月八日襲封

谷衛量の事

し。天明五年十一月十五日 凌明院殿を拜み奉り。その年の十二月十八日從五位下して大學頭に任じ。同じ八年四月九日出羽守と改め。寛政元年四月二十四日幸橋口の守衛を奉はり。その後諸門の護屢命せられ。同じ五年五月八日駿府加番仰付られ。この年九月二十一日卒せり。三十七歳。○十七日紅葉山 御宮に安藤對馬守信成代參す。此日碁將碁のものをめしてその技を闘諍せしめらる。作事奉行三上因幡守季寛奥の舞臺その他修理奉はりしをもて時服三賜ふ。所屬賜物差あり。日光門主より口切の茶に蜜柑そへ獻せらる。此日奥にして申樂御遊あり。樂組は欠。○十九日松平肥前守治茂始め十五人へ雁各二を給ふ。西城新番に入もの七人。西九納戸より一人。大番より四人。甲府勤番より二人なり。又奥にして老臣に雁二づゝ下さる。本所中の郷焼失す。○廿一日濱苑にならせらる。鴨鳥鴨鳥を狩得給ふ。所司代土井大炊頭利厚。大坂城代青山下野守忠裕に驛をはせて雁を給ふ。○廿三日西城小姓組番士に時服を賜ふ。去し濱御成の時鳥射しをもてなり。松平政千代家士に同じ品下さる。馬買のこと奉はればなり。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に井伊兵部少輔直明代參す。此日因幡國鳥取の支封松平縫殿頭定常病に犯され。宗家よりも請しまゝに致仕命ぜられ、其子兵庫定興に遺領二萬石をつがしむ。此定常は故大隅守定得の子。實は支封池田半藏政勝の二子にして。幼名を恒次郎といふ。安永二年九月十八日襲封し。其年十月一日同じ事を謝して兩城へ獻りものす。天明五年二月十五日始めて 將軍家凌明院 殿御事を拜し奉り。同

池田定常致仕

じ六年十二月十八日叙爵して縫殿頭と改め。七年五月七日始めて就封の暇給はり。寛政四年四月十六日日比谷門警衛命せられ。同じ八年五月二日駿城加番奉はり。のち常盤橋日比谷兩門を守護し。けふ致仕し。天保四年七月十三日終れり。六十七歳。けさ角筈村新町火を出す。○廿五日水邸に松平伊豆守信明して。鶴千代君袴着御祝として二種千疋。綿。大納言殿よりは水野出羽守忠友して二種千疋。臺の上よりも同じ。又中將の方へ 御所より二種千疋。大納言殿。臺の上よりも一種千疋づい。中納言の方へは 御所より一種千疋。西城後閣よりは一種づい。俊祥院尼へは 三御方より一種づいなり。よりて水兩卿まうのぼり老臣に謁し退てらる。又鶴千代の方より巻物。金馬代。一種千疋。中將の方は二種千疋獻せらる。臺の上へも同じ。この日未の牌淺草寺中出火す。今夜子の刻神田蠟燭町にも火を誤てり。十四街類焼す。この火災により老臣少臣その他登營す。○廿六日小普請より小姓組に入もの十一人。○廿七日菊千代の方色直し御祝として。御側本郷大和守泰行もて。御所より小袖二襲。一種千疋つかはさる。同じ事により 大納言殿よりも進らせものあり。けさ青山長者丸火起る。○廿八日使番土屋長三郎正備目付となる。又瓜連常福寺某小石川傳通院へ。岩槻淨國寺某瓜連常福寺へ。増上寺伴領了眠岩槻淨國寺へ共に住職命せらる。御膳所臺所頭田中十左衛門老免して小普請に入。金二枚給ふ。此夜酉の牌四谷新宿天龍寺中出火す。○廿九日納戸番小澤新十郎忠安式部卿方の物頭とせら

疎快温の事

大草政郷至
孝なるを以
て罪を免さ
るる召出され
て小普請に
入る

る。この日より東叡山にして 寶樹院殿御法會はじめあり。○十二月朔日月なみ佳賀恒例の如し。小姓組番頭に准じ申次見習ふ龜井壹岐守清容留守居となさる。松平兵庫定興。谷房之助衛萬共に家つぎしを謝し金巻物を獻す。傳通院。常福寺。淨國寺東巻□本捧げ住職せしを謝し奉る。日光奉行大久保内膳正忠寅。那須衆福原内匠參謁す。○二日東叡山 寶樹院殿百五十回御忌御法會により戸田采女正氏教代參す。日門へ同じ御法會事なく濟しにより。銀百枚を采女正氏教して贈らせらる。僧中へも下されものあり。歳暮褒賞例の如し。山の衛を奉はりし寄合藪三郎左衛門忠恒まうのぼり老臣に謁して退く。○三日けふも歳暮褒美あり。此日濱の園にならせ給ふ。鴨數多狩得給ふ。太田備中守資愛。阿部伊勢守正倫へ雁二づゝ賜ふ。○四日表高家島山二郎四郎國儔子榮三郎。寄合本間佐渡守季道孫十右衛門季典。中奥小姓北條筑後守氏軋子新藏はじめ。父死して家つぐ者十人。播磨國三ヶ月領主森下野守快温請置しにより。關但馬守長輝弟芝次郎長義をして嗣子と定め。その遺領一萬五千石をつがしむ。此快温は故河内守俊韶の養子。實は松平安藝守重晟の三子にして。寛政五年八月十一日初見し奉り。その年十一月十日家をつぎ。其冬叙爵して下野守と改め。このとし九月二十七日卒す。歳三十四。西城新番服部猪左衛門老免し小普請に入褒金たまふ。故代官にして遠島せられし大草太郎左衛門政董子門左衛門政郷あらたに召出され。麩米百俵下され小普請に入らる。これは門左衛門政郷同じ島に赴き孝養行届き。かつ舊家なれば

かくは命ぜられしなり。増上寺より生花蜜柑さげ寒中御けしき伺奉る。けふ午牌頃青山火起る。○五日又歳抄の賞行はる。さりし御狩のとき鳥射し小姓組番士二人おのこの時ふく三給ふ。○六日小普請より腰物方に入もの一人。此日奥にして少老へ雁を下さる。番醫中川隆玄瑞春奥醫員命ぜられ専庵と改む。○七日小姓林肥後守忠勝小姓組番頭に准じ申次を見習はしめらる。松平和泉守乘寛始め十一人へ雁を給ふ。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○九日有馬左兵衛佐譽純はじめ雁賜はるもの十七人。松平伊豫守治好。立花左近將監鑑樹御船藏前。及び本所河渠渡利助役命ぜらる。この夜小石川四軒町火あり。○十一日日門及び増上寺へ使番して楡重つかはされ寒中を尋問せらる。三家よりも初雪降しかば物を獻せらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。此日松平安藝守齊賢濃勢尾三國水高補先手筒頭となる。○十三日掃座の佳儀規のごとし。堀田豊前守正毅。小笠原近江守貞温に雁を下さる。この日千住筋へ放鷹せらる。御息所梅田村明王院にて餉まいる。御物員鴨二羽なり。○十四日歳暮の褒賞あり。○十五日月次拜賀舊に同じ。堀田大藏大輔正順はじめ參觀八人。森芝次郎長義家つぎしを謝し獻りものす。宮原長門守義潔孫仙之丞。大澤下野守基季子左京。那須の者二人參謁す。浦賀奉行水野伯耆守忠良。使番柳原左衛門職序駿府目付はて、共に謁見す。書院番筒井次左衛門武矩小十人頭

となる。過日濱園にならせられしとき鳥射し番士時ふく賜ふ。○十六日松平肥前守治茂。細川越中守齊茲。松平攝津守義居。松平左京大夫頼啓共に少將。松平大學頭頼愼は侍從に任じ。松平頼母利幹は從四位下に叙し淡路守に任ぜらる。諸大夫になるもの十四人。中川萬之助久貴は修理大夫。黒田十五郎直方は豊前守。森右近忠哲は和泉守。増山勇之丞正寧は備中守。遠山左吉友壽は刑部少輔。久留島祥丸通同は伊豫守。松平寛之進信成は丹後守。北條左京氏喬は相模守。岡部美濃守長備子盛太郎長周は主計頭。松平直之助直堅は備中守。植村鏡喜千家教は伊勢守。小姓組番頭高井左京常房は但馬守。民部卿方家司桑原善兵衛盛倫は遠江守。西城留守居宅間與右衛門紀峯は豊後守。又布衣の士に入る者十七人。西城目付松浦大膳忠。使番仙石次兵衛久貞。戸田主税助。雨宮權左衛門正宴。井上伸正章。石野新左衛門廣温。中根勘解由正長。神尾市左衛門元孝。桑山十郎右衛門晴喜。鶴殿十郎左衛門長居。書院番與頭高木左京正雄。西丸同職戸田市郎兵衛直著。同城裏門番の頭諸星明之丞信豊。小十人頭野間金三郎成澄。二丸留守居安藤小膳信姿。西城納戸頭長崎源之助元良。奥右筆組頭尾島定右衛門信賢之。又奥にして叙爵命ぜらるゝは小姓山木八十八美濃守。遠藤幸太郎壹岐守。西丸小姓松平内藏助正名下野守。三淵榮之助正繁土佐守。小納戸西尾充太郎政温布衣の士に列る。又奥醫員杉浦玄徳。中川専庵瑞春。柴田元泰法眼に叙す。一橋邸用人丸毛甚三郎利庸。民部卿方用人川口七郎左衛門卿の請はるゝにより布衣の士となる。漆奉行川村新六

修理御膳所臺所頭となる。新番深尾四郎兵衛之長老免し小普請に入袞金二枚を賜ふ。
○十七日紅葉山 御宮并 諸廟に詣て給ふ。○十八日高家戸田備後守氏倚して。日光門主に。近々在山によりまうのぼられ對面せまほしき由を仰遣さる。奥右筆より表の同職に貶さるゝもの一人。此日奥能あり。例のともがら視る事免さる。樂は月宮殿。箒。羽衣。安宅。胡蝶。大江山。祝言岩船。狂言雁金。靱猿。惡太郎。布施無經なり。○十九日大番頭内藤甲斐守正範。書院番頭安藤伊豫守直久時ふく四づし給ふ。これはさきに松平信濃守忠明蝦夷地御用奉はりしにより。その組引受精研を賞せらる。甲斐守正範は書院番頭たりしときを褒せらる。勘定奉行小笠原和泉守長幸時服三たまふ。是は石川左近將監忠房同じ事奉はりしにより。代りとして道中の事奉はりしをもてなり。民部卿方家司飯田能登守易信。桑原遠江守盛倫神田邸の御用兼しをもて時服三づつ賜ふ。又松平安藝守齊賢の家人濃勢尾三國水行其他の事奉はりしにより。時服銀羽織へ給ふ事差あり。○廿日日光門跡近々在山によりまうのぼられ御對面あり。饗賜ふ事舊のごとし。小十人頭筒井次左衛門武矩布衣の侍に列る。また奥にては西丸小姓井上圖書正方愈爵して越中守と稱す。○廿一日新堀のほとり放鷹せらる。御厨所は村なる勝曼寺。西小松川村新町裏にて御拳黒鶴。御鷹茶釜林。東一の江村にて御拳同じ。御鷹高架。西小松川にて御拳鴻。御鷹美津山なり。大久保安藝守忠眞はじめ三人へ御鷹の雁一つたまふ。又使番して松平阿波守治昭はじめ五人へ同じ品下さる。日門。三家。

及び水世子。増上寺へ例のごとく御使して八代蜜柑をおくらせらる。○廿二日臨時の慶賀あり。勘定吟味役岡松八右衛門久稠東海筋その他川渠浚利奉はり。金五枚。時ふく。羽折へ暇給ふ。寄合津田璋之助。西城旗奉行渡邊圖書頭貞綱孫主計。百人組の頭本多修理忠益養子丹宮。先手筒頭岡部内記忠英子萬之助。使番坂本小大夫直諒子常三郎。戸田主税助養子織部。石野新左衛門廣温子新兵衛。西城書院番與頭戸田市郎兵衛直著子勘兵衛はじめ。其他初見し奉るもの若干なり。○廿三日中奥小姓松平美作守信彌新堀御狩のとき鳥射しかば時ふく三賜ふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に京極備中守高久代參す。松平豊前守仲雅。木下主計頭俊懋明のはる參向公卿の館伴命ぜらる。増上寺より茶野老。傳通院より蜜柑獻じ歳抄を祝し奉る。○廿五日大番頭前田安房守矩貫病もて辭職す。この日勘定奉行柳生主膳正久通養子求馬。作事奉行三上因幡守季寛子吉郎季富。小普請奉行松平市正信行^{子勝}舍人信盈。大坂町奉行水野若狹守忠道子要人忠一。日光奉行有田播磨守貞勝子七之助。先手弓頭長田讚岐守守盈。小納戸熊倉小野右衛門茂周子彌吉茂高。西城小納戸依田平左衛門政明子八太郎政懋。父共久々精勤すればとて召出され。兩番の内に入られ廩米三百苞づゝ下さる。廣敷番の頭清水新右衛門定高子庄九郎定理。父久々精勤。其上學問藝術出精。西城切手番の頭森山忠三郎義立子彦四郎。父久々精勤。そが上藝術精研をもて大番の内へ入られ。ちのく二百苞賜ふ。表右筆里見八郎右衛門義章養子鐵五郎義記。父久々精勤。其上學問出精。

奥右筆秋山松之丞維祺子金之丞維良。長谷川新次郎寛次子長次郎寛久。御牧長十郎昌方養子助之丞。榎田彌太郎相直子市五郎。西丸表右筆遠山吉五郎景照子常五郎。父共久々勤しかば召出され表右筆命せらる。常五郎は西城に附らる。此日濱の御園にならせらる。御拳鳴若干小鷲一羽なり。又辰牌頃日輪三暈現す。申牌過る頃芝伊皿子臺町出火す。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側平岡美濃守頼長代參す。勘定奉行中川飛驒守忠英。同吟味役金澤瀬兵衛千秋金時服たまふ。これは本所の邊川凌及通程御用奉はりしをもてなり。下吏賜物給ふ事差あり。この夜澁谷豊澤村火あり。○廿七日西丸書院番頭巨勢日向守利和本城に迂り。小姓組番頭佐野肥前守義行西城書院番頭。西丸小姓組番頭秋元隼人正保朝本城に迂り。百人組の頭水野石見守貞利西城小姓組番頭となる。民部卿家老横田十郎兵衛延松子五郎三郎喬松。先手筒頭中根求馬可厚子常次郎はじめ。父死して家つぐもの十八人。又濱の御狩の時鳥射し小姓組番士時ふく給ふ。小普請より大番に入もの九人。大番大久保十兵衛勝長行跡よろしからざるをもて。小普請にいれられ謁見をとめらる。けさ高田寶泉寺火あり。○廿八日當賀例に同じ。歳抄をほぎ巫祝共獻物す。森芝次郎長義從五位下して兼河内守に任ず。○廿九日大番より西丸腰物方に入もの一人。小普請より納戸番に入もの一人。今曉丑の牌ごろ牛込邊出火す。○三十日松平丹後守信圭大番頭となり。火消役松平式部忠寧寄合火災巡視奉はり。八木十三郎補短火消役となる。十三郎補短布衣の侍に加はる。

江戸大火

文恭院殿御實紀卷卅二

享和二年正月に始り 六月に終る御齡三十

享和二年壬戌正月元日諸規式例のごとし。この日亥の牌頃麻布永坂邊より火起り。西北の風烈しく。十番雜色古川町まで焼失。卯の刻にやうくにして火鎮る。池魚録。○二日きこのふに同じ。この夜戌の刻頃小石川御門内松平讚岐守頼儀邸より火をあやまちて。元飯田町書院番頭淺野中務少輔長富邸にて火消る。又青山百人町邊にも火あり。○三日又同じ。此夜謠曲はじめ例のごとし。御乗馬はじめ濟しにより。厩方のともがら時服を賜ふ。○五日上千柴のほとり成らせらる。御物數鴨。白雁。雁金。菱喰なり。○六日僧侶洞官ら拜賀恒例に同じ。○七日若菜の御祝例のごとし。伊勢は高家大澤下野守基季。大内は中條山城守信復。日光は前田信濃守長禱。共に代參使にさしれ。大納言殿御使をも奉はりて各いとまたまふ。賜物は舊に同じ。○八日東叡山 嚴有院殿。 凌明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。けふ春雪降しにより。紀邸より勝栗。水邸より椎茸。尾邸より干瓢まいらせ御けしきうかゞはる。○九日去りし五日御成のをり鳥射し諸番の士四人時服を賜ふ。○十日東叡山 諸廟に詣させ給ひ。 深徳院殿。 至心院殿靈牌所にもいたらせたまふ。けさ湯島の邊延焼す。○十一日具足の御祝例のごとし。連歌はじめまた同じ。萬代は君ぞかぞへん松のはる。 逸。生添ふ竹や長閑なる庭。御鶯は朝なくに里馴て。其此日群臣餅酒を賜ふ事例におなじ。吹上

御庭にして弓場はじめあり。當座の賜祿例のごとし。小納戸大久保甲五郎徳綱。西城小納戸大井新右衛門政表。寄合新庄勝三郎直利。中奥番村上大學義雄。小姓組島田庄五郎氏□。近藤勘右衛門用豫。長崎彌之助元居。半左衛門書院番石丸勇之丞定靜。帶刀と改むともに使番となる。今曉丑の刻頃東叡山龍王院焼失す。又寅の牌日本橋本船町より火をあやまつ。○十二日三緑山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。さのふ弓場はじめすみしにより。その師小姓組小笠原館次郎持齡に時服を賜ひ。射手の番士十人に黄金を下さる。小納戸高崎啓五郎廣道勤のさまよろしからずとて。奥の職をゆるされて御前をとめらる。○十三日濱の庭園に成らせらる。鷹を放たれ鴨十二羽狩捉給ふ。この曉麻布坂下町より火起り。植村駿河守家政が邸にて火鎖る。○十四日三緑山 文昭院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十五日今朝山王社へ御側岡部因幡守長貴代參し太刀馬資金壹枚を薦めらる。僧徒祠官の拜賀例の如し。去りし十三日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。この日淑姫君歳首をほぎて奥にいらせ給ふ。○十七日紅葉山 御宮に御詣あり。 大納言殿にも詣給ふ。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。青山大膳亮幸完奏者番となり。寺社の奉行を兼しめらる。この曉常盤橋門内松平越前守治好邸より火をあやまつ。よて三家のかたぐい使まいらせ。老臣はじめ。その他高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきさうかいはる。表祐筆より奥祐筆の見習となるもの壹人。○廿一日龜有のほとり成ら

青山寺完寺社奉行に任

せらる。御かへさに鴨七羽を狩得させ給ふ。使番小菅猪右衛門正容火災巡視をゆるされ。石谷周防守清盡して代らしめらる。また寄合堀田主税正名火災巡視のこと命ぜらる。○廿三日去りし廿一日御成のをり鳥射し番士三人時服を賜ふ。けさ淺草橋場町火災あり。○廿四日三緑山 台徳院殿。 文昭院殿。 有章院殿。 惇信院殿靈廟に御詣あり。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。高家前田信濃守長禱日光山よりかへり謁す。日光門主山より歸られしかば。高家宮原長門守義潔して慰勞せらる。○廿五日寄合醫河野良以通明奥詰となる。此日西城書院番弓削多彌右衛門基隆。兄雄心さしぞへをもちて斬かけたり。兄の事とは申ながら。取鎮方も有しを刃傷に及びしをとがめられ死を賜ふ。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側本郷大和守泰行代參す。○廿六日よべ再雪ふりしかば。三家のかたぐい使して御けしきさうかいはる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。松平肥後守容頌參觀す。松前若狹守章廣就封のいとまたまふ。細川越中守治年子六之助初見したてまつる。閑院伏見兩宮歳首の使者。その他遠國寺僧祠官等見えたてまつり。勘定奉行小笠原和泉守長幸甲勢濃三國川渠修造の事奉はりいとまたまふ。日門へ本月御祈禱の料つかはさる。○廿九日三緑山 有章院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。佐竹右京大夫義和。真田豊後守幸專。大川ちよび本所の邊川渠浚利修造助役の事命ぜらる。右京大夫義和在邑なれば驛使して傳へらる。○この月より三月に至りしばしば風烈しくして日毎に火災多し。

相良長寛致仕

池魚録 ○二月朔日日光久能兩山御鏡符籙いたゞかせらる。日光門主御對面あり。青蓮院門跡。安樂心院の宮使者見えたてまつる。高家大澤下野守基季伊勢より歸り調す。西城小納戸頭取中山志摩守信勝本城にうつり。小納戸矢橋熊之助良金はおなじ格となり。中野監物は西城小納戸頭取となる。○二日濱の庭園に成らせらる。御拳は若干なり。西城書院番跡部三郎左衛門正幸番士に應ぜざるにより。小普請に貶され御前をばからしむ。○三日三家のかたぐへ使して。鷹のとりし鶴を贈らせらる。○四日去りし二日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。小普請より西城納戸番に入るもの一人。此日奥にて申樂御遊あり。例の輩觀覽を免さる。樂は右近。知章。楡垣。望月。玉葛。張良。飛雲。狂言目近。犬山伏。因幡堂。枕物狂とぞ。○五日釋奠により。御側大久保豐前守忠温して。聖堂へ黄金壹枚御薦あり。後閣用人小笠原大隅守同じ費用の事心いるゝにて時服二給ふ。屬吏銀給ふ。肥後國人吉の城主相良壹岐守長寛病により致仕して。其子志摩守頼徳をして所領二萬二千石餘をつがしむ。この水戸中將治紀卿。松平加賀守治脩へ鷹とりの鶴をおくらせらる。西城御伽木村庄橋貞休同じ小姓になる。○七日松平越前守治好父隱居左兵衛督重富に鷹のとりし鶴をつかはさる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○九日船堀のほとり成らせらる。鷹もて鴨雁を狩捉給ふ。松平豊後守齊宣父隱居榮翁重豪へ鷹の鶴つかはさる。此日牛込濟松寺領下戸塚村民家火災あり。○十一日去りし九日御成のをりに鳥射し番士二人に時服を賜ふ。この夜早稻田宗參寺延焼す。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○十五日月次の拜賀例の如し。大久保安藝守忠真はじめ。就封のいとまたまはるもの十一人。相良志摩守頼徳家繼しを謝して獻りものす。交代寄合平野中務長純子徳三郎長興初見し奉る。遠國寺院巫祝のともがら歳首を賀し奉る。大番頭中坊河内寺廣看。松平内匠頭康休二條成役はて、歸調す。おなじ與頭番士等も同じ。○十六日小姓組宮崎次郎大夫成章老免して小普請となる。褒金を賜ふ。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏教代參す。○十八日一橋門外閑地に成らせらる。御物數鴨二羽なり。○十九日駿府城代杉浦丹波守正勝子直次郎中奥小姓になり。小姓組番頭山口和泉守直良子勝之助中奥番となる。○二十日東叡山 乘臺院殿靈牌所に御側大久保豐前守忠温代參す。西城書院番雀部彈右衛門辰直。大番佐橋茂兵衛佳方老免して小普請となり。共に褒金を賜ふ。去りし十八日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。高家中條山城守信復京より歸り調す。○廿一日龜有のほとり成らせらる。御拳雁鴨なり。歳暮に時服たてまつりし三家のかたぐはじめ。例のともがら。兩本願寺に御内書を賜ふ。 大納言殿より奉書をわたさる。○廿二日勘定奉行菅沼下野守定喜。同職石川左近將監忠房蝦夷地の事奉はりし後繁劇を賞せられ時服黄金を賜ふ。○廿三日細川六之助首服を加へて見えたてまつり。御一字を下され從四位下侍從に叙任し。兵部大輔齊樹とあらため。白銀三十枚。卷物十。薩摩國貞安の刀を

細川齊樹元服

小納戸川
安倫目付
羽太正養
夷奉行に任

さげ謝し奉り。御盃に美濃國兼貞の御刀下され。父越中守治年おなじ事謝して。綿二十把。金馬代たてまつり見えたてまつる。蝦夷地の事奉はりし少老立花出雲守種周時服五を賜ひ。書院番頭松平信濃守忠明。勘定奉行石川左近將監忠房共に金時服を賜ふ。日光奉行大久保内膳正忠寅西城留守居となり。小納戸川筑前守安倫。目付羽太庄左衛門正養共に蝦夷奉行命ぜられ。座班は長崎奉行次たるべしとなり。筑前守安倫は百俵加秩ありて實祿五百石となりて。御用の時は奥へも罷出べしとなり。勘定吟味役三橋藤右衛門成方日光奉行となり。西城書院番荒井士兵衛保國同じ小十人頭となる。是日吹上の園にて大的視給ふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。日光奉行三橋藤右衛門成方勘定吟味役たりしとき。蝦夷地の事奉はりしをもて時服二黄金七枚を下さる。○廿五日又雪ふりしにより。三家のかたぐい使して御けしきうかゞはる。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參す。○廿八日月次例のごとし。松平肥前守齊直はじめ就封のいとまたまはるもの五人。肥前守齊直。水野左近將監忠鼎は長崎港の事命ぜらる。木下定太郎利徹。新庄駿河守直規子龜丸直計初見したてまつる。目付松平伊織康英。堀左京亮直教封地にて致仕乞しにより。檢視としてつかはされしにより。暇下され金五枚を給ふ。小納戸頭取に准じたる矢橋熊之助良金同じ頭取となりて。勤務の内千五百俵高になさる。この日入貢の蘭人見えたてまつる。貢物は猩々緋二端。羅紗三種。緋布ら太ごろふくれん三種。金銀もふ

蘭人入貢

風邪流行す

勅院使下向

る。天鵞絨三種。金巾。上かあさ。木綿なり。○この月より四月に至り諸國風邪流行。勤仕のものへは湯藥をたまふ。市井貧民は御救として米鶯眼を下し給ふ。太平○三月朔日上巳御祝として。日光門主三家のかたぐい使して二種□荷まいらせらる。蘭人暇たまひ時服三十。大納言殿より同じく二十たまひ。條約讀み聞しめらる。事例の如し。此日公卿參向により。戸田采女正氏教して慰勞せらる。高家六角越前守廣孝添て進る。○二日參向の公卿御引見により。溜詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのばり。白木書院に出たまひ。敕使勸修寺前大納言經逸卿。千種前中納言有政卿。院使梅小路前中納言定福卿御對面あり。歳首の御祝として。禁裡より黄金三枚。仙洞より同じく二枚。中宮より同じく一枚。大納言殿にも同じく進らせらる。はて、攝家門跡勾當内侍の使者各物捧げて見えたてまつり。また公卿使者。樂人總代。冠帽末廣師にいたるまで拜みたてまつる。はて、高家大澤下野守基季御使して。鹽鶴一匹。樽一荷を旗亭に贈りつかはさる。御對面事なく濟しによりてなり。万年此日淑姫君歳首として西城へいらせらる。今曉芝濱松町火災あり。○三日上巳の御祝規の如し。け湯島切通しの邊より出火して。天神裏門の前にて火鎮る。○四日公卿辭見ありしにより。溜詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。白木書院へ出給ひ。敕使。院使御對面あり。御返詞仰含められ歸洛の暇たまふ。勸修寺前大納言經逸卿。千種前中納言有政卿にものく銀二百枚。綿百把。大納言殿より銀百枚。梅小

路前中納言定福卿に銀百枚。綿十把。大納言殿より五十枚をつかはされ。其他攝家門跡の使者。樂人總代。冠帽末廣師にいたるまで物賜ふ。敕使 院使歸洛により。臺の上より時ふくを下さる。また高家前田信濃守長禰御使して。公卿のもとへ猿樂見物の事仰つかはされ。三家へも同じ事を告らる。○五日公卿饗應の猿樂あり。よて三家のかたぐし始め。溜詰。譜代の大名。高家。詰衆。奏者番父子。布衣以上。法印法眼の醫師。その他まうのぼり。大廣間に出たまひ。三家のかたぐし御對面あり。公卿もあなじく。次に伺公のともがら見えたてまつり。少老立花出雲守種周舞臺に出て。その大夫へ樂はじむべきよし傳へ樂はじまる。番組は翁三番叟。東方朔。朝長。法。二人靜。昭君。祝言養老。狂言二番。髭橋。惡僧なり。時服纏頭あり。要脚廣蓋例の如し。席々にして饗應調理を給ふ。○六日濱の庭園に成らせらる。御物數鳴なり。松平越前守治好子なきにより。二橋民部卿齊敦卿の舍弟松平本之丞をもて養子たるべきのよし仰出さる。寄合村上三郎右衛門常福蝦夷地の事ゆるされ。勤勞を慰せられて黃金三枚。時服二を賜ふ。交代寄合松平主水守誠養子潤之助善長。書院番頭山田肥後守利壽子先手筒頭讚岐守利往。寄合跡部監物養子式部はじめ。父死して家つぐ者九人。○七日今朝參向の公卿發途あり。松平越前守治好こたび養子の事仰出されしにより。まうのぼり老臣に謁して謝し奉る。この曉粧町のほとり火あり。よりて宿老少老その他まうのぼり御けしき伺ふ。松平伊豆守信明に鳴二羽を下さる。○八日東叡山。 凌明院殿靈

前田治脩致仕

聖堂防火の
とを前田家
に命ず

廟に安藤對馬守信成代參す。 蓮光院殿靈牌所に御側岡部因幡守長貴代參す。此日吹上の園にて騎射御覽あり。萬年記 ○九日清水の官邸へ。 兩御所成らせらる。加賀國金澤の城主松平加賀守治脩病により致仕し。養子筑前守齊廣に所領百二萬五千石餘をつがしむ。この治脩實は故加賀守吉徳が第八子にて。幼名を時次郎といふ 明和八年三月實兄加賀守重教の嗣子となり。同じ月廿五日 凌明院殿に謁見し。その四月二十三日封を襲ぎ。六月二十五日御諱の字賜はり。正四位下に叙し。左兵衛權少將兼加賀守に任じ。七月二十二日御鷹の鳥拜賜し。其後しばらくたまはり。安永元年十二月十八日中將に轉じ。寛政四年十二月十五日參議をかね。同じ十一年十一月六日こたび聖堂修築成功したる上は。その邸近きにより火防の事命ぜられ。けふ請置しまゝに隠退し。三月十一日肥前守と改め。その九月十一日疝痛脚病により國許湯あみの事を置しが。暇たまはり御羽織拜賜し。文化七年正月九日金澤にして終をとれり。年六十八。○十一日普請奉行佐橋長門守佳如子萬藏佳富。京都町奉行森川越前守俊尹子主膳。新番頭朝比奈河内守昌始子次左衛門昌宅。先手弓頭深澤主水盛徳子熊次郎英盛。目付松平田宮榮隆養子金五郎隆録。使番大久保八郎左衛門忠移養子左衛門次郎。水野小十郎元休養子主馬元典。西城書院番與頭戸田市郎兵衛直著子勘兵衛直養。同じく小姓組與頭赤井主計直盈子彌市郎直時。小十人頭三宅助之丞政市養子吉次郎與行。西城小納戸谷庄兵衛衛貞子銳之丞衛足。納戸頭飯塚伊兵衛政長子甲之助長賢。勘定吟味役澤次郎右衛門幸純

子鎌之助幸洸。田安邸用人格旗奉行三賀監物長頼養子清五郎長政。西城御膳奉行永井主水尙喜養子内膳尙賢は武技精熟。西城目付鶴殿式部長衛子鐵三郎は問學武技精熟。蝦夷奉行羽太庄左衛門正養子彌太郎正定。留守居番齋藤長八郎總良子主膳總苗。先手筒頭鶴殿新三郎長國子猶之進長龜。目付土屋帶刀廉直子金三郎温直。徒頭坂部善次郎直之養子彌太郎。小十人頭筒井權左衛門順享養子善三郎順長。小納戸澤善之丞實茂子爲次郎問學精熟によりともめし出されて兩番のうちに入られ。表右筆組頭深澤伊兵衛信義子全太郎信實。小普請組支配組頭龜田三郎右衛門三興養子專三郎三詮。富士見寶藏番の頭朝比奈長七郎昌因子八十助泰因。幕奉行本多金左衛門安金養子錠三郎。代官竹内平右衛門信將子富之助信珉。松下内匠正亮子榮吉維則は武技精熟。西城切手門番の頭館九八郎隆養子卯之助長隆は父の勤勞により召出されて大番のうちに入られ。御臺所用人小笠原大隅守義武子彌太郎義備。淑姫君用人加藤勘助正顯子鐵三郎正燭はじめ。御臺所。淑姫君の請ひたまふにより召出されて兩番のうちに入らる。この日大奥にして峯姫君御髮置の御祝あり。奥勤の輩に吸物祝酒下さる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○十三日表高家畠山織部義福子修理義一。寄合金田近江守正延養子式部正繁。伊澤内記方守子主水政武。花村三郎兵衛正利子忠兵衛正彬。松平左門忠光子十次郎。石谷豊前守清定養子使番周防守清豊はじめ。父致仕して家つぐ者廿三人。三郎兵衛正利。豊前守清定はあのかゝ養老の料

遠山景晋目付となる

三百苞を賜ふ。○十四日小姓能勢河内守頼徳小納戸の職頭取らしむ。○十五日月次の拜賀例のごとし。紀伊中納言治寶卿封地の御暇仰出されしにより。牧野備前守忠精御使としてつかはさる。西城よりは水野出羽守忠友奉はり二種一荷つかはさる。よてまうのぼられ。竹の間にして御饗應あり。はて、御座所にして御對面せられ。御盃に熨斗炮添てまいらせられ。御鷹馬を遣さる。臺の上よりは使して一種一荷なり。また松平豊後守齊宣參觀す。松平肥前守治茂子左衛門佐齊直領地のいとまたまひ御馬を下さる。大目付久田縫殿頭長考子孫太郎初見たてまつる。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。持弓頭彦坂九兵衛忠營小普請組の支配となり。徒頭遠山金四郎景晋目付となる。○十八日この夜亥の牌頭鐵砲洲細川能登守利庸邸火をあやまつ。○廿一日川越蓮馨寺某新田大光院へ。増上寺伴頭在妙川越蓮馨寺へ共に住職命ぜらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。○廿五日拂方金奉行鈴木傳右衛門盛英老免して小普請となる。褒金を賜ふ。代官小笠原仁右衛門則普子政之助武技精熟により。めし出されて小十人組に入らる。○廿八日東叡山中堂修復成て 正遷座供養濟みしにより。日光門主に施物として白銀百枚を遣さる。御使は高家戸田土佐守氏明なり。門主より使して符籙に巻物五。昆布一匣をまいらせらる。○廿九日先手筒頭近藤七郎右衛門正火賊捕盜の事ゆるさる。小普請より小十人に入るもの二十五人。小十人原田覺左衛門工組。西丸小十人澤井文大夫茂方西城の同じ與

松平頼救致仕

頭となる。○四月朔日いさゝか御感冒により表へ出まされず。出仕のともがら宿老に謁して退く。加茂の社人より葵を獻ず。佐渡奉行鈴木新吉正義赴任の暇たまふ。賜物例に同じ。この夕午込三十人町延焼す。○二日松平安藝守重晟驛使して鶴拜賜を謝し奉る。○三日寄合前田安房守矩貫嫡孫熊次郎。戸田七内光票養子彦三郎光紹。小納戸頭取大島伊豫守義充養子右京はじめ。父死して家つぐもの十人。○四日この夜音羽町火災あり。○五日常陸國宍戸領主平大炊頭頼救病により致仕し。その子一學頼敬をして所領一萬石をつがしむ。この

大番頭長谷川丹後守勝富病免して寄合となる。書院番會我熊之助新墾の地改命せらる。○六日紀姫一橋民部卿齊致卿妹君。こたび細川兵部大輔齊樹へ婚嫁ありしにより。御悦として三家のかたぐ及び世子より使まいらせらる。日光門主近々御登山により。高家戸田備後守氏倚御使して時服をまくらせらる。番醫奈須玄竹恒徳同じく警衛の事命せらる。○七日紀伊中納言治寶卿けさ發途ありしにより使まいらせらる。松平大炊頭頼救致仕し。子一學頼敬家つぎしを謝して。水戸中納言治保卿より使まいらせらる。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。日光山 御宮代參。大納言殿御使兼命せられたる高家六角越前守廣孝。おなじ 靈廟代參使永井山城守尚佐。同じ山の祭祀の奉行田沼主計頭意信。本庄近江守道利ものくいとま賜ふ。賜物は舊に同じ。日光門主御登山によりまうのぼられ御對面あり饗膳給ふ。○九日吹上の庭園

堀直方致仕

寺社奉行青山幸完免

に成らせられ。夫より神田橋の邸に過らせらる。越後國村松の領主堀左京亮直方病により致仕し。その子三十郎直庸をして。所領三萬石をつがしむ。この直方は鞠負直泰が子にして。天明三年十一月廿六日叔父丹波守直教が嗣子となり。同じ六年三月十五日初見したてまつり。寛政七年十月六日家つぎ。その十二月叙爵して左京亮と稱し。けふ致仕して後。文化二年七月廿三日卒す。とし三十九。奏者番兼寺社奉行青山大膳亮幸完病により請ふまゝに寺行の奉行はゆるされ。奏者の事はそのまゝつとめよと命ぜらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。○十三日松平阿波守治昭母うせしかば。奏者番松平右京亮輝和して吊慰せらる。○十四日大坂倉廩の奉行三橋藤兵衛盛義子藤太郎盛榮武技精熟によりめし出されて大番に入らる。○十五日月次の拜賀例のごとし。一橋民部卿齊致卿は妹君の婚姻を謝して。綿二十把獻り見えたてまつられ。松平加賀守齊廣襲封を謝して。備前師光の刀。馬二匹。銀百枚。卷物二十。齊廣父肥前守治脩は致仕を謝し。太刀。銀三十枚。卷物五さげて見えたてまつる。松平一學頼敬家つぎしを謝して物を獻る。東海道甲濃勢三國川々修造の事はてし勘定奉行小笠原和泉守長幸。同じ吟味役岡松八右衛門久稠。および所屬のともがら。また堀左京亮直方が在所に赴きし目付松平伊織康英かへり謁す。僧侶束卷獻じ入院を謝し奉るもの多し。小納戸中野定之助。松平忠左衛門勝貞小姓となる。○十七日紅葉山 御宮に 兩御所御詣あり。○十八日王子のほとり成らせられ雉子九羽

を狩捉給ふ。新番建部隼之助賢朗老免して小普請となり褒金を賜ふ。小十人久留久次郎正和おなじ與頭となる。○十九日上杉彈正大弼治廣。佐竹右京大夫義和はじめ參觀のもの十六人。交代寄合菅沼新八郎定賢大番頭となり。先手筒頭堀三左衛門直從持弓頭となり。小納戸大林彌左衛門親中徒頭となる。○二十日東叡山 大猷院殿靈廟。心觀院殿靈牌所に御詣あり。高家六角越前守廣孝。祭祀の奉行田沼主計頭意信。本庄近江守道利日光山よりかへり調す。○廿一日松平越前守治好。細川越中守齊茲はじめ。就封のいとまたまはる者三十五人。小姓組與頭大久保喜右衛門忠官病免して寄合となる。小普請方大島半左衛門勝猛拂方金奉行となる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。日光山へ代參使につかはされし永井山城守尙佐山よりかへり調す。○廿五日羅漢寺のほとり成らせられ。御拳は霞五位。水鶏。鶴なり。西城小姓組番頭柘植長門守正寔病免して寄合となる。この曉下谷坂本町火災あり。○廿六日白木書院に出たまひ。諸職および番士小普請のともがらまで武技御覽あり。ちのく布帛を賜ふ。○廿七日三縁山本堂山門。その他修復經藏再建等の事奉はりし作事奉行平賀式部少輔貞愛。目付松平田宮榮隆。勘定吟味役澤次郎右衛門幸純おのちの金時服を賜ひ。その他所屬のともがら賜物差あり。京知恩院某大僧正に任せらる。○廿八日月次の拜賀例のとし。立花左近將監鑑壽はじめ。就封のいとま賜はるもの三人。左近將監鑑壽へ御馬を下さる。稻葉伊豫守雅通參觀す。堀近江守直起養子

奏者番松平
行を兼任す

内膳直温はじめ見えたてまつる。堀三十郎直胤環封を謝して太刀巻物を獻す。奏者番松平右京亮輝延寺社の奉行を兼しめらる。二九留守居松村十右衛門良尚養子猪三郎武技精熟により。めし出されて兩番のうちに入らる。○廿九日三縁山 有章院殿靈廟御詣雨によてなし。松平伊豆守信明代參す。○五月朔日月次の拜賀例のごとし。井伊掃部頭直中はじめ就封のいとまたまはるもの四人。松平隱岐守定國參觀す。米良主膳則順參謁す。知恩院某大僧正を謝して束卷を獻す。又端午の御祝として。日光門主使して二種一荷進らせらる。小姓組窪田勘右衛門正扶同じ與頭となる。○二日端午の御祝として三家のかたぐははじめ。萬石以上。兩本願寺。例のともがらより。使して時服をたてまつる。大納言殿へも同じ。小普請より大番に入る者九人。二條鐵砲奉行大岡右門時實富士見寶藏番の頭となさる。○三日甲濃勢三國川渠修造の事奉はりし勘定奉行小笠原和泉守長幸。同じく吟味役岡松八右衛門久稠。美濃郡代辻甚太郎守貞金時服を賜ひ。その他所屬のともがら賜物差あり。また上野中堂修復の事奉はりし小普請奉行松平市正信行。目付寛助兵衛爲規金時服をたまひ。所屬のもの賜物差あり。○四日留守居駒木根大内記政永子孫助中奥小姓となり。西城小姓組瀧川傳右衛門具高。書院番松平織部定期。小普請御手洗信七郎正輝のち五郎兵衛同じ番士となる。小普請組支配堀田主膳一定子鏡之丞一知はじめ。父死して家つぐもの五人。○五日蒲節の御祝規のごとし。○六日徒頭曾我又左衛門朝祐病免して寄合となる。那須衆三人暇たま

舒姫生

蝦夷奉行を箱館奉行と改稱す

ふ。○七日この曉姫君生れさせたまふ。墓目は西城小納戸中野監物。矢取はその子佐太郎。篔刀は小納戸喜多村斧三郎正秀これをたてまつる。西城小十人加藤乙次郎利寛同じ與頭命ぜらる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟代參御産穢により立られず。○九日去りし七日姫君御生誕により。御祝として溜詰。高家。詰衆。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼり。三家のかたぐい使して祝し奉る。○十日東叡山 常憲院殿靈廟代參使の事御産穢により立られず。米良主膳則順就封の暇たまふ。○十一日濱の庭園に成らせらる。この日蝦夷奉行を箱館奉行と唱替命ぜらる。○十二日増上寺 惇信院殿靈廟代參十日に同じさまなり。松平加賀守齊廣父致仕肥前守治脩養母かたの叔父下總守忠和らせしにより。奏者番小笠原近江守貞温して吊慰せらる。○十三日御出生の姫君を舒姫君と稱しまいらせられ。また 御臺所御やしなひと仰出さる。七夜御祝として。松平伊豆守信明御使して産衣二襲。綿三十把。二種一荷。 大納言殿より水野出羽守忠友御使して産衣二襲。綿三十把。一種千匹。 御臺所より使して産衣二襲。綿三十把。二種千匹まいらせらる。日光門主使して昆布一箱。符籙同じくまいらせらる。貞章院尼より同じ事ほぎて 御所。 御臺所。御出生の方へ鮮魚まいらせらる。京極備中守高久は御出生の姫君へ御名まいらせしにより巻物五。 臺の上より同じく三。出羽守忠友は御使つとめしにより同じく巻物下さる。また墓目の役西城小納戸中野監物。篔刀の役小納戸喜多村斧三郎正秀。白銀三十枚。時服三を賜ひ。矢取

の役監物子中野佐太郎同じく二十枚貳を賜ふ。小納戸大河内善十郎政良徒頭となる。少老京極備中守高久御出生の御子へ御名差上るにより巻物五。 臺の上より三を賜ふ。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。先手筒頭岡部内記忠英火賊捕盜の事免され。大河内善兵衛政壽して替らしめらる。此日護持院權僧正某初瀬小池坊の住職となる。○十五日月次の拜賀例のごとし。松平甲斐守保光。本多隱岐守康完就封のいとまたまふ。松平山城守信愛參觀す。京極周防守高備子右近高寧初見したてまつる。大番頭市橋下總守長照。高木主水正正剛二條成役はて、歸謁す。與頭番士も同じ。山田奉行堀田土佐守正貴。佐渡奉行蜂屋源八郎成定任所より歸謁す。舒姫君を 御臺所御やしなひと仰出されし御祝として。水尾のかたぐい。同じく世子使まいらせらる。○十七日紅葉山 御宮。 諸廟御詣雨により安藤對馬守信成代參す。○十八日大奥にして申樂あり。例のともがら視る事ゆるさる。室君。朝長。法住吉詣。橋辨慶。葵上。鉢木。亂。狂言連歌毘沙門。二人大名。茸。山伏。宗論。鬼のまゝ子なり。○十九日駿國府城代杉浦丹波守正勝西城御側となり。書院番頭松平信濃守忠明駿府の城代となり。西城目付鶴殿式部長衛先手筒頭となる。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。寄合指揮せし武田河内守信親西城小姓組番頭となる。○廿一日高田のほとり成らせらる。御物數子雲雀。雀なり。今曉寅の牌高橋の邊火災す。○廿三日紅葉山 御宮。 靈廟に御參あるべかりしが。よ

勅定奉行管
召定喜職を
寄はる

への雨にて延滞せらる。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に牧野備前守忠精代參し。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。日光門主山よりかへられしかば。高家大友因幡守義方御使して慰勞せらる。坂城鐵砲奉行眞野藤左衛門正庸病免す。○廿五日小普請より小十人組に入るもの十一人。○廿六日日光門主山よりかへられしによりまうのぼられ御對面あり。○廿七日使番仁賀保大膳誠善病免して寄合となる。駿河國府の城代松平信濃守忠明任所に赴くにより。例のまゝに千五百兩の恩貸あり。此日勘定奉行菅沼下野守定喜家計乏をもて市人に屢引合。はてには金子借入れしよし偽り。實は國用の金銀等の事奉はりしものより借請け。家士にのみ任せ置き。金主名前も不定の證文へ裏印致す由聞へしにより。職奪はれ御前をとぐめらる。○廿八日小普請より大番に入るもの一人。○三十日三縁山 有章院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。日門へ本月祈禱料おくらせ給ふ。幡隨院伴頭圓察三州松應寺住職命ぜらる。○六月朔日月次の拜賀例のごとし。京極能登守高中就封の暇たまふ。初瀬小池坊某東卷を獻じ住職を謝す。○二日西城書院番頭永見伊豫守爲貞本城に遷り。西城小姓組番頭松平圖書頭忠明同じ書院番頭となり。小普請組の支配戸田中務光弘西城小姓組番頭となり。新番頭酒井但馬守忠宣小普請組の支配となり。小姓牧野若狹守成著新番頭となり。使番仙石次兵衛久貞西城目付となる。寄合蒔田權佐定詳同列指揮命ぜらる。小普請より西城小十人組に入るもの十四人。○三日寄合皆川左京府清子森之助。

享和卒

保科正率致

使番大井新右衛門政表養子女蕃はじめ。父死して家つぐもの六人。西城納戸頭長崎源之助久良子大番彌太郎。父の蔭もて大番より兩番のうちへうつさる。○四日亨姫君この程病にふさせられしが。けふ午の刻ばかりにうせたまひぬ。よて高家。奏者番はじめ。其他の人々へ宿老これを傳ふ。御所。臺の上は三日。大納言殿は一日の御いもゐあり。音楽を停めらる。事三日。○五日亨姫君御事により。三家のかたがた。日光門主使まいらせ。溜詰。高家。雁間詰。奏者番。諸番頭。諸物頭。布衣以上まうのぼり御けしきうかゞふ。姫君御事諭して唯乘院と稱しまいらすべきよし仰出さる。○六日寄合阿部鞆負正依東叡山凌雲院にて唯乘院の方新葬法會の警衛命ぜらる。○七日上總國飯野の領主保科越前守正率致仕し。その子能登守正徳をして所領二萬石をつがしむ。この正率は故越前守正宜が子にて。明和五年五月十五月初見し。七年七月五日家つぎ。その冬叙爵して彈正忠に任じ。のち今の名にあらため。寛政三年十月大坂の定番となり。享和元年五月二十日病免し。けふ致仕してのち文化十二年十月十四日卒す。とし六十四。書院番横尾六右衛門宅平。勘定正木武左衛門嘉繼。近藤太左衛門老免して褒金銀をたまふ。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。けふ未刻唯乘院御方を東叡山の凌雲院へ埋葬し奉る。○九日東叡山 淨圓院殿靈廟所に牧野備前守忠精代參す。田安邸番頭東條權大夫季勝淑姫君の用人となる。○十日寄合石川兵庫總明火災巡視命ぜらる。○十一日作事奉行三上因幡守季寛駿河國久能

山 御宮修復のこと命ぜらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に御詣あり。○十三日松平加賀守齊廣中將にすゝむ。尾邸より巢鷲二据さし。○十四日留守居龜井壹岐守清容舒姫君生誕の事奉はりしにより時服を賜ふ。尾邸より使して巢鷹を獻せらる。○十五日月次の拜賀例のごとし。山王の祠祭祀により。御側高井飛驒守清寅代参し金三枚御進薦あり。この日吹上にて祭祀のねりもの視給ふ。又徒頭して神輿を護送す。○十六日嘉祥の御祝規のごとし。○十七日紅葉山 御宮。 諸廟御詣あり。○十八日臨時朝會あり。松平阿波守治昭就封の暇たまふ。御馬を下さる。戸田能登守忠翰はじめ参觀のもの十八人。けさ御使して水戸中納言治保卿父子。尾張中將齊朝卿へ巢鷹をおくらせられしかば。治保卿父子はまうのぼられ。齊朝卿は使まいらせて謝したてまつらる。○二十日東叡山 有徳院殿靈廟に御詣あり。けふ土用に入りしかば三家のかたぐい使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。○廿一日臨時朝會あり。小姓組番頭高木伊勢守守富紀伊國への御使命ぜられ暇たまふ。賜物は金十枚なり。小笠原右近將監忠苗はじめ就封のいとまたまふもの二十五人。寄合松平正次郎。林友之丞直英養子猷之助。大草織部高般養子大膳高好初見したてまつる。小普請奉行松平市正信行勘定奉行となる。○廿二日光門主使してものまいらせ。暑中の御けしきうかゞはる。安樂心院宮には詞をそへらる。増上寺方丈ものまいらせ御けしきうかゞふ。武蔵國忍城主松平下總守忠和いまはの請により。養子織部正忠翼に

小普請奉行
松平信行
定奉行に任

松平忠和の
事蹟

遺領十萬石をつがしむ。この忠和は實紀伊中納言宗將卿第九男にして。寛政五年九月二日嗣子となり。その年十一月朔日 文恭院殿にはじめて拜謁し。おなじ月廿八日襲封し。その冬十二月十六日從五位下に叙し兼下總守に任じ。同六年十二月廿四日四位に叙し。そのとし五月十日四十四歳にして卒せり。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代参す。大番坂本伊織正豊同じ與頭となる。○廿五日端午に時服進らせし三家の方々始め。例の輩。東西本願寺にいたりて御内書を賜はる。大納言殿より奉書をわたさる。小普請田澤玄兆美健。中村玄種知隆。及び番醫遊佐卜庵信庭子九伯召出され。共に番醫となる。○廿七日留守居岡野肥前守知曉老免して寄合となる。時服を賜ふ。○この月江府近郊霖雨。この害に罹り箱根山温泉流出す。泰平年表

文恭院殿御實紀卷卅三 享和二年七月に始

○七月朔日月次の拜賀例のごとし。松平山城守信愛。松平宮内少輔忠□。大岡越前守忠移。柳澤伊賀守信被。城城加番にさし暇たまふ。賜物規に同じ。小笠原右近將監忠苗養子伊豫守忠固封地への暇たまふ。堀田大藏大輔正順養子大膳正時。駿府城代松平信濃守忠明子太炊忠徳ともに初見し奉る。大番頭菅沼新八郎宅賢。菅沼伊賀守宅候城在番の暇給ふ。同じ與頭番士まで賜物舊の如し。新八郎宅賢叙爵して攝津守と改

ひ。長崎奉行肥田豊後守頼常赴任のいとまたまふ。賜物は規に同じ。暑中を問せられて日光門主。増上寺方丈に楡重おくらせらる。山田奉行堀田土佐守正貴西城持筒頭となる。○三日日光門主使して新蓮藕をまいらせらる。寺社奉行吟味物調役平山六左衛門寛里右衛門督方の郡奉行となる。この日鷹匠岡三左衛門義抽弟宗次郎某罪ありて軽く追放たる。○四日西城御側藤堂肥後守良峰子駒五郎良眞。寄合有馬式部純昌子熊五郎はじめ。父死して家つぐもの十七人。七夕の御祝として日光門主二種一荷まいらせらる。○五日姫君御生誕。即日御逝去ありて法如院と諡す。○六日七夕の御祝として。三家のかたぐははじめ。例の鯨料たてまつる。小姓組進藤五郎右衛門正春子求馬は父の年勞その上藝技により。新番頭本多嘉平次光貞子源左衛門光政。西城新番與頭飯島主税胤子龜太郎胤道。大番與頭徳力金十郎良興養子寅藏良範。門奈半右衛門直暉養子政吉直隱。大岡十郎兵衛政副子安之丞政信。小姓組横山彌十郎一清子富之助一長。夏目外記信行子繁三郎。西城小姓組飯室傳次郎昌符養子繁三郎昌香。櫻井庄兵衛勝強養子庄八郎。雨宮新五郎正脩養子昇。書院番安藤八郎右衛門定名子達次郎定矩。羽太清左衛門正盈養子乙三郎。松平一學乘崇子寅太郎。深津彌三郎正房養子彌五郎正般。松平甚三郎義久養子三次郎。西城書院番富澤小兵衛利章養子幾次郎。朝倉勘四郎俊紳子善太郎俊光。大河内金兵衛久雄子金之丞久徹は藝技。書院番間宮市兵衛信理養子恒五郎信願は問學。山岡傳右衛門景洲養子傳十郎景風。西城書院番筒井左膳正

盈養子右馬助政憲は問學藝技。小姓組板橋左五兵衛盛移養子三十郎盛服。多羅尾内匠光正養子玄番。兼松又四郎正景養子正次郎。森川金右衛門氏壽子大助。瓦林助次郎嘉成子大次郎。西城小姓組木村七右衛門重勇子源吾。原田小兵衛房子忠太郎種敏。岡野權次郎久明子金之丞。久須見又助息言子斧太郎。書院番三浦鍊次郎直行子大次郎。水谷七郎勝興養子又吉。神尾千之丞長剛子式部。朝岡新七郎國休子式部國村。上野勘解由資徳子七九郎。朝岡左京豊興子主水。西城書院番久世三之丞廣和子孫三郎。竹村惣左衛門嘉邦子鍋次郎。大久保平右衛門忠第子初五郎。西郷市左衛門員壽養子久五郎員長は父の年勞により。おのゝ召出されて兩番の内に入らる。新番横地太郎兵衛政武子龜三郎政丞。加藤助五郎則親子助之丞則喬。大番山田甚平直郷養子十左衛門は父の年勞藝技。新番松平喜平澤乘兆子喜太郎は問學。齋藤與一郎用恭子金十郎。河尻與兵衛鎮海子穀輔。西城新番青木八十郎信孝子久米之丞。同じ腰物方松平右衛門清達子源七郎清。武川元五郎恒佐子金太郎。納戸方長坂三郎右衛門基顯養子音吉。大番豊島七五郎泰道子彌五郎泰道。紅林源之丞義正子源之丞。水谷權大夫忠陸子雅次郎忠順。大岡孫右衛門義安養子常吉義方。井出平次郎政永子荒次郎正明。長尾莊右衛門景親子勝五郎景。永田權右衛門義休子七郎左衛門政徳は問學。大番仙波彌左衛門種雄子鍋吉種福。神谷伊織直好養子銀次郎直徳。雨宮次郎右衛門忠位養子又次郎忠壽。羽太清左衛門正盈子裁助之正。荒川數馬詮親養子吉十郎。蜂屋十郎右衛門正直養子荒五

郎正行。小十人與頭今井忠兵衛政之子榮之助政忠。平塚甚三郎教親子大三郎。寒河金六郎保道子時太郎保高。折井吉右衛門朋正養子久次郎。櫻井嘉八郎貴賢子八太郎貴道。西城小十人與頭加藤乙次郎利寛子虎五郎寅忠は藝技。大番三上尾之丞季達子熊太郎全有は技藝。大番都筑長十郎政富養子鍋五郎。鳥居小左衛門方子榮之助篤行。江原九郎右衛門一清養子馬之助親裕。小林重之助正智子又吉正與。西山新右衛門明昌養子辨吉昌春。淺井次右衛門良啓養子次郎吉良直。山本次右衛門美政子藤三郎。朝比奈政之助勝之子市平治勝興。淺香吉之丞直明子傳四郎直徳。小十人組與頭伊藤彌次兵衛利屋養子龍八郎父の年勞により。共に召出されて大番に入り。西城小十人山田次右衛門美政子新十郎。西尾與惣右衛門教氏子三五郎教正は藝技。小十人篠原彦四郎勝居子鐵藏。松前五郎助廣達子政次郎。小野寺傳十郎通軌子熊太郎通賢。堀田小十郎氏睦子斧太郎氏方。窪田喜左衛門房昌子順藏。西城小十人吉田安之助春良養子久之助。志村又兵衛光孝子傳右衛門。井戸五左衛門子金藏。神沼左司馬美英養子二郎吉は父の年勞により。共にめし出されて小十人組に入る。又駿府勤番渡邊八三郎正明養子八十郎父の勤勞其上藝技。山田善右衛門清則養子治部左衛門は藝技。甲府勤番伏木五郎藏惟清養子六郎左衛門。山崎榮十郎帶刀。菴原庄次郎忠久養子定五郎忠容は藝技。井出藤右衛門正祥子萬藏正克。芦屋小傳次正俊養子銀次郎は父の年勞によりちの勤番となる。驛をはせて其勤番に傳へらる。○七日七夕の御祝規の如し。○八日御産穢によ

り東叡山 後明院殿代參使立られず。○十日小姓組美濃部十右衛門茂育。松平駒次郎忠順。横田十郎兵衛喬松。花村忠兵衛正彬。松平四郎進禮。近藤九五郎盛同。佐野與八郎政敷。熊倉彌吉茂高。三上吉郎季富。西城小姓組松平寅太郎。鈴木十右衛門後改源五利正。奥村次左衛門後改左五右衛門。矩恭。天野彦右衛門忠永。水野辨六後改彌兵衛。守之。本多八藏虔貞。書院番永田百助嘉壽。平井熊次郎豐昌。小野半左衛門貞雄。白井龜五郎後改喜内。房萬。西城書院番小川傳藏後改新九郎。正方。土岐藤兵衛頼實。能勢助之丞頼匡。天野勘七昌效。新番諏訪莊左衛門頼篤。大岡數馬義景。大番山邊十左衛門惟中。小普請戸塚金十郎後改吉忠榮。石野鹿之助後改才太郎。唯善小納戸となり。小姓組番頭に准じ御用申次見習ふ林肥後守忠勝子藤五郎忠起。箱館奉行戸川筑前守安倫子雄三郎安清。新番頭岩本石見守正倫子鐵之丞正脩。一橋邸番頭鈴木大助勝美養子多宮直救同じく召出されて小納戸となる。

○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。日光奉行有田播磨守貞勝小普請奉行となり。目付篁助兵衛爲規山田奉行となり。納戸頭平岩六郎右衛門親充西城徒頭となり。書院番上野勘解由資徳同じ與頭となる。○十四日紅葉山 諸廟に御參あり。東叡山 至心院殿靈牌所に御側高井飛驒守清寅代參す。○十五日中元之佳儀例の如し。高家宮原長門守義潔御使して。日光門主に盆料。時服二十をつかはされ。内藤豊前守信敦御使として。増上寺方丈會海に。おなじく銀貳百枚。時服十をつかはさる。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參す。西城小納戸新見又四郎正

鄰。岡部五左衛門盛昌本城にうつり。小納戸春日左門。松平豹次郎忠順。近藤元五郎威同。三上吉郎季富。奥村佐五右衛門矩恭。天野□右衛門忠永。宮本鐵之丞正脩。鈴木多宮直救は西城に遷る。○十八日西城小納戸金田傳左衛門正喜本城に遷る。○廿一日書院番平岡瀬兵衛茂曹養子莊九郎は文學技藝出精。西城書院番竹村惣左衛門嘉邦子鍋次郎。西城裏門番の頭大前孫兵衛房明子熊次郎房諷は父の勤勞により。共に召出されて兩番の内に入らる。○廿三日寄合柘植長門守正寔子中奥番三藏正陽。内藤越前守信義養子縫殿。水野筑前守勝美子西城小姓組勲負勝善。片桐新丞佑賢子虎之助貞桓。秋元忠右衛門守朝養子鐵五郎謙朝はじめ。父致仕して子家づくもの十九人。長門守正寔。筑前守勝美は養老の料三百疋を賜ふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。牧野備前守忠精此九月東叡山 浚明院殿十七回御忌御法會の總督命ぜらる。この事日光門主へも備前守忠精して傳へらる。徒頭佐野宇右衛門庸貞目付となり。西城納戸頭長崎源之助元由本城にうつり。代官河尻甚五郎春之西城納戸頭となり。小納戸戸塚吉三郎忠榮小姓となる。松前若狹守章廣蝦夷地の事はさきさき其方へ委任せられし所。東地の方はさきに官用の地となり。西北の儀は是迄の如く厚く心得べしとなり。

東蝦夷地を
松前氏より
收公す

〔休明光記卷四〕云。東蝦夷地永久土地被_レ仰出_二旨。同年〔享和二年〕七月廿四日松前若狹守名代堀三左衛門。若狹守 在邑也。采女正氏教朝臣_カ。左之通書付を以て達し給ふ。

蝦夷地之備は。前々其方進退致來候處。東蝦夷地の方先達て當分御用地に相成候場所。永々土地に被_レ仰付。西地之儀は如_レ是迄_一相心得。仕置_レたくは厚く心を用_レるやう被_レ仰出_二候。可_レ被_レ存_二其旨_一候。翌廿五日此方にも左の通書付を以達し給ふ。

松前若狹守

箱館奉行江

松前若狹守

今度東蝦夷地上地に被_レ仰出_二候に付。爲_二其代_一向後年々金三千五百兩宛被_レ下候。最是迄當分御用地之代に渡來候武州久喜町之所務井東蝦夷地收納内々相渡候御用金之儀者。已來相止候段。若狹守江相達候間。可_レ得_二其意_一候。右東蝦夷地收納之内々相渡したる御金といふは。此收納_レ辻の事殊の外入組。急金には取調難さより。先内渡として未年には金千兩相渡し。申年には三千五百兩。酉年には二千五百兩相渡したり。戌年よりは前書の通りになりて金止む。

○廿五日御膳所臺所頭矢田堀喜兵衛延勝老免して小普請となる。褒金を賜ふ。○廿七日兩國橋より天地丸御乗船にて。番士その他の水馬上覽ありてのち漁視給ひ。夫より濱の庭園に成らせられて還御なる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。松平加賀守齊廣就封の暇たまひ。美濃國兼光の御刀に鷹馬を下さる。稻葉丹後守正誼はじめ參觀四

水馬上覽

人。松平下總守忠翼家つぎしを拜謝し奉る。駿河國府の城代松平信濃守忠明。日光奉
 行三橋藤右衛門成方共に初て赴任の暇たまひ賜物舊に同じ。藤右衛門成方叙爵して
 飛驒守とあらたむ。使番小笠原兵庫信備。小姓組彦坂三大夫紹芳。賜物舊の如くにし
 て大坂目付にさゝれて暇たまふ。○廿九日湯島根生院某初瀬小池坊住職となる。○三
 十日去りし廿七日御成のをり。大川にして乗馬川渡つとめし麻方のもがら諸番士
 小普請の輩金賜はるもの二十四人。納戸頭長崎源之助元良。西城納戸頭加藤忠左衛門
 忠宣西城納戸局費用の事により時服を賜ひ。所屬のともがら賜物差あり。源之助忠定
 は西城勤務の勞を褒せらる。又寺社奉行吟味物調役星野鐵三郎益□常に心入るれば
 とて。六拾俵増加ありて百俵高になし下さる。○八月朔日當日の佳儀例のごとし。去
 りし廿七日馬川渡せし小姓武川讃岐守恒前。小納戸龜井欽五郎清緝。松平仁右衛門近
 豐ちのく奥にて時服を賜ふ。○二日寺社の奉行堀田豊前守正毅。勘定奉行小笠原和
 泉守長幸。この九月東叡山 浚明院殿御法會の事命せらる。保科能登守正徳同じ警
 衛の事奉はる。○三日寄合長谷川丹後守勝富養子岩吉勝孚。三枝豊前守守歳養子元五
 郎守定はじめ。父死して家つぐもの十人。○六日下野國黒羽領主大關伊豫守増輔病に
 より致し。その子吉太郎増陽に領知一萬八千石をつがしむ。この増輔は故因幡守増備
 の長子にて。明和元年十月二十二日父が遺領を襲ぎ。安永五年三月朔日初見し奉り。
 八年の冬叙爵し。けふ致仕してのち文化四年四月廿七日うせぬ。とし四十六。この日

大關増輔致仕

禁裡附丸毛利隆日光奉行に賜ず

寄合小笠原越中守宗準不正の事ありて。火災巡視免され御前をとゞめらる。この日西
 城御膳所臺所頭松下忠右衛門政徳本城にうつさる。○八日東叡山 浚明院殿靈廟
 に戸田采女正氏教代參す。 禁裡附丸毛長門守利隆日光奉行となり。小姓組小笠原館
 次郎持齡徒士頭となる。酒井修理大夫忠貫加茂貴船の社その他助役の事つとめしに
 より時服二十九たまひ。その家士にも銀時ふく羽折下さる。事差あり。小十人宅間善左
 衛門憲孝二條鐵砲奉行命せらる。○九日大番木造清右衛門俊往同じ與頭となる。○十
 一日船手頭向井將監正直病免して寄合となる。目付松平伊織康英船手頭を兼しめら
 る。小姓組松浦金彌剛小納戸となる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正
 氏教代參す。寄合土屋彌學直舊。松平孫大夫勘滿ともに火災巡視となる。孫大夫勘滿
 は本所深川の邊見めぐらしむ。○十三日 御臺所濱の庭園に成らせらる。小普請組
 の支配溝口相模守直舊子金彌直道 大納言殿伽衆となる。父の蔭もて小十人より兩
 番にうつるもの一人。○十五日月次の拜賀例のごとし。小姓組番頭高木伊勢守守富紀
 州よりかへり謁見す。大久保安藝守忠眞はじめ參觀の者八人。堀田大藏大輔正順はじ
 め就封の暇たまはるもの六人。大關吉太郎増陽封つぎしを謝し獻りものす。使番水野
 虎之助忠篤駿府目付の暇給ふ。賜物舊におなじ。初瀬小池坊住職の謝儀聞へ上て東卷
 を奉る。○十六日御膳所臺所與頭前原八十郎某西城御膳所臺所頭となる。西城新番建
 部宗四郎秀澄御番に應ぜずとて。小普請に貶され御前をとゞめらる。○十七日紅葉山

●御宮に松平伊豆守信明代參す。○十八日吹上庭園より一橋邸へ過らせらる。釋奠により御側白須甲斐守政雅御使して金一枚御進薦あり。水邸より初雉を獻らる。○二十日東叡山 心觀院殿靈牌所に松平伊豆守信明代參す。○廿一日小普請より腰物方へ入る者一人。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。○廿六日松平飛驒守利考。鍋島甲斐守直温。細川能登守利庸に東海道および甲斐美濃伊勢の三國川々修理の助役命ぜらる。松平阿波守治昭。京極能登守高中。島津淡路守久柄同じく奉書をもて傳へらる。番醫奈須玄竹恒徳家業出精により原祿に復せらる。○廿七日濱の庭園に成らせらる。大納言殿も同じ。寄合醫多紀安長元簡日光門主御登山により警衛の事命ぜらる。○廿八日目付小島孫右衛門正苗 禁裡附となる。○廿九日日光門主御登山により。高家前田美濃守長禱御使して梨子一籠をおくらせらる。○晦日西城腰物方大番兩城小十人等より。新番にうつるもの十人。○九月朔日月次の拜賀例のごとし。池田山城守政共參觀す。久世大和守廣譽はじめ就封のいとま賜はるもの二人。京極壹岐守高堅。寄合大久保隼人駿河國府の城加番にさされ暇給ふ。大番頭内藤甲斐守正範。建部内匠頭政堅在番はてし歸謁す。與頭番士もちなじ。○二日日光門主御對面せられ申樂觀覽せしめらる。院家坊官家司迄同じ。よりて高家。詰衆。奏者番。布衣以上上直のともがら迄見る事をゆるさる。舞臺にして少老立花出雲守種周散樂始むべき事を大夫に傳ふ。樂は繪馬。生田。敦盛。源氏供養。通小町。融。狂言萩大名。

目付小島正苗禁裡附に任ず

節分なり。樂の半にして席々にして饗賜ふ。はてし再び御對面ありて奥に入らせらる。○三日重陽の御祝として。三家のかたぐははじめ。萬石以上のともがら。兩本願寺より使して時服をたてまつる。大納言殿へも同じ。東叡山 浚明院殿御法會によりかしこに赴くをもて。宿老牧野備前守忠精。寺社の奉行堀田豊前守正毅。勘定の奉行小笠原和泉守長幸謁を賜ふ。○四日東叡山 浚明院殿十七回周忌御法會初日により。靈廟に安藤對馬守信成代參す。同じ事により三家のかたぐは使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしき伺ふ。重陽の御祝として日光門主使して二種一荷をまいらせらる。西城新番青木八十郎信孝老免して小普請となる。褒金を賜ふ。○五日御法會中日により。三家のかたぐは及び松平加賀守齊廣より使して檜重をまいらせらる。同じ事により立花出雲守種周御使して日光門主に檜重をつかはさる。出雲守種周して總督はじめその他へ御懇詞あり。また諸家よりまいらせられし菓子。上直布衣以上はじめ徒士にいたるまで下し賜ふ。○六日御法會結願により。戸田采女正氏教代參す。同じ事により三家のかたぐは使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかふ。また御側白須甲斐守政雅御使して。日光門主に氷砂糖一壺をつかはさる。○七日松平安藝守齊賢父備後守重辰封地温泉湯あみせん事を請ふまゝに免され巻物五を賜ふ。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に御詣あり。また 嚴有院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。御法會濟せられしにより。牧野備前守忠精御使して。日光門主に施物と

して銀三百枚。時服十まいらせられ。僧中へも時服銀子を下さる。○九日重陽の佳儀規の如し。此日水邸より 御臺所へ蛙一尺進らせらる。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。高家宮原長門守義潔は日光山 御宮代參す。阿部駿河守正簡は祭祀の奉行命ぜられ暇たまふ。また 淺明院殿御法會事なくはてければ。總督牧野備前守忠精拜謁して時服を賜ふ。おなじ事により水戸中納言治保卿父子はじめ群臣悉くまうのぼり。宿老に謁し退く。尾紀のかたぐい使まいらせらる。また日光門主御使して菓子生花一桶。安樂心院宮も葛煎餅を進らせらる。○十一日西城持筒頭柴田三右衛門勝彭子藏人。徒頭山高十右衛門信板子安次郎はじめ。父死して家つぐもの十三人。西城新番河内左太郎常宣坂城鐵砲奉行となる。本所彌勒寺某護持院護國寺住職兼命ぜらる。○十二日三緣山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。小姓組番頭高木伊勢守守富西城書院番頭となる。○十三日一橋閑地へ御遊あり。御拳鴨一羽なり。寺社の奉行堀田豊前守正毅。勘定の奉行小笠原和泉守長幸。 淺明院殿御法會の事奉はりしをもて時服を賜ふ。右筆のともがらまで賜物あり。水野出羽守忠友病もて。水野壹岐守忠韶して職とかん事を請ふといへども。心ながく保護あるべしと懇命あり。中奥小姓岡野淡路守知鄰（字）けふ駿河國久能山御宮及び寶臺院その他修復の事奉はりし勘定徒その他暇たまふ。○十四日三緣山 文昭院殿靈廟に牧野備前守忠精代參し。 清揚院殿靈廟に奏者番諏訪因幡守忠肅代參す。使番逸見右近長祥

火消役となり。西城目付仙石次兵衛久貞本城にうつる。○十五日月次の拜賀例のごとし。松平加賀守齊廣父致仕肥前守治脩病を以て。封地温泉浴湯の暇たまひ羽織を下さる。佐竹右京大夫義和本所邊川々浚利助役はてしにより時服を賜ふ。立花左近將監鑑壽。眞田豊後守幸專同じ。酒井修理大夫忠貫はじめ參觀三人。土井能登守利貞。本多越中守忠誠。水野日向守勝愛。山口周防守弘致坂城加番はてしかへり謁す。保科能登守正徳就封の暇たまふ。山田奉行眞助兵衛爲規。浦賀奉行水野伯耆守忠良赴任の暇給ひ。賜物は例のさまなり。助兵衛爲規叙爵して越前守とあらたむ。 淺明院殿御法會納經代拜使。閑院宮。近衛家。青蓮院門跡家司ら見えたてまつる。○十六日水尾より使してものく新茶にもものそへて進らせらる。○十七日紅葉山 御宮 諸廟に御詣あり。○十八日 大納言殿淺草のほとり成らせられ。觀音堂脇にて總角撲力御覽有て。米百苞白かね百枚下さる。淺草寺にて晝餉奉る。○十九日本所邊川々浚利助役奉はりし佐竹右京大夫義和。立花右近將監鑑壽。眞田豊後守幸專の家人等賞賜差あり。閑院宮。近衛家。青蓮院門跡の家司ら暇給ふ。賜物あり。水野出羽守忠友病危篤により。小納戸頭取矢橋熊之助良金使して味噌漬鯛をつかはさる。西城よりは中野監物して問せらる。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に安藤對馬守信成代參す。高家宮原長門守義潔。祭祀の奉行阿部駿河守正簡日光山よりかへり謁す。宿老水野出羽守忠友卒せしにより。音楽を停めらる。事三日。○廿一日水野出羽守忠友ら

家慶淺草寺
にて總角撲
力を觀る

水野忠友卒

伏見邦頼親王薨

老中安藤信成四丸附となる

太田原飛驒守

せしにより。雁菊間詰衆。諸番頭。諸物頭諸職まうのぼり御けしきうかゞふ。また井伊兵部少輔直朗御使して。其子大和守忠成に香資の銀三十枚をつかはさる。西城よりは植村駿河守家長して二十錠。御臺所より東條信濃守長祗して五枚なり。日光門主山よりかへられしかば。高家戸田土佐守氏明して慰勞せらる。○廿三日日光門主公澄法親王の父君伏見兵部卿邦頼親王薨せられしにより。高家六角主殿頭廣胖して吊慰せらる。この日淑姫君本城後閣へ入らせらる。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參し。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。西城小姓戸川隱岐守安悌使番となる。○廿五日王子のほとりに 大納言殿共に成らせらる。王子金輪寺にて晝餉進らせらる。御拳は 兩御所鞠なり。牧野備前守忠精及び立花出雲守種周陪從して鶉を得らる。○廿七日奥能あり。兩城宿老見る事を免さる。翁三番叟。高砂。經政。杜若。紅葉狩。鉢木。鞍馬天狗。狂言狝猿。草びら。山伏。三人片輪。髭櫛。狐塚なり。○廿八日宿老安藤對馬守信成 大納言殿へ附させられ御懇詞あり。御てづから波平定行の御刀を下さる。よてその事布衣以上のともがらへ。松平伊豆守信明してつたふ。三家のかたぐへも同じ。○廿九日吹上にて鬮的御覽あり。○三十日三縁山 有章院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。西城小姓組番頭阿部志摩守正章本城にうつり。百人組の頭本多修理忠盈西城小姓組の番頭となる。○十月朔日月次の拜賀例のごとし。黒田豊前守直方就封の暇たまふ。佐竹龜丸義知初見した

てまつる。使番進喜太郎成美。書院番夏目内膳爲毅大坂目付はてゝかへり調す。僧侶入院を謝し。束巻を献ずるもの二人。この日淑姫君御歸館となる。今宵玄猪の御祝規のごとし。○二日さのふ玄猪の御祝濟ませられしにより。三家のかたぐへ使して御けしきうかゞはる。御側大久保豊前守忠温御使して。日光門主の制中を問はせられ菓子をおくらせらる。後閣よりは砂糖漬一壺なり。○三日下野國太田原の城主太田原飛驒守庸清卒す。その子山城守光清に遺領壹萬千四百十六石餘をつがしむ。其庸清は故出雲守友清の第二子にして。寶曆六年十二月廿四日嗣子になり。明和五年十一月朔日初見し奉り。同じ七年の冬山城守と改め。安永四年二月八日家をつぎ。其年三月二日飛驒守となり。享和二年八月十一日五十二歳にして卒せり。使番中根勘解由正長子主税。書院番與頭町野五郎右衛門幸行養子左近幸寧はじめ。父死して家づくもの十四人。この日吹上にして大的祝給ふ。○五日御生誕の御祝により。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。その他上直のともがらへ御祝の餅酒を下さる。奥にして申樂あり。兩城の老臣及び少老迄視る事を免さる。樂は竹生鳥。兼平。小原御幸。卷絹。神樂。松並。野守。狂言末廣がり。止動方角。鎌腹。瓜盗人。米市なり。○六日寄合醫増田壽得良香奥醫となる。護持院某權僧正に任せらる。○七日一橋閑地に出遊せらる。鷹を放たれ鴨數多捉獲給ふ。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。百人組の頭牧野半右衛門忠義甲府勤番の支配となり。中興小姓大久保志摩守忠通百人組の頭となり。徒

内藤政昭卒

所司代土井
利厚老中に
大坂城代所司
山本

代に、奏者
番稻葉正謙
大坂城代に
職任す

頭黒川與市盛匡目付となり。使番にて火災巡視奉はりし石谷周防守清豊西城目付となる。○九日吹上に成らせられ田安邸へ過らせらる。○十二日先手弓頭徳永小膳昌常火賊捕盜の事命ぜらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代参す。○十三日吹上の園にて大的御覽あり。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に御詣あり。○十五日月次の拜賀例の如し。榊原式部大輔政敦。松平遠江守忠告參觀す。上杉駿河守勝定。寄合岡田將監善明。宮城三左衛門和中駿府城加番はて、かへり謁す。太田原山城守光清襲封を謝し金巻物をさしぐ。作事奉行三上因幡守季寛。目付山本若狭守正富。久能山 御宮その他修復の事奉はり。禁裏附小島孫右衛門正苗赴任。寄合戸田内藏助光一は駿河國府城加番命ぜられとも暇たまふ。賜物は舊に同じ。僧侶二人。權僧正入院を謝し奉り束本を獻す。○十六日日向國延岡の城主内藤能登守政韶卒す。嗣子帯刀政和をして遺領七萬石を襲しむ。この政韶實は故能登守政陽が子にして。兄右京亮政脩が嗣子となり。寛政元年正月廿八日初見したてまつり。その冬叙爵し今の名にあらため。同じき二年八月廿日父致仕の日家つぎ。ことし七月三十日うせぬ。とし三十。松平安藝守齊賢使して新茶一壺をたてまつる。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代参す。西城小姓木村庄橋貞休本城にうつる。○十八日大川のほとり成らせられ獵を視たまふ。箱崎田安邸別墅にして餉さこしめさる。○十九日所司代土井大炊頭利厚加判の列となり。大坂城代青山下野守忠裕所司代となり侍從に進み。奏者

番稻葉丹後守正謙大坂城代となる。大炊頭利厚。下野守忠裕が事。布衣以上のともがらへ戸田采女正氏教つたふ。水戸中納言治保卿へは。今朝牧野備前守忠精をつかはされ。また尾張中將齊朝卿幼稚により。家司めして同じく傳へらる。西城書院番織田左兵衛信序老免して小普請となる。褒金を賜ふ。使番初鹿野傳右衛門信政火災巡視の事兼しめらる。この夜飯田町火災あり。○二十日初雪なりしかば。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。三家のかたぐい使してものまいらせ。在府四位以上のともがら同じく使して御けしきうかじふ。納戸頭飯塚伊兵衛政長。荻原金十郎友政はじめ所屬のともがら。同局費用の事精勤を慰せられて。時服また白銀を賜ふ事差あり。○廿一日濱の庭園に成らせらる。應もて鳥數多捉得給ふ。重陽に時服献りし三家のかたぐいはじめ。國持。連枝。例のともがら。兩本願寺に御内書を下され。大納言殿よりは奉書をわたさる。○廿二日 臺の上西城に渡らせらる。○廿三日田安門外藥園に成らせられ。夫より尾張邸の後閣へよぎらせらる。○廿四日東叡山 深徳院殿靈廟所に土井大炊頭利厚代参す。池上本門寺 御墓には御側高井飛驒守清寅代参す。また東叡山より。尾張中將齊朝卿使まいらせ老臣に謁し退く。○廿五日大番より西城腰物方へ入もの一人。○廿六日駿府城番奥田主馬高寛病免して寄合となる。○廿七日駒場野へ放鷹として成らせらる。御拳鴉八羽。堀田攝津守正敦従ひ奉り鴉得らる。○廿八日書院

溝口直候卒

番頭淺野中務少輔長留けふ御狩の鶉一を賜ふ。○廿九日越後國新發田の城主溝口出雲守直候卒す。其子駒之助直諒をして遺領五萬石を襲しむ。この直候は伯耆守直信の子なり。直信その父主膳正直養に先ちてうせしかば。直候たゞちに祖父直養が嗣となり。天明六年閏十月六日ゆづりをうけ。同じき八年十月朔日初見したてまつり。寛政四年の冬叙爵し今の名にあらため。ことし九月八日卒す。とし三十一。○十一月朔日月次の拜賀例のごとし。分部左京亮光實子榮吉光邦はじめて見えたてまつる。大坂城代稻葉丹後守正謙子長門守正備雁之間班となさる。内藤帶刀政和物獻じ家繼しを謝し奉りさげものす。小姓組根岸九郎兵衛衛肅徒頭となる。仙洞附米津周防守田將參謁す。○二日濱の庭園に成らせらる。御物數若干なり。○三日西城書院番頭松平圖書頭忠命子岩之助。火消役關左近盛平子龜之助盛恭。信濃衆座光寺伊奈助爲壽子忠之助はじめ。父死して家つぐもの十二人。○四日京都所司代青山下野守忠裕。大坂城代稻葉丹後守正謙ともに任所に赴くにより。舊規もてものく金壹萬兩の恩貸あり。○五日吹上の庭園に成らせらる。仙臺馬御覽あり。今朝小姓組番頭高井但馬守常房御使して。水戸中將治紀卿のもとに御拳の鴨をまいらせらる。よて謝してまうのぼらる。水野出羽守忠友が遺領駿河國沼津の城五萬石を。その子大和守忠成に襲しむ。この忠友は放出羽守忠毅が一子にして。幼名卯之助。又摠兵衛といふ。元文四年三月八日若君波明院殿御事の御衆となり。寛保二年十一月五日家をつぎ。おなじ三年の十一月十五日

水野忠友の事蹟

若君方の小姓となり。延享四年十二月十九日從五の下して豊後守に任じ。寶曆の三年九月廿七日西城の小姓を頭取らしめ。同八年十月十五日同城小姓組番頭に准じ申次を見習はしめ。同十年四月朔日同じ御側の衆となり。申次舊の如し。その年の五月十三日本城に移り。明和二年正月廿八日千石加恩ありて八千石となり。同じ五年十一月十五日少老に登庸せられ。又五千石加へられて一萬三千石となり。同六年八月十八日出羽守にあらため。安永六年四月廿一日御側用人となり。其日四位に叙せられて七千石増賜はり二萬石となり。その年十一月廿六日駿河國沼津に城築く事命せられ。綴藩翰譜及家譜十一月六日とす。天明元年九月十八日老職に准じ。同じ日五千石増加せられ二萬五千石となり。その年十一月十五日侍従にすゝみ。同じき五年の正月廿九日加判の列にせられ。其日又五千石加賜はりて三萬石となり。同じ八年三月廿八日職をとかれて雁の間班となり。寛政八年十一月廿九日西城の宿老とせられ。このとし九月十九日終をよくす。歳は七十二とぞ。○七日一橋門外閑地に成らせらる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。大坂船手役柴田七九郎庸福百人組の頭となる。○九日仙臺馬の事つとめし松平政千代が家人ら時服白銀を賜ふ事差あり。日光門主このほど制中御尋問ありしにより。使して謝しまいらす。また去りし七日御成のをり鳥射し小姓組番士一人時服を賜ふ。勘定服部專藏保定その與頭となる。○十日久能山御宮外遷宮により。高家織田主計頭信由代參使命せられいとまたまふ。武州浦和王藏

院某湯島根生院住職となさる。○十一日吹上にして南部馬を觀給ふ。日門へ使して御祈禱つかはさる。例は九月なれど。門主のさはりあればけふに及べり。○十二日三綠山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。西城先手筒頭久永源兵衛勝信駿河國府の城番となる。西城切手門番の頭館九八郎羽隆老免して小普請となる。褒金を賜ふ。○十三日濱の庭園に成らせらる。御拳は鴨なり。奥州馬買入の事つとめし南部大膳大夫利敬の家人ら時服銀子を賜ふこと差あり。日光門主山より歸られ。かつ 浚明院殿御法會も濟ませられしにより。御對面せまほしきよしを。高家大友因幡守義方して仰つかはさる。此日 臺の上へ雁三を給ふ。○十四日日光門主まうのぼられ御對面ありて。黒木書院にして御饗應あり。又白木書院へ出たまひ。僧正院家。その他僧中。坊官。家司にいたるまで見えたてまつり。席々にして調理を賜ふ。○十五日月次の拜賀例のごとし。水野出羽守忠成。溝口駒之助直諒金巻物獻じともに家つぎしを謝し奉る。長崎奉行成瀬因幡守正定。浦賀奉行水野伯耆守忠良任所より參謁す。○十六日吹上にならせられ騎射御覽あり。○十七日紅葉山 御宮に土井大炊頭利厚代參す。日光門主使して口切茶蜜柑をへまいらせらる。この日碁將棋のものをめして其技を御覽あり。○十八日小姓組石川孫太郎武貞一橋邸物頭を命ぜらる。○十九日丹波國龜山の城主松平紀伊守信彰卒す。請ふまゝに支封寄合監物庸孝子喜内信志をして遺領五萬石を襲しむ。此信彰は故紀伊守信道が第一子にして。幼名金七郎又七郎といふ。

松平信彰卒

松平親賢卒

寛政三年十月十五日襲封し。同六年閏十一月十五月初て 文恭院殿に見え奉り。同八年十二月十九日爵賜はりて紀伊守と改め。此年九月廿七日卒す。二十一歳。此夜酉牌過より牛込邊火災す。武江年表○二十日豊後國杵築城主松平駿河守親賢卒す。養子備中守親明に遺領三萬二千石を襲しむ。此親賢實は故對馬守親盈が二男にして幼名は民之助天明五年四月十一日嗣子となり。其月二十八日初て拜謁し。同じ五月廿三日家をつぎ。その冬叙爵し駿河守と改め。ことし九月廿八日五十歳にて卒せり。使番會根五郎兵衛次彭病免して寄合となる。○廿一日吹上の園にて草鹿御覽あり。萬年記○廿二日小普請醫石坂宗哲家業出精により。祿百苞高になし下され寄合醫となる。○廿三日二條米廩奉行川合太郎左衛門正賢西城切手門番の頭命ぜらる。この日淑姫君並田橋兩卿北の方へ女使して雁をつかはさる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。松平右近將監武厚。井上河内守正甫。水野出羽守忠成奏者番となる。○廿五日三河島のほとり成らせらる。御物數は若干あり。この日貞章乘蓮兩尼君へ雁をつかはさる。○廿六日書院番平岡瀬兵衛茂曹老免して小普請となる。褒金を賜ふ。大番山本新右衛門陳俊同じ與頭となる。○廿七日去りし廿五日御成のをり鳥射し番士三人時服を賜ふ。此日使番して御拳の鴨を下さるゝは。松平肥後守容頌。松平隱岐守定國なり。○廿八日寄合中川口の番奉はりし石川鞠負總武大坂船手となる。松平左近將監頼興はじめ。使番もて御鷹の鴨下さるゝもの十一人。奥にて宿老へ御拳の鴨

を下さる。○廿九日吹上御庭に成らせられ騎射御覽あり。寄合岡野肥前守知曉子中奥小姓淡路守知鄰。柴村源左衛門盛方養子與十郎盛庸はじめ。父致仕して家つぐもの十人。肥前守知曉は養老の料五百苞を賜ふ。大番池谷空之進義陳老免して小普請となり褒金を賜ふ。勘定山田常右衛門至信代官となる。○三十日高家織田主計頭信由久能山よりかへり謁す。さのふ騎射御覽ありしにより。その師寄合小笠原平兵衛常方に時服を賜ふ。射手の番士。小普請。および平兵衛常方の子平八常亮にいたりて。二十五人へ金を下さる。○十二月朔日月次の拜賀例のごとし。松平又七郎信志。松平備中守親明家つぎしを謝し献り物す。今大路中務大輔正庸屠蘇白散を獻す。○二日濱の庭園に成らせらる。御得物は鴨鷲なり。この日歳暮の褒賞例に同じ。○三日歳暮の賜物昨日に同じ。清水勤番支配新見出羽守正偏西城新番頭に准じ奥に候すべしと命ぜらる。御足米は舊の如し。この日御鷹の雁を使番して伊達遠江守村壽。松平安藝守齊賢に下さる。また勘定組頭藤野茂右衛門在親御殿詰與頭となさる。○四日吹上庭園に 兩御所とも成らせられ相撲御覽あり。宿老少老及び奥向のともがら見る事を許さる。○五日甲府勤番支配松平伯耆守信成子斧太郎。目付松平田宮榮隆養子金五郎隆録。寄合片桐虎之助貞桓養子熊藏貞□はじめ。父死して家つぐ者十五人。去りし二日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。松平上總介齊政はじめ。使番して御鷹の捉し雁下さる。者八人。この夜深く小石川白山境内より失火して駒込の邊過半延焼。翌朝に至りて鎮

江戸大火

松平乗尹致仕

火す。武江年表○六日三河國奥殿の領主松平主水正乗尹病により致仕し。その養子左七郎乗羨に所領壹萬六千石餘を繼しむ。この乗尹實は石見守乗穩が四男にして。兄大隅守乗友が嗣子となり。寛政元年九月十五月初見したてまつり。同じき二年三月六日父致仕の日家つぎ。明る三年の十二月叙爵し對馬守と稱し。のち今の名にあらため。けふ致仕してのち束髪して杏齋と號し。文政元年五月廿三日四十二歳にして封地にありて卒す。けふも御鷹の雁下さる。者四人。○八日東叡山 淡明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。明のとし二月東叡山にて 孝恭院殿二十五回周忌御法會總督の事戸田采女正氏教に命ぜらる。また同じ事を采女正氏教して日光門主に仰つかはさる。○九日再雪ふりしかば。三家のかたぐ。水戸世子よりもまいらせ御けしきうかいはる。けふも酒井雅樂頭忠道はじめ雁下さる。もの五人。○十一日奥にして宿老のともがらちの御鷹の雁を賜ふ。又御鷹の雁を使番して。松平遠江守忠告はじめ下さる。者十人。此日根津門前焼失す。池魚録○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。○十三日千住のほとり成らせらる。鷹もて鴨雁狩給ふ事いと多し。この日掃塵規のごとし。○十四日寒に入りしかば。三家のかたぐ使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかいはる。また日光門主使して菓預まいらせ。安樂心院宮は詞をそへらる。寄合三好土佐守守義中川口の番となる。新番鶴殿藤八郎長恒。大番福王平三郎信明老免して小普請となり褒金を賜ふ。この日箱館奉行へ官料千

箱館奉行の役料を定めて千五百俵とす

五百俸づゝ下さる。○十五日月次の拜賀例のごとし。堀田大藏大輔正順はじめ參觀四人。那須衆壹人參謁す。松平左七郎乘羨襲封を謝しさゝげ物す。甲府勤番支配牧野半衛門忠義初て赴任の暇たまひ。叙爵して播磨守と改む。使番水野虎之助忠篤駿府目付はてゝかへり謁す。西城持弓頭武藤庄兵衛安徵清水邸附勤番支配となる。増上寺方丈使してものたてまつり寒中御けしきさうかはる。○十六日丹羽左京大夫長祥從四位下にすゝみ。其他從五位下に叙するもの十八人。松平又七郎信志は紀伊守。堀又七郎親審は大和守。佐竹龜丸義知は壹岐守。内藤春之丞政環は播磨守。松平一學頼敬は靱負佐。堀田大藏大輔正順養子大膳正時は相模守。西城小姓組番頭戸田中務光弘は出羽守。本多修理忠盈は因幡守。箱館奉行羽太庄左衛門正養は安藝守。中奥小姓久世三四郎廣孝は安藝守。蒔田式部廣朝は讃岐守。久世平九郎廣方は丹波守。小姓千村政太郎頼見は隱岐守。西城小姓戸田寛之丞氏寧は阿波守。山本清五郎茂孫は上野介。小納戸頭取矢橋熊之助良金は遠江守。西城小納戸中野監物は越前守と改む。又布衣の士に加へらるゝ者四十四人。大坂船手頭石川靱負總武。使番新庄勝三郎直利。村上大學義雄。島田庄五郎氏□。近藤勘右衛門豫□。長崎半左衛門元居。石丸帶刀定靜。書院番與頭上野勘解由資徳。小姓組與頭窪田勘右衛門正技。徒頭小笠原館次郎持齡。根岸九郎兵衛衛肅。西城小十人頭荒井十兵衛保國。西城納戸頭河尻甚五郎春之。小納戸美濃部十右衛門茂育。横田十郎兵衛喬松。花村忠兵衛正彬。松平四郎進禮。佐野與八郎政敷。熊

倉彌吉茂高。鈴木源五右衛門利正。水野彌兵衛守之。本多八藏度貞。永田百助嘉壽。平井熊次郎豊昌。小野半左衛門貞雄。白井喜内房萬。小川新九郎正方。土岐藤兵衛頼實。能勢助之丞頼匡。天野勘七昌救。諏訪庄右衛門頼篤。大岡數馬義章。田邊十左衛門惟中。石川才太郎唯善。林藤五郎忠起。戸川雄三郎安清。松浦金彌剛。西城小納戸松平駒次郎忠順。近藤元五郎威同。三上吉郎季富。奥村佐五右衛門矩恭。天野彦右衛門忠永。岩本鏡之丞正脩。鈴木多宮直教なり。奥醫吉田快菴頼舉法印にすゝみ盛方院とあらため。栗崎道有正明。狩野養川院惟信子伊川榮信ともに法眼となる。紀水尾三卿の請はるゝまゝに。家司のうち各一人叙爵せしめらるゝむね傳へらる。兩番の士より進物番に入るもの十三人。寄合阿部越前守正朗火災巡視命せらる。去りし十三日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。奥にして青山下野守忠裕。稻葉丹波守正謙御鷹の雁を賜ふ。○十七日紅葉山 御宮御詣雨により延滞せらる。よて戸田采女正氏教代參す。○十八日大番長尾庄右衛門景親。代官岸本彌三郎一成老免して小普請となる。褒金を賜ふ。此日堀田大藏大輔正順はじめ。使番して御鷹の雁賜はる者四人。奥にて申樂の御遊あり。けふ雪により三家及び世子より使して御起居候し奉らる。この日奥能あり。例のともがら観る事をゆるさる。富士山。巴。半菰。柏崎。鶴飼。愛宕。空也。祝言高砂。狂言惠比須毘沙門。茄子。素袍落なり。○十九日日光門主近々山に登らるゝにより。高家戸田備後守氏倚御使して。時服枝柿を贈らせらる。歳暮の賞行はる。○二十日

日光門主まうのぼられ。西湖間にして御饗應。御座所にして御對面あり。表高家今川主馬義彰。日野玄蕃資施從五位下侍從に叙任し。主馬は丹後守。玄蕃は伊豫守とあらたむ。小納戸井戸新十郎。中島三左衛門行徳。松平四郎進禮。鈴木源五右衛門利正。永田百助嘉壽。水野彌兵衛守之西城にうつさる。○廿一日宇喜多のほとり成らせらる。御拳黒鶴。鷲。川口と名付し御鷹なり。歳暮の御祝として。三家のかたぐい始め。國持。萬石以上。例のともがら。兩本願寺使して時服をたてまつる。大納言殿へもむなじ。

日光門主。増上寺方丈ともに檜重をおくらせられて寒氣を問せらる。又御使して日光門主。増上寺方丈。水戸中納言治保卿父子。尾張中將齊朝卿のもとに八代蜜柑おくらせらる。寺社の奉行阿部播磨守正由。勘定の奉行松平兵庫頭信行。明のとし二月東叡山にて。孝恭院殿御法會の事奉はり。土岐山城守頼布同じ山の警衛命せらる。太田備中守資愛始め四人雁壹つづ下さる。西城小納戸西尾充太郎病免す。○廿二日臨時の朝會あり。西城目付永井直次郎直道同じ先手弓頭となる。大岡兵庫頭忠喜參觀す。初見のもの寄合石川直吉正邦。使番本多丹下繁文子松三郎。鶴殿十郎右衛門長居養子與六郎清顯。根岸九郎兵衛衛肅子榮太郎衛恭。西城徒頭藤堂近江守良英子一郎良路。同所小納戸中野越前守子左太郎。奥村佐五右衛門矩恭子三平矩道。其他尙多し。大番多田三八正峯老免して小普請となる。褒金を賜ふ。大久保安藝守忠真始め八人へ雁を下さる。又少老へも奥にて賜はる。大番に准じたる奥詰小南市郎兵衛達孝子三十郎召

出され。父と同じく鎗術の事奉はり。小十人に准じ奥に候すべしとなり。廩米百石下さる。○廿三日紅葉山 御宮 靈廟に御詣あり。寄合根來喜内正聖子小才次斯

馨。小姓太田下總守資源子乙之丞資芳。小納戸吉松吉五郎正達子龜太郎ともに 大納言殿御伽となさる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。

歳暮の御祝として増上寺方丈傳通院ものたてまつる。堀近江守直起大番頭となり。遠藤左近將監胤富と組替命せらる。勘定木城貞右衛門金朝同じ與頭勤方命せられ。常々精研なればとて勤務の内三百苞下さる。○廿五日濱の庭園に成らせらる。御得物は鴨なり。毛利甲斐守元義。毛利美濃守高聽。來春參向公卿の館伴命せらる。去りし廿一日御成のをり鳥射し新番の士一人時服を賜ふ。久世大和守廣譽はじめ雁下さるゝもの七人。又使番して松平壹岐守定剛へ同じく給ふ。勘定保田定市至元との與頭となる。○廿六日東叡山 至心院殿靈廟所に御側白須甲斐守政雍代參す。○廿七日品川のほとり成らせらる。御拳は鶴三羽。御鷹は茶筌。林。福島。美津山。還御の折鴨二羽なり。松平豐後守齊宣去し歳琉球國へ清國より持來りし藥の事により請ふむねありて金一万兩下さる。常陸國下館城主石川中務少輔總般身まかりしにより。養嗣内膳總親をして遺領二萬石を襲しむ。此總般實は故若狹守總候の二子にして。幼名を善之助といふ。寛政七年九月五日封をつぎ雁の間に列り。その十五日家繼しを謝し。十二月十七日叙爵して中務少輔と改め。明の年二月十五月初て采邑への暇下され。十九日吹上

石川總般の事蹟

乘馬御庭觀覽允され。同じ九年八月十六日和田倉御門の守衛。十年二月四日坂城加番命ぜられ。享和元年八月十六日一橋御門戌にせられ。此年十一月七日卒す。歳四十一。寄合横田甚右衛門茂松養子主税貞松。小納戸小野半左衛門貞雄子六三郎貞正はじめ。父死して家つぐもの十五人。牧野佐渡守宣成はじめ五人へ雁を給ふ。去りし廿五日御成のをり鳥射し西城小姓組の番士一人時服を賜ふ。けさ小傳馬町火災あり。○廿八日歳暮の御祝例に同じ。水戸中納言治保卿家司めして。明の年の正月謠曲はじめ。中將治紀卿まうのぼらるべしと傳へらる。留守居酒井因幡守忠敬。小普請奉行石野筑前守範堯。後閑御殿および長局その他修復の事奉はりしをもて。時服また黄金をへてたまふ。所屬のともがら賜物差あり。相馬因幡守樹胤雁を下さる。西城先手弓頭森山源九郎孝盛同じ持弓頭となる。大番小普請より西城納戸に入るもの二人。また大番小十人より西城新番にうつるもの七人。○この年攝州住吉祠延焼す。

攝津住吉社
焼失す

文恭院殿御實紀卷卅四

享和三年正月に始り六月に終る御齡三十一

享和三年癸亥正月元日諸規式例の如し。○二日又同じ。午前より吹上の花園に御遊あり。○三日規に同じ。この夜謠曲はじめの式行はる。又乗馬はじめ濟ませられしにより。厩かたのもの例の賜物あり。○五日二九へならせられ。夫より上千葉のほとり成

らせらる。鷹を放たれ鳴ひとり捉得給ふ。松平伊豆守信明御拳の鴨を給ふ。○六日僧侶祠官の拜賀又同じ。○七日若菜の御祝規の如し。伊勢代參使高家戸田備後守氏倚。大内御使六角越前守廣孝。日光山代參使大友因幡守義方。ともに 大納言殿御使を兼命ぜられいとまたまふ。賜物は舊規の如し。宿老土井大炊頭利厚京への暇たまひ。御手づから羽織を下さる。所司代青山下野守忠裕赴任の暇たまひ。來國長の御刀に御馬。金。時服。羽織をそへて給ふ。大番頭堀近江守直起二條成役の暇給ふ。賜物例に同じ。春雪により三家の方々使して御氣色うかかはる。後閑へも同じ。○八日東叡山 嚴有院殿。 浚明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○九日青山下野守忠裕近々赴任により拜謁を賜ふ。土井大炊頭利厚今朝發途あり。○十日東叡山 諸廟及び 靈牌所に御詣あり。○十一日具足の御祝例に同じ。小納戸頭取夏目和泉守信榮西城先手筒頭となり。小姓組本多作左衛門成憲。日根野織部弘篤。西城小姓組荒川常次郎義行。書院番土屋勝三郎利族。西城書院番榊原平十郎政堯使番となる。連歌はじめ規のごとし。小松原數多千年や御代の春。昌 廣き野山を長閑なる國。御 据出る朝鷹人の時を得て。此の日弓場始あり。當坐の賜祿例のごとし。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。きのふ弓場はじめありしにより。その師徒頭小笠原館次郎持齡時服を賜ひ。射手の番士小普請の輩十人黄金を下さる。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。この夜追儼の式行はる。○十五日月次

大村純鎮致任

の拜賀例のごとし。僧侶祠官束本獻じ歳首の拜賀す。松平下總守忠翼。松平壹岐守定剛就封の暇給ふ。下總守忠翼は御馬を下さる。石川内膳總親獻り物して襲封を謝す。三河衆松平太郎左衛門信言參謁す。勘定奉行柳生主膳正久通東海道甲斐國河渠のと奉はり暇たまひ。駿河國府の城番久永源兵衛勝信赴任の暇賜ひ各賜物あり。又僧侶巫祝歳首を賀する者多し。けさ山王の祠へ御側平岡美濃守頼長代參し。黄金一枚進薦あり。この日立春。○十六日徒頭馬場大助利意西城の目付となり。船手頭大河内善左衛門政儀徒頭となる。武州西新井總持寺某本所彌勒寺住職命ぜらる。○十七日紅葉山御宮 諸廟に 兩御所御詣あり。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿 靈廟に牧野備前守忠精代參す。○廿一日西城小納戸頭取前田播磨守武宜病免して寄合となる。○廿三日肥前國大村の城主大村信濃守純鎮病により致仕し。その子上總介純昌に所領二萬七千九百七十三石餘を繼しめらる。この純鎮は彈正少弼純保が子にして。寶曆十一年二月十六日家つぎ。安永三年九月十五日初見したてまつり。十二月叙爵し。けふ致仕して後文化十一年七月廿一日大村に於て卒す。五十六歳。この日吹上にて大的視給ふ。柳營年表續編 ○廿四日三縁山 諸廟に御詣あり。東叡山 孝恭院殿 靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。高家大友因幡守義方日光山よりかへり謁す。日光門主山よりかへられしかば。高家今川丹後守義彰して慰勞せらる。○廿五日濱の庭園に成らせらる。御物員は鴨若干なり。小普請方杉浦助左衛門拂方金奉行となり。勘

定近藤重藏小普請方となる。又大番より納戸へ入者一人。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側平岡美濃守頼長代參す。二九留守居松村十右衛門良尚老免して寄合となり時服を賜ふ。新番笠原平左衛門信安同じく小普請となり褒金下さる。西城小姓三枝丹後守守貴同城小納戸の事頭取らしめらる。中務少輔と改む。○廿七日 御臺所用人小笠原大隅守義武後閑費用の事心入しにより時服を賜ふ。所屬の輩も賜物あり。去りし廿五日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。西城伽衆本多岩五郎忠貞。小納戸吉川一學從純ともに同じ小姓となる。岩五郎忠貞は廩米三百俵たまふ。○廿八日月次の拜賀例の如し。閑院家使者その他僧侶祠官等歳首の拜賀す。大坂城代稻葉丹後守正謹赴任の暇たまひ。藤島友重の御刀に馬時服をそへて下さる。小姓組番頭本多大隅守政房。丹後守正謹引渡として登坂せしにより。暇たまひ賜物金十枚なり。大村上總介純昌獻り物し家つぎしを謝し奉る。本月御祈禱料銀百枚時服をへ日門へ。高家日野伊豫守資施してつかはさる。○晦日三縁山 有章院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。大番與頭小山新三郎英本徒頭となり。故勘定吟味役勤めし寄合村上三郎右衛門常福船手頭となる。この日再雪降りしにより。三家使出し御起居を伺ふ。○この月連日雨降らず。風烈しく火災しばしばなり。地魚録 ○閏正月朔日白木書院へ出給ひ。日光久能兩山の御鏡餅および符籙いたゞき給ひ。日光門主歳首の御對面あり。はては青蓮院門跡。安樂心院宮の使者見えたてまつり。山門總代。日光山總代。その他遠國台宗の僧

朽木倫綱卒

徒。上野一山の僧中見えたてまつる。この日高家戸田備後守氏倚伊勢よりかへり謁す。○三日水戸中納言治保卿。尾張中將齊朝卿のもとに御使して。御鷹の鶴つかはされしかば。中納言治保卿にはまうのぼられ。中將齊朝卿には使して謝せらる。三井寺總代はじめ遠國寺僧等暇たまふ。○四日閑院宮使暇たまふ。○六日奥にて申樂の御遊あり。兩城宿老少老視る事免さる。樂は志賀。鶴。熊野。項羽。俊寛。加茂。物狂。大瓶。猩。狂言鷄聲。秀句傘。若菜。棒しりなり。○七日青蓮院門跡使はじめ暇たまふ。小姓木村庄橋貞休官料三百苞を給ふ。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に戸田采女王氏敷代參す。稻葉丹後守正謙明日發途により謁見をたまふ。小姓組森川金右衛門氏壽老免して小普請となり褒金を賜ふ。○九日濱の庭園に成らせらる。鷹もて鳴數多く得給ふ。○十一日去りし九日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○十二日三緑山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。丹波國福知山の城主朽木土佐守倫綱卒す。養子肥兒太郎綱方をして遺領三萬二千石を襲しむ。この倫綱實は伊豫守鋪綱が子にして。兄近江守昌綱が嗣子となり。天明六年十二月十五月初見し奉り。同じき七年の冬叙爵し。寛政十二年閏四月九日家つぎ。その十月四日奏者のこと奉はり。去し十二月二十日二十三歳にして卒す。○十三日一橋門外閑地に成らせらる。御得物は鴨三羽なり。水戸中將治紀卿のもとに御使して御鷹の鶴遣さる。よて謝してまうのぼらる。また使番して松平越前守治好父致仕左兵衛督重富へ同じ品を下さる。松平若狹守容住

内藤正國卒

養母卒せしにより使番して吊慰せらる。○十五日月次の拜賀例のごとし。東海道甲斐美濃伊勢三國川々修理助役つとめし松平阿波守治昭。松平飛騨守利考。鍋島甲斐守直温。細川能登守利庸。京極能登守高中。島津淡路守久柄ものく時服を賜ふ事差あり。朽木肥兒太郎綱方家つぎしを謝して獻り物す。伏見家の使者知恩院大僧正使僧はじめ。遠國寺社の葦歳首の拜賀す。又大坂船手石川鞆負總武はじめて坂地への暇給ひ。金。時服。羽織をへ下さる。松平豊後守齊宣。その父致仕上總介重豪入道榮翁へ使番もて鶴一隻づゝを給ふ。○十六日信濃國岩村田の領主内藤美濃守正國卒す。子なきにより。請ふまゝに水野式部少輔忠光三子叔之丞正繩をやしなひ遺領一萬五千石を襲しめらる。この正國實は水野左近將監忠鼎が四子にして。志摩守正興が養子となり。寛政四年十二月九日家つぎ。同じき十五日襲封を謝してまうのぼる日初て見えたてまつり。その月叙爵し。去年十二月二十日封地にありて卒す。とし三十一。増山備中守正寧。保科能登守正徳。三宅備後守康友。京極加賀守高有坂城加番命ぜらる。大番植村庄右衛門正弘その與頭命ぜらる。先手筒頭谷主計衛明病免して寄合となる。書院番山本儀兵衛知久老免して小普請となり褒金を賜ふ。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏敷代參す。○十八日吹上に成らせられ。夫より民部卿の館へ過らせらる。此日箱館奉行所屬命ぜらるゝ者多し。西城納戸野田源五郎代官とせらる。○十九日伏見家の使者。知恩院大僧正使僧始め僧徒等暇たまふ。○廿一日大番頭堀内藏頭直皓病免す。

○廿三日來る四月中 御臺所三縁山御詣あるべきにより。その事奉はりしは。寺社の奉行松平右京亮輝和。留守居酒井因幡守信敬。作事奉行平賀式部少輔貞愛。目付土屋帶刀廉直。佐野宇右衛門庸貞に命ぜらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。高家六角越前守廣孝京地より歸り謁す。小姓組曲淵市左衛門勝智使番となり。御臺所廣敷番の頭原田半兵衛種芳西城裏門番の頭とある。○廿五日濱の庭園に成らせらる。鴨若干狩捉給ふ。二丸留守居川勝齋宮廣次病免して寄合となる。○廿六日寄合伊東主膳裕真駿河國府城加番。戸田内藏助光爲病により代りを命ぜらる。○廿七日去りし廿五日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。けさ 勅使院使參着により。牧野備前守忠精して慰勞せらる。高家戸田土佐守氏明添へらる。○廿八日參向公卿引見あるにより。溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのぼる。白木書院へ兩御所出給ひ。 勅使千種前中納言有政卿。 院使平松中納言時成卿御對面あり。歳首の御祝には。 禁裏より黄金三枚。 仙洞より同じく二枚。 中宮より同じく一枚。 大納言殿へも同じく進らせらる。次に攝家門跡勾當内侍の使者おのちの物さしげて見えたてまつり。又公卿等自己の拜賀あり。其家司。樂人總代。冠帽末廣師。吉田三位使者にいたりて見えたてまつる。さて御對面濟せられしにより。高家中條河内守信義して。公卿の旅館に鹽鶴一匣槍一荷を贈らせらる。○廿九日土井大炊頭利厚よへ京地よりかへりしにより見えたてまつる。書院番頭安藤伊豫守直久大

攝津より白雉を獻す

番の頭となる。公卿のもとに高家織田主計頭信山御使して。明日申樂命ぜられしにより。まうのぼるべきよし仰つかはさる。おなじ事を水戸中納言治保卿父子へも傳へらる。○この月攝州東成郡九條邑より白雉を獻す。武江年表○二月朔日公卿饗應の散樂あり。水戸兩卿はじめ。溜詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番父子。布衣以上。法印法眼の醫員等まうのぼり。大廣間に出給ひ。水戸の兩卿はじめ。 勅使 院使御對面はて。御次伺公の輩見えたてまつりて。少老堀田攝津守正敦して御能はじむべき事をその太夫へ傳ふ。番組は翁三番叟。志賀。知章。花筐。道成寺。祝言岩船。狂言三番。狢猿。犬山伏なり。唐織纏頭要脚廣蓋例のごとし。席々にして御饗應あり。其他の者料理を賜ふ。○二日京への御返詞により。溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのぼり。白木書院へ 兩御所出給ひ。 勅使 院使御對面あり。はては歸洛の暇たまひ賜物あり。御臺所よりも時服賜ふ。其他攝家門跡の使者はじめ。冠帽末廣師にいたるまで賜物例に同じ。○三日大番頭松平内匠頭康休子主馬康彊。寄合酒井玄蕃養子彌門。徒頭蜂屋權大夫清茂子捨三郎清行はじめ。父死して家つぐもの十人。寄合伊東主膳裕真賜物ありて駿府への暇たまふ。小普請より大番に入るもの四人。○四日東海道甲斐美濃伊勢の川々修復助役の事つとめし松平阿波守治昭。松平飛騨守利考。京極能登守高中。島津淡路守久柄。鍋島甲斐守直温。細川能登守利庸の家人等賜物差あり。○五日今朝公卿發途により。毛利甲斐守元義。毛利美濃守高聽まうのぼり老臣に謁し退く。○

仙洞附米津
頭將先手弓

八日東叡山 凌明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。仙洞附米津周防守田將先手弓頭となる。小普請より西城書院番に入もの八人。○九日本月東叡山にて 孝恭院殿御法會の事奉はるべしと。寺社の奉行阿部播磨守正由に命ぜられしが。さはる事有て松平右京亮輝和かへ命ぜらる。此日奥にて散樂の御遊あり。例のともがら觀覽あり。加茂。忠度。住吉詣。正尊。土蜘蛛。舟辨慶。狂言蚊角刀。伯母酒。花見座頭。膏藥煉なり。○十一日吹上の庭園に成らせられ。夫より一橋門外閑地にて鷹放たしめらる。御拳は鴨二羽なり。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十三日先手弓頭鳥居權之助忠洪病免して寄合となる。○十四日伊勢國神戸の城主本多伊豫守忠育請置しまいに。養子説三郎忠升をして遺領一萬五千石を襲しむ。この忠育幼名は駒之助といふ。明和三年九月七日嗣子とさだめられし日襲封し。同六年五月十五日 凌明院殿へはじめて拜謁し。同八年十二月十八日從五位下して伊豫守に任じ。この年正月廿二日五十一歳にて卒せしなり。西城裏門番の頭原田半兵衛種芳養子大番彦四郎種顯。父の蔭もて兩番のうちらうつさる。○十五日月次の拜賀例のごとし。大久保安藝守忠眞はじめ。就封のいとまたまはるもの十一人。内藤叔之丞正繩家つぎしを謝し奉る。牧野佐渡守宣成子直太郎以成。板倉主水佑勝喜子輝之進勝氏。交代寄合伊東千之助祐承初見したてまつる。僧侶束本を獻じ。住職あるは僧正を謝す。大番頭安藤伊豫守直久二條城在番の暇たまふ。與頭番士まで同じ。賜物も舊の如し。箱館

本多忠育の
事蹟

浦賀奉行水
野忠眞仙流
附に任ず

奉行戸川筑前守安倫賜ものありて任所へのいとま給ふ。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。浦賀奉行水野伯耆守忠良 仙洞附となり。兩番に准じたる庭番高橋與右衛門恒成廣敷番の頭となる。○十八日東叡山 孝恭院殿御法會中かしこへ赴をもて。總督戸田采女正氏致。寺社の奉行松平右京亮輝和。勘定の奉行松平兵庫頭信行謁見を賜ふ。この日 臺の上西城に入らせらる。○十九日濱の庭園に成らせらる。御得物は鴨三羽。日光門主使して山の櫻花一桶をまいらせらる。○二十日東叡山 孝恭院殿二十五回周忌御法會初日により。土井大炊頭利厚代參す。同じ事により三家の方々使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。又同じ山の乗臺院殿靈牌所に御側大久保豊前守忠温代參す。○廿一日御法會中日により。少老京極備中守高久御使として。日光門主に楯重を贈らせられ。又備中守高久して。總督はじめその他の輩へ慰勞の御懇詞あり。ささくの例に任せ。三家の方々使して菓子たてまつられ御けしきうかゞはる。○廿二日御法會結願により。牧野備中守忠精代參す。同じ事により御側大久保豊前守忠温御使として。日光門主に砂糖漬一壺を贈らせらる。また三家の方々使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞはる。御法會中なればなり。○廿三日西城書院番頭佐野肥前守義行。同じ小姓組番頭水野石見守貞利ともに本城にうつり。小姓組の番頭山口和泉守直良西城書院番頭となり。小普請組の支配森川織部俊世同じ小姓組番頭となり。使番朝比奈彌太郎泰階先手弓頭とな

る。この日東叡山にて被物行はる。萬年記○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に御詣あり。又御法會はてしにより。戸田采女正氏教御使して。施物として日光門主に銀二百枚。時服十。かつ僧中へも銀時服下さる。○廿五日御法會はてしにより。三家の方々始め群臣皆出仕あり。宿老に謁し退く。又總督戸田采女正氏教見えたてまつり時服七を賜ふ。同じ事により日光門主使して菓子匣。鮮花一桶。安樂心院宮には葛煎餅一匣を進らせらる。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に戸田采女正氏教代參す。此日聖廟に御側本郷大和守奉行代參し。太刀金一枚御進薦あり。釋奠によりてなり。○廿七日歳暮に時服たてまつりし三家の方々はじめ。國持大名。例の輩。兩本願寺にいたりて御内書を賜ひ。西城よりは奉書をわたさる。去りし十九日御成のをり鳥射し番士二人に時服を賜ふ。松平大膳大夫齊房驛使して鶴賜ひしを謝し奉る。○廿八日月次の拜賀例の如し。松平主殿頭忠馮はじめ。就封のいとまたまふもの三人。本多説三郎正升物獻り家繼しを謝し奉る。小姓組番頭本多大隅守政房大坂城代引渡はて。勘定奉行柳生主膳正久通東海道甲斐國川々修復はて。かへり謁す。○廿九日東叡山 孝恭院殿御法會のこと奉はりし寺社の奉行松平右京亮輝和。勘定の奉行松平兵庫頭信行ともに時服を賜ひ。奥表右筆の輩同じく白銀を賜ふ。○此月中旬頃より淺草田圃なる立花右近將監鑑壽が別墅の鎮守稻荷世の人太の社耶といふ。利生あらたなりとて。江戸並に近在の老若參詣群集する事夥し。あけの年いよく賑ひ。參詣のともがら道も去あへず。二とせ

淺草太那稻荷繁榮す

舒姫卒

ばかりにして。廢廢せしとぞ。武江年表○三月朔日上巳の御祝として。日光門主。三家の方ちのく使して二種一荷まいらせらる。小普請より西城小姓組に入るもの九人。○三日上巳の御祝規のごとし。○四日中奥小姓内藤加賀守忠高子徳三郎忠英はじめ。父死して家つぐもの五人。舒姫君このほど病にかかさられしが。けふ午刻ばかりにうせ給ひぬ。御とし二。音楽はけふより三日とゞめらる。上直の輩へは土井大炊頭利厚これ傳ふ。また姫君傳通院へ御葬送の事奉はりしは。留守居龜井壹岐守清容。小普請奉行有田播磨守貞勝。目付伊東長兵衛裕香。永井鞆負直堯に命ぜらる。この日暮過るころ地大に震す。武江年表○五日舒姫君御事により。三家のかたぐ使し。溜詰。高家。詰衆。諸番頭。諸物頭。布衣以上の輩まうのぼり御けしき伺ふ。寄合小笠原中務長如御新葬法會の内。傳通院警衛の事命ぜらる。姫君諡して感光院と稱しまいらせ。申刻ばかりに出棺ありて傳通院に御葬送あり。○八日東叡山 淺明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。同じ山の 蓮光院殿孝恭院殿御母堂。十三回周忌御法會により。少老堀田攝津守正敦代參す。小普請組の支配仙石彌兵衛久功浦賀奉行となり。中奥小姓岡野淡路守知鄰小普請組の支配となる。未牌の頃よりして外殿に臨ませらる。○九日感光院殿御新葬法會のことばてしをもて傳通院まうのぼる。高家宮原長門守義潔御使して。日光門主此二月御法會濟ませられしにより。御對面御饗應の事仰つかはさる。○十日日光門主こたび御法會濟ませられしにより。まうのぼられ御對面あり。夫より白木書院に出給

仙石久功浦賀奉行に任

ひ。僧正院家。その他僧中。坊官。家司等まで見えたてまつり。はてし席々にして御饗應あり。○十一日王子のほとり成らせらる。雉子十六羽を御奉あり。井伊兵部少輔直朗従ひ奉りて同じく一羽得たり。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○十三日番町藥園に成らせられ。夫より淑姬君市ヶ谷の邸へ過らせらる。使番安部主膳信旨病免して寄合となる。○十五日月次の拜賀例のごとし。紀伊中納言治寶卿參府により。太刀。銀五十枚。巻物二十獻し御對面あり。水戸中納言治保卿父子はじめまうのぼられ。同じく御對面せらる。尾邸よりは使進らせらる。松平左衛門佐齊直同じく參觀す。松平豊後守齊宣就封の暇たまひ御馬を下さる。この日寄合甲斐庄五郎正憲。加藤平内威直。一橋邸家司桑原遠江守盛倫子主計。小姓大久保日向守忠淑子半五郎。安藤彈正少弼惟久子虎之丞。先手筒頭大河内善兵衛政壽子彦四郎。使番長崎半左衛門元居養子貞吉元善。土屋勝右衛門利族子甚助。小納戸多賀大助高賢子專太郎。森山與一郎盛年子熊五郎。佐野與八郎政敷子與七郎。寄合松平主膳忠幸養子晴三郎はじめ。初見したてまつるもの多し。新番戸田六藏尹永同じ與頭となる。○十六日西城小姓組番頭武田河内守信親病免して寄合となる。この日吹上の園にならせられ大御覽し給ふ。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參す。久能山 御宮正遷宮により。高家今川丹後守義彰代參し。寺社奉行脇坂淡路守安董同じくいとま給ふ。○十八日吹上へ成らせられ。それより田安邸へよぎらせらる。○廿一日吹上に

函館奉行に
黒印并に下
知状を授く

して騎射を視給ふ。○廿二日勘定奉行柳生主膳正久通。同吟味役鈴木門三郎正勝。東海道甲斐國川渠凌利の事奉はりしによりおのゝ金を賜ひ。その他所屬の輩賜物差あり。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直朗代參す。小普請奉行石野筑前守範堯西城槍奉行となり。百人組の頭柴田七九郎康福小普請組の支配となり。火消役久永主稅章香新番頭となる。又小普請高樋源次郎胤貞その組頭となる。けふ學問出精を賞せられて。時服巻物銀給ふもの。小姓組筒井右馬助政憲はじめ二十六人なり。○廿五日 大納言殿羅漢寺のほとり成らせられ。同寺にて晝餉たてまつる。結城弘經寺某駿州寶臺院へ。増上寺伴頭龍造結城弘經寺へともに住職命ぜらる。この日御黒印并に御下知状を。函館奉行に授けらる。

〔休明光記卷五〕云。同年〔享和三〕初て在勤に付。三月廿五日御黒印御下知状を賜はる。初てのとなれば正養も罷出承るべきよしにて一同承り。表御右筆組頭深澤伊兵衛演之。其文章左のごとし。

定

- 一 蝦夷地の儀。萬端入念不し衰様赴法し。對蝦夷人。非分の取計不可有候事。
- 一 異國境島々之儀嚴重取計。日本人は不及し申。雖蝦夷人。異國へは渡海堅可し停止候。自然異國の船於着岸は。其所へ留置早々可し注進事。
- 一 邪蘇宗門彌爲し制禁し問守之。無し油斷し可し遂し穿鑿事。

右相守此旨。可レ沙汰之。猶載ニ下知狀ニ者也。

享和三年二月十五日

御黒印
函館奉行

條々

- 一 函館之赴。寺社。町人。百姓に至迄御法度相守之。不可レ企ニ新儀ニ旨。常々可レ申付ニ事。
- 一 蝦夷人共随分入念て撫育。産業不ニ衰微ニ様可レ致。奥蝦夷島の者共。異國へ親不レ申様。精々可レ加ニ教示ニ事。
- 一 函館之者共公事訴訟有レ之節は。諸事江戸の御仕置に可レ申付ニは勿論。蝦夷人仕置之儀は別段の事に候間。尙更入念之事。
- 一 産物取捌方正路取計ひ。商人共猥の振舞無レ之様可レ申付ニ候。私に彼地へ廻し渡海賣買仕者有レ之歟。密々蝦夷人と直商賣致者於レ有レ之者。急度可レ處ニ罪科ニ事。
- 一 萬一異國の船不意に着岸。及ニ不義之砌人數於レ可レ入。南部大膳大夫。津輕越中守へ申遣人數爲ニ差出。函館番の人數に差加。取計之品々可レ及ニ注進ニ事。

大炊頭判

備前守判

采女正判

伊豆守判

戸川筑前守殿
羽太安藝守殿

○廿六日吹上花園にして半的御覽あり。○廿七日高家大友式部大輔義珍養子因幡守義方。寄合奥田主馬高寛子左京高武。加藤大學明張子三左衛門。土屋市之丞男愈子千之助はじめ。父致仕して子家つぐもの十六人。式部大輔義珍は養老の料五百苞を賜ふ。小普請組に入もの十一人。寄合戸田内藏助光爲亂心に等しき病躰により。宗家松平丹波守光壯乞し趣もありしにより。その弟鱗平光大へ家相續せしめらる。○廿八日一橋民部卿齊敦卿のもとへ。松平伊豆守信明。牧野備前守忠精御使して。請るゝまに息女幹姫のかた。有馬中務大輔頼貴子上總介頼端子新太郎頼徳へ婚嫁の事仰つかはされしにより。中務大輔頼貴めしてその事傳へらる。○廿九日先手弓頭徳永小膳昌常火賊捕盜の事免さる。午前より吹上へならせられ圓物を視給ふ。○四月朔日月次の拜賀例のごとし。松平若狭守容住就封のいとまたまひ御鷹馬を下さる。増山備中守正寧參觀す。松平上野介直義養子主税助直寛。酒井下野守忠哲子與八郎忠寧。高家織田主計頭信由子太郎信順初見したてまつる。佐渡奉行峰屋源八郎成定住所への暇給ふ。賜物舊にもなし。僧侶束本を獻じ住職を謝す。及び加茂社人葵を獻ず。○二日一橋民部卿齊敦卿息女婚嫁の事賀して。三家の方々及び世子より使まいらせらる。勘定

方三井清左衛門高義老免して小普請となり褒銀を賜ふ。○三日駒場野へ追鳥狩として成らせらる。御拳雉子一羽なり。寄合金田式部正辨養子猪之助正温。青山恒次郎幸宜養子斧次郎幸般。小納戸横田十郎兵衛喬松養子英吉義松はじめ。父死して家つぐもの六人。○五日去りし二日久能山 御宮正遷宮濟ませられしにより。三家の方々使して賀し申さる。小普請より大番に入もの二人。○六日こたび一橋民部卿齊敦卿息女。右馬中務大輔頼貴子上總介頼端子新太郎頼徳へ婚嫁の事仰出されしを謝して。中務大輔頼貴は二種一荷。上總介頼端は一種一荷をたてまつる。番醫奈須玄竹恒徳日光門主御登山により添てつかはさる。○七日羅漢寺のほとり成らせられ。應にて鵜七。よし五位六。水鶏なり。立花出雲守種周從ひて鵜一羽を狩得らる。日光門主御登山により。高家大澤右京大夫基之御使して裕をおくらせられ。かつ御對面の事仰つかはさる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。寄合肝煎柴田丹波守勝房西城小姓組番頭となり。佐渡奉行蜂屋源八郎成定小普請奉行となり。西城新番頭松平侶之允定能百人組の頭となり。寄合火災巡視奉はりし小濱長五郎壽隆火消役となり。書院番與頭森與五左衛門政九西城先手弓頭となる。又西城小十人林傳右衛門春盈老免して小普請となり褒金を賜ふ。○十日日光山 御宮代參使。 大納言殿の御使をかね奉はりしは高家日野伊豫守資施。おなじ山の 靈廟代參使與平大膳大夫昌高。祭祀の奉行本多越中守忠籌。水野日向守勝愛命せられとも暇たまふ。賜物例

に同じ。高家今川丹後守義彰久能山より歸り調す。日光門主御在山によりまうのぼられ御對面せられ。はてし御饗應あり。○十一日久能山 御宮正遷宮濟せられしにより。高家大澤下野守基季御使して日光門主に三種二荷。時服十をおくらせらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。同じ山の明信院殿常憲院殿御嫡女鶴姫君紀の百回周忌法會により。奏者番堀田豊前守正毅代參して。増上寺方丈へは檀願銀二十枚をつかはさる。又東叡山凌雲院にては悠然院殿田安中納言宗武卿廢中。三十三回周忌取越法會により松平伊豆守信明代參す。伊豆守信明使として凌雲院前大僧正に香奠の銀十枚。西城よりは安藤對馬守信成して五枚つかはさる。御側岡部因幡守長貴御使して。田安右衛門督齊匡卿に楡重一組をつかはさる。同じ事により三家の方々致仕世子まで使して御けしきうかははる。○十五日月次の拜賀例のごとし。久能に在りし榊原越中守照郷參調す。作事奉行三上因幡守季寛。目付山木若狹守正富久能山よりかへり調す。屬吏も同じ。 仙洞附水野伯耆守忠良はじめ赴任の暇たまひ。賜物は金時服羽折なり。その子百太郎初見したてまつる。使番大久保八郎左衛門忠移二丸留守居となり。納戸頭飯塚伊兵衛政長佐渡奉行となる。日光山 靈廟代參使與平大膳大夫昌高病により。井上河内守正甫かへ命ぜられ暇の賜物をたまふ。○十六日白木書院へ出給ひ。諸番士小納戸小普請の輩藝技御覽あり。布帛二反をたまふ。○十七日紅葉山 御宮へ 兩御所御詣あり。○十八日 大納言殿本城へならせらる。奥にて申樂

松平信充卒

の御遊あり。兩城の老臣少老共に視る事を免さる。高砂。清經。雲林院。弱法師。阿漕。第六天。祝言吳服。狂言音曲。舞。るれん。空腕。惡太郎。隠し狸なり。上野國矢田の領主松平左兵衛督信充卒せしにより。その子直之丞信敬して遺領一萬石をつがしむ。この信充は

○十九日寄合青山玄蕃幸□火災巡視命ぜらる。○二十日東叡山 大猷院殿靈廟。

心觀院殿靈牌所に御詣あり。高家日野伊豫守資施。祭祀の奉行本多越中守忠壽。水野日向守勝愛共に日光山より歸り謁す。使番水野虎之助忠篤火災巡視を兼しめらる。○廿一日淺草のほとり成らせらる。御拳梅首鶏。霞五位。水鶏なり。愛宕圓福寺某京智積院の住職たらしめらる。○廿二日臨時朝會あり。松平越前守治好。細川越中守齊茲。松平大和守直恒。松平大膳大夫齊房。立花左近將監鑑壽はじめ參觀のもの十九人。越前守治好家士二人見えたてまつる。書院番土岐市右衛門頼看同じ與頭となる。又小姓組末吉善左衛門利貞民部卿方の物頭とせらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。三緣山 惇信院殿靈廟に 御臺所御詣あり。その他靈廟。 天英院殿靈牌所へも同じ。井上河内守正市日光山より歸り。寺社の奉行脇坂淡路守安董久能山より歸り共に謁見す。一橋民部卿齊敦卿北の方。こたび男子生れさせ給ふにより。御側白須甲斐守政雍御使して。大納言治濟卿。民部卿齊敦卿及び北の方を賀せらる。○廿五日臨時朝會あり。藤堂和泉守高嶷。松平出羽守治郷。有

麻疹流行し
死者多し

馬中務大輔頼貴。上杉彈正大弼治廣。佐竹右京大夫義和。伊達遠江守村壽。松平上總介齊政。丹羽左京大夫長祥。南部大膳大夫信敬はじめ。就封の暇賜はるもの二十七人。和泉守高嶷。遠江守村壽は御馬を下さる。増上寺方丈さのふ 御臺所御詣のをり布施物ありしを謝してまうのぼる。○廿六日一橋民部卿齊敦卿へ御側岡部因幡守長貴して。簾中の病大切ににより尋問せらる。○廿七日仙石越前守久道。龜井隱岐守矩賢久能山 御宮その他修復の助役命ぜらる。民部卿齊敦卿の簾中逝去により。音楽停めらるゝこと三日。おなじ事により土井大炊頭利厚。西城より安藤對馬守信成つかはされ吊慰せらる。^{萬年}○廿八日月次の拜賀例のごとし。堀田攝津守正敦。西城よりは植村駿河守家長御使して。一橋民部卿齊敦卿に香資の銀三十枚をつかはさる。西丸よりは二枚なり。 臺の上よりは廣敷用人中島伊豫守行敬して。おなじく十枚をつかはさる。松平直之丞信敬封繼しを謝し獻り物す。又書院番頭永井大和守直諒御使して。尾張中將の方の制中を問せらる。○廿九日三緣山 有章院殿靈廟に御詣あり。一橋民部卿齊敦卿北の方かくれさせ給ふにより。紀水の方々使して御けしきうかゞはる。○此月より六月に至り麻疹流行して人多く損亡す。^{武江}○五月朔日月次の拜賀例の如し。相馬因幡守祥胤就封のいとま給ふ。日光門主使して端午の御祝二種一荷まいらせらる。○二日端午の御祝として三家の方々はじめ。萬石以上。兩本願寺。例の輩より使して時服獻せらる。 大納言殿にもおなじ。尾張中將の方より使して制中御尋を謝

せらる。○三日西城槍奉行内藤伊織忠良養子重三郎忠恕。寄合長谷川榮三郎正満子久三郎正以。内藤縫殿養子駒之丞。使番石丸帶刀定静子貞太郎定儀はじめ。父死して家つぐもの八人。一橋民部卿齊敦卿制中を問せられ。御側白須甲斐守政雍御使して菓子一匣をおくらせらる。○五日端午の御祝規のごとし。この夕西東へ一筋の赤雲横たはる。武江○六日那須衆一人暇たまふ。小納戸戸川雄三郎安清小姓となる。大塚護持院權僧正某初瀬小池坊住職となる。○七日中奥小姓土屋丹後守業直西城新番頭となり。持筒頭市岡丹後守房仲清水勤番支配となる。○八日東叡山 嚴有院殿靈廟に御詣あり。同じ山の 凌明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。細川越中守齊茲。松平淡路守利謙。毛利大和守就訓關東筋。酒井左衛門尉忠徳。牧野佐渡守宣成。鍋島紀伊守直知。佐竹壹岐守義知東海道甲斐國川渠修理助役命せらる。丹羽左京大夫長祥は在邑により驛使をして傳へらる。勘定奉行小笠原和泉守長幸。作事奉行三上因幡守季寛。目付山木若狹守正富。駿河國久能山 御宮其他修復の事奉はりしにより時服又は黄金を賜ふ。其他所屬の輩賜物差あり。西城小姓組木村七右衛門重勇老免して小普請となり褒金を賜ふ。この日西城小納戸頭取小野日向守近義本城にうつり安藝守と改む。小納戸頭取能勢河内守頼徳西城にうつり。小納戸長谷川岩之丞保邦小納戸頭取に准せられて。勤務の内千俵高になし下さる。○十一日さきに松平安藝守齊賢父備後守重晟浴湯の暇たまひ廣島にい

たりしにより。驛使して二種一荷たてまつる。今朝紀伊中納言治實卿のもとに。書院番頭淺野中務少輔長富御使して巢鷹をつかはさる。よてまうのぼり謝せらる。○十二日少しく御さしはりにより。三縁山 惇信院殿靈廟に代參使立られず。作事奉行平賀式部少輔信愛同じ山の 安國殿並 崇源院殿靈廟。 天英院殿靈廟所。その他所々修復の事奉はりしにより時服を賜ふ。所屬の輩賜物差あり。○十三日西城小十人吉田安之助春良その與頭となる。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に代參使。十二日に同じさまなり。○十五日月次の拜賀例のごとし。松平越中守定信はじめ參觀のもの二人。松平隱岐守定國はじめ就封のいとまたまはるもの二人。隱岐守定國は御鷹馬を下さる。米倉丹後守昌由養子右京昌俊初見したてまつる。佐渡奉行飯塚伊兵衛政長はじめて赴任の暇たまふ。賜物舊の如し。二條在番につかはされし大番頭中坊河内守廣看歸謁す。同じ與頭番士も例の如し。先手弓頭深澤主水盛徳持筒頭となり。西城納戸頭河尻甚五郎春之は本城にうつり。納戸組頭佐橋忠右衛門佳通は西城の同じ頭となる。初瀬小池坊束本を獻じ住職を謝し奉る。葛城歸住心院使僧。若王子使僧薫袋を獻ず。○十七日紅葉山 御宮 諸廟に御詣あり。○十八日奥にて散樂の御催しあり。氷室。俊成。忠度。野宮。高野。物狂。道成寺。浮舟。是界。祝言養老。狂言末廣がり。比丘貞。磁石。繩なひ。鏡男。福の神なり。又尾郎より使して巢鷹一据を獻る。○十九日水戸中納言治保卿父子。尾張中將齊朝卿へ御使して巢鷹各二据贈らせらる。よて中納

松平正升致仕

言治保卿父子にはまうのぼられ。中將齊朝卿には使して謝し奉らる。大番より西城納戸に入もの一人。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。留守居番高木又兵衛次賢先手弓頭となり。西城小納戸頭取三淵伯耆守正慶留守居番となる。○廿二日西城小納戸平岡與右衛門正興同じ職を頭取らしむ。同城小姓平岡筑前守道存同じ小納戸となる。○廿三日上總國太田喜城主松平彈正忠正升病により致仕して。所領二萬石を其子兵部少輔正路に繼しむ。この正升は故備前守正温が子にして。寶曆七年三月十五日 惇信院殿に見え奉り。その年の十二月十八日叙爵して織部正と改稱し。明和四年九月二十五日襲封し。同じ月二十六日備前守に改め。享和元年七月十一日彈正忠となり。けふ致仕し。その冬十二月六日に卒せしなり。歳六十四。この日納戸宮川内膳おなじ與頭となる。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。日光門主山よりかへられしかば。高家前田信濃守長禧して慰勞せらる。○廿五日奏者番にて寺社の奉行かねし松平周防守康定病により職とかん事を請しに。まづ兩職とも勤よと。同僚松平右京亮輝和。堀田豊前守正毅めして傳へらる。日光門主山よりかへられしにより。使して岩茸をまいらせらる。○廿九日本月御祈禱料銀百枚つかはさる。○晦日三縁山 有章院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。先手筒頭大河内善兵衛政壽火賊捕盜の事命ぜらる。○六月朔日月次の拜賀例の如し。松平兵部少輔正通家繼し

日光前門主
安樂心院宮
安樂心院王
公延法親王

を謝し奉りて金巻物を獻ず。松浦壹岐守清子三穂松熙はじめて見えたてまつる。勸修寺宮使して巻物銀獻じ相續。山王別當觀理院某住職及び權僧正。岩城專稱寺某住職。東叡山東漸院某。福聚院某共に別當職を謝し各束本を獻ず。○二日小普請より納戸に入もの二人。○三日土用に入りしかば三家の方々使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしき伺ふ。増上寺方丈使して熟瓜生花まいらせて同じくうかゞふ。この日安樂心院宮山科にしてかくれさせたまひしかば。けふより音樂を停めらる。こと三口。又尾邸より使して巢雀鶴二据獻せらる。○四日安樂心院宮の事により。日光門主のもとに高家日野伊豫守資施御使して問せらる。この日新番頭室賀圖書正明子多宮。西城先手弓頭永井直次郎直道子岩松直涉はじめ。父死して家つぐ者十三人。○六日戸田采女正氏教御使として。日光門主に香資の銀五百枚。西城よりは安藤對馬守信成して百枚。 臺の上よりは三十枚つかはさる。萬年記 ○七日大番頭遠藤左近將監胤富病免す。さきに森和泉守忠哲に預けられし堀周防。こたび 大納言殿御元服御官位により御預御ゆるしありて。一族どもに引とらしめらる。○八日東叡山 凌明院靈廟に牧野備前守忠精代參す。持弓頭野一色兵庫頭義恭西城留守居となる。○九日東叡山 淨円院殿靈牌所に戸田采女正氏教代參す。御側白須甲斐守政雍御使して。日光門主の制中を問はせられ槍重。 大納言殿よりは干菓。 御臺所よりは冰糖贈らせらる。○十一日臨時の朝會あり。松平讃岐守頼儀はじめ參觀の者十一人。暑中を問せ

米倉昌由致仕

られて。日光門主及び増上寺方丈に使用して楡重をおくらせらる。○十二日三縁山
 惇信院殿靈廟に御詣あり。○十三日けふも臨時朝會あり。酒井修理大夫忠貫はじめ就
 封のいとまたまはるもの二十四人。本庄近江守道昌。書院番頭永井大和守直諒ともに
 大番頭となる。○十五日山王の社へ御側大久保豊前守忠温御使して白銀十枚御進薦
 あり。武藏國金澤領主米倉丹後守昌由病により致仕し。その養子右京昌俊に領知一萬
 二千石を繼しむ。この昌山實は支族千之丞昌盈が次男にして。故長門守昌賢が養子と
 なり。寛政十年八月家つぎ。九月朔日襲封謝恩の日初見したてまつり。その十二月叙
 爵し。けふ致仕して後主計頭にあらため。文化六年五月入道して榮寛齋と號し。同じ
 き十三年十二月廿三日卒す。とし二十七。○十六日嘉祥の御祝規の如し。○十七日紅
 葉山 御宮に土井大炊頭利厚代參す。火消役大島雲八義和持弓頭となる。○十八日
 峯姫君水戸の鶴千代のかたへ御婚嫁の事を。戸田采女正氏教。土井大炊頭利厚御使し
 て。中納言治保卿父子に仰進らせられ。紀伊中納言治寶卿へは牧野備前守忠精御使し。
 尾張中將齊朝卿へはその家司めして傳へらる。よて治保卿父子にはまうのぼられ御
 對面あり。御手づから鬘斗匏つかはさる。治寶卿にもまうのぼられ御對面あり。鶴千
 代のかたよりは使して謝せらる。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。上直の輩へ。松平伊豆
 守信明これを傳ふ。○十九日峯姫君御婚嫁を祝して群臣皆出仕あり。老臣に謁して退
 く。○二十日東叡山 有徳院殿靈廟に御詣あり。○廿一日西城御膳奉行永井主水尙

喜老免して小普請となり褒金を賜ふ。田安右衛門督齊匡卿麻疹により。御側大久保豊
 前守忠温して問はせらる。松平越前守治好養子本之丞さのふうせしにより。 兩御
 所昨日一日の御いもゐあり。大番頭永井大和守直諒坂城への暇たまふ。これは同僚菅
 沼攝津守定賢死せしによりてなり。賜物は規におなじ。大番より西城納戸に入もの一
 人。○廿二日大番羽太清左衛門正盈。鈴木主税政徳。二條在番中御金藏修理奉はりし
 により銀を下さる。○廿三日使番玉虫八左衛門千茂病免して寄合となる。御側本郷大
 和守泰行して。田安右衛門督齊匡卿を問はせられ。楡重生干魚をおくらせらる。御麻
 疹によればなり。日光門主に土井大炊頭利厚御使して。この八月 心觀院殿三十三
 回周忌千部御法會の事仰つかはさる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊
 兵部少輔直朗代參す。同所 心觀院殿淺明院殿御靈所。閑院正尹 直仁親王御宮。五十の宮御方。の御法會總督の事。土
 井大炊頭利厚に命ぜらる。小普請より大番に入るもの一人。○廿五日端午に時服たて
 まつりし三家のかたへはじめ。例の輩。兩本願寺。松平榮翁重豪御内書を賜ひ。
 大納言殿よりは奉書をわたさる。小十人松本長右衛門正恕同じ與頭となる。○廿八日
 持筒頭安部信濃守信富西城楡奉行となり。寄合にて中川口番命ぜられし安藤内藏助
 廣榮火消役となる。○十九日町奉行小田切土佐守直年その勤勞を慰せられて時服金
 を賜ふ。小納戸平野榮五郎好恒病免して寄合となる。

文恭院殿御實紀卷卅五 享和三年七月に始
り十二月に終る

○七月朔日月次の拜賀例のごとし。増山備中守正寧。三宅備後守康友。保科能登守正徳。京極加賀守高有坂城加番にさゝれていとまたまひ賜物差あり。松平遠江守忠告はじめ就封のいとまたまはるもの六人。米倉右京昌俊家つぎしを謝し獻り物す。小姓組番頭本多大隅守政房書院番頭となり。小普請組の支配室賀壹岐守正頼小姓組の番頭となる。田安右衛門督齊匡卿御麻疹酒湯濟ませられしにより。少老井伊兵部少輔直朗して鮮鯛をおくらせらる。又大番頭松平丹後守信圭。同じ與頭番士も坂城成役の暇。長崎奉行成瀬因幡守正定も赴任の暇給ふ。ものく賜物舊のごとし。佐渡奉行鈴木新吉正義任所より歸り謁見す。○二日寺社の奉行阿部播磨守正由。勘定奉行石川左近將監忠房。東叡山にて 心觀院殿御法會の事命せられ。西尾隱岐守忠善同じ山の警衛奉はる。腰物かた水上大吉正賀老免して小普請となる。褒金をたまふ。○三日清水勤番支配武藤庄兵衛安徴養子書院番米吉安存。寄合長谷川岩吉藤孚子乙之丞勝永はじめ。父死して家つぐもの十人。○六日七夕の御祝として。三家のかたぐはじめ。その他のともがらより鯖料たてまつる。○七日七夕の佳賀規の如し。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。寄合指揮せし久貝忠左衛門正貞小普請組の支配となり。先手弓頭幸山猪兵衛元□持筒頭となる。また寄合青木縫殿助直美中川口番

となる。御膳奉行永田松次郎直茂西城にうつさる。勘定小高作左衛門助久右衛門將方の郡奉行となる。又若州小濱空印寺某越生龍穩寺住職とせらる。○九日小姓組中山勘右衛門信珉。神保喜内長通。有田七之助貞英。書院番朝岡新之助定増小納戸となる。喜田長通は新五右衛門と改む。又大目付久田縫殿頭長考長子孫太郎。西城小姓杉浦長門守勝俸養子安太郎勝義共に召出され。三百苞賜ひ小納戸となる。○十日勘定男谷平藏忠恕同じ與頭とせらる。○十一日寄合松平孫大夫勘滿同寮の指揮命せらる。本所彌勒守某護持院護國寺兼住職命せらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。この日兩番に准じたる庭番村垣左太郎定行御膳奉行となり。勘定組頭水野藤九郎忠得御殿詰とせらる。○十三日留守居駒木根大内記政永。小普請奉行有田播磨守貞勝。こたび西城後閣新たに構造の事奉はりしにより時服を賜ふ。その他所屬のともがら賜物差あり。小納戸田邊十左衛門惟中小姓組に貶さる。○十四日紅葉山 諸廟に御詣あり。東叡山 至心院殿靈牌所に御側本郷大和守泰行代參す。○十五日中元の御祝として。三家の方々使まいらす。日門へ高家中條河内守信義して時ふく二十。増上寺方丈へ奏者番松平右近將監武厚して銀二百枚。時ふく十。盆料として下さる。○十七日紅葉山 御宮に戸田采女正氏教代參す。○十八日濱の庭園に成らせられ。夫より兩國の邊にて漁夫の業視給ふ。寄合河野喜十郎通成子鐵之助。曾根五郎兵衛次彭子孫助。興津内記忠明子直太郎忠本。花房清左衛門幸佐子鞠負幸久はじめ。父

寺社奉行松平康定免

病により致仕し。子家ぐもの廿六人。○二十日西城小十人頭小林彌兵衛正祕先手弓頭となり。大番與頭久留源三郎正邦西城小十人頭となる。○廿二日紀水兩黄門及び水世子へ御鷹の告天子五十づゝつかはさる。御使は例のさまなり。徳川前黄門重倫卿へは驛使してつかはさる。この日大番伊達庄左衛門政譽金を下さる。老衰によればなり。○廿三日寄合室賀兵庫正繩おなじ肝煎となり。神保右近茂和本所深川火災巡視命ぜらる。この日尾張中將の方へ雲雀を賜はる。御使は小姓組番頭津田山城守信久なり。又使番して同じ品賜はる輩。松平越前守治好父致仕左兵衛督重富はじめ十七人。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老高極備中守高久代參す。奏者番兼寺社奉行松平周防守康定病により。寺社奉行を請ふまゝに免さる。奏者番はそのまゝあるべしとなり。○廿五日日光門主より。凌雲院前大僧正して。安樂心院宮病中御たづね。かつ御檀嚙その他御使下されしを謝せらる。この日奥にて御鷹の雲雀三十づゝを老臣へ下さる。○廿六日日光門主使して。峰姫君御婚嫁仰出されしを賀し申さる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。小笠原伊豫守忠苗。本多隱岐守康完參觀す。内藤豊前守信敦。酒井大學頭忠禮就封のいとまたまはる。使番小菅猪右衛門正容。書院番一色源次郎直美坂地目付にさゝれて暇たまふ。賜物は舊に同じ。源次郎直美子幾之助直方初見したてまつる。○廿九日大番松平市三郎正意同じ與頭となる。西城腰物方納戸大番より新番にうつるもの十人。小普請より腰物方へ入るもの一人。○八月朔日八朔の佳儀規のごとし。

時之助生

奏者番水野忠友寺社奉行を兼任す松浦矩卒

し。この日水戸の邸より初鮭を獻ぜらる。又本城にして男御子御生誕あり。御腹お筆方。こたびよりお弘めはしたまはずとなり。○三日西城留守居大久保内膳正忠寅子小姓組藤右衛門忠眞はじめ。父死して家つぐもの六人。○五日奥右筆田中吉藏正純西丸廣敷番の頭となる。○六日小姓千村隱岐守頼見。小納戸熊倉彌吉茂高。有田七之助貞英ともに西城にうつる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。小普請より納戸に入もの一人。○九日奏者番水野出羽守忠成寺社奉行を兼しめらる。○十一日肥前國平戸の支封松浦豊後守矩卒す。子なし。請ふまゝに宗家壹岐守清家土松浦典膳某子金三郎良をして嗣子とし。遺領一萬石を襲しむ。この矩は伊豫守寶の子にして。天明三年七月家つぎ。同じ五年十一月朔日はじめて見えたてまつり。七年三月十一日叙爵して大和守と稱し。のち今の名にあらため。この月十九日とし三十六にしてうせぬるなり。この日尾張中將の方後閣へまうのぼられ御對面せらる。此日後閣へ鮭一尺進らせらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。この日坂城金奉行村山半大夫直休小十人組へ貶さる。又尾邸より使してきのふ後閣にのぼりしを謝せらる。○十四日釋奠により。聖廟に御側岡部因幡守長貴代參して。太刀馬資。黄金一枚御進薦あり。土井大炊頭利厚。寺社奉行阿部播磨守正由。勘定奉行石川左近將監忠房。東叡山 心觀院殿御法會のうちかしこに赴くをもて謁見をたまふ。奥右筆見習船橋久五郎茂喬本職となる。○十五日月次の拜賀例のごとし。使番倉橋三

石川總師卒

郎五郎政利駿河國府の目付にさしられていとまたまふ。これよりさき男子君生れさせたまふといへども。おぼしめすところありて御弘めはし給はず。御名は時之助君と稱しまいらす。松平丹波守光壯はじめ參觀のもの八人。就封の暇たまはるもの。堀田大藏大輔正順はじめ八人。僧侶住職を謝し奉るもの二人。○十六日伊勢國龜山の城主石川主殿頭總師卒す。その子千勝總佐に遺領六萬石をつがしむ。この總師は日向守總博が子にして。寛政四年閏二月十五月初見したてまつり。その十二月叙爵し。同じき八年五月六日家つぎ。ことし六月廿三日卒す。とし二十七。去りし日御生誕の男御子を松平時之助君と稱し參らせらる。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。東叡山 心觀院殿御法會中日により。少老立花出雲守種周御使して。日光門主に楡重をおくらせられ。また種周して總督はじめ諸職警衛のともがらへ御懇詞を下さる。同じ事によりて。三家のかたぐし使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。○十八日同じ御法會により。けふも三家のかたぐし使して菓子たてまつらる。この日大塚護持院權僧正に任ぜらる。又表右筆横山正太郎直春奥同職見習ふべしと命ぜらる。○廿日東叡山 心觀院殿靈牌所御詣あり。又御法會濟せられしにより。土井大炊頭利厚御使して。日光門主に白銀時服をつかはされ。僧中へもおなじく下されものあり。○廿一日御法會總督土井大炊頭利厚見え奉りて時服を賜ひ。寺社奉行阿部播磨守正由。以下文殊殿更被奉給廿三日三時日之御所也にて三家のかたぐし使して御けしきうかゞはる。百人組の頭酒

谷中延命院の僧日道を嚴科に處すを柳原に頼藏を建つ

井内記忠貞甲府勤番の支配となる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。西城新番頭酒井近江守忠頼本城に遷り。中奥小姓小笠原安房守政恒西城新番頭となり。先手筒頭寛傳五郎孝忠持弓頭となる。小普請より書院番へ入もの十人。○廿五日寺社の奉行阿部播磨守正由。勘定の奉行石川左近將監忠房。心觀院殿御法會の事つとめしをもておのゝ時服を賜ふ。その他奥表右筆のともがら白銀を下さる。○廿八日寄合醫多紀安長元簡日光門主御登山によりつかはさる。○廿九日濱の庭園に成らせらる。御獲もの鷹三羽なり。○三十日高家六角主殿頭廣胖御使して。日光門主に蒲荷一籠をおくらせらる。こは 心觀院殿御法會濟み。かつ近々御登山によりてなり。小普請より小姓組に入もの十人。○この月谷中延命院日道僧律を犯したるにより嚴科に處せらる。又柳原堤の側に頼藏を建らる。武江年表 ○九月朔日月次の拜賀例のごとし。牧野備前守忠精子新次郎忠鎮。石川内膳總親初見し奉る。松平山城守信愛。松平宮内少輔忠惠。大岡越前守忠移。柳澤伊賀守光被坂城加番はて、かへり調す。久世大和守廣譽は就封の暇たまひ。遠山刑部少輔友壽。寄合松平岩之助忠命。南部主税信喜は駿河國府の城加番にさしれ暇たまひ。石川千勝總佐。松浦金三郎良家。繼しを謝し奉り各獻り物あり。大番頭菅沼伊賀守定候坂城在番はて。及び與頭番士も同じ。護持院某權僧正を謝し。品川東海寺輪番某。愛宕圓福寺某色衣を謝し。時服あるは東本獻し謝し奉る。○二日日光門主まうのぼられ。御座所にして御對面あり。はて

戸田光壯の預り地治殿のすあるを褒賞

て黒木書院にして御饗應あり。夫より白木書院に出たまひ。僧正院家その他僧中見え
たてまつり。はてし席々にして調理下さる。この日松平丹波守光壯御預り場所取計方
よろしきにより。民共一同安き心もて。冥加として糶獻納の事乞いてしかば。村々凶
年救のため圍置しは。畢竟常々心を用ひ。家士共に取計方行届よしの賞を老臣傳ふ。
○三日重陽の御祝として。三家のかたぐははじめ。萬石以上。兩本願寺。例のともがら
より時服をたてまつる。 大納言殿へも同じ。番頭菅沼攝津守定賢養子龜丸。西
城槍奉行石野筑前守範堯子三次郎則存。小納戸竹川兵十郎時忠子善兵衛明直。寄合宇
津大學教長養子□之助はじめ。父死して家つぐもの□。○四日 兩御所ともに
淺草のほとり成らせらる。淺草寺に御憩あり。 大納言殿には梅園院にて餉參る。
重陽の御祝として。日光門主使して二種一荷進らせらる。小納戸頭取中山志摩守信勝
して戸田采女正氏教を弔慰せらる。こは老母死去せし故なり。○五日交代寄合竹中主
殿重寛大番頭となる。○六日奥右筆秋山松之丞惟祺同じ組頭に准せらる。○八日東叡
山 淺明院殿靈廟に御詣あり。同じ山の 嚴有院殿靈廟に松平伊豆守信明代參
す。○九日重陽の佳儀規の如し。○十日東叡山 常憲院殿靈廟に土井大炊頭利厚代
參す。高家前田信濃守長禧日光山 御宮代參命せられ暇たまふ。祭祀の奉行稻葉播
磨守正武もなしく暇たまふ。賜物例に同じ。○十一日菊千代君髮置の御祝にて。御
側本郷大和守泰行御使して。薩摩國貞安の御刀。平安城長吉の御さしどへ。 大納

山内豊泰卒

言殿より御側松平但馬守喜生御使し巻物十。 御臺所より女房して巻物十。一種千
疋まいらせらる。留守居松浦越前守信程同じ御祝に白髮さげしにより見え奉り時
服を賜ふ。菊千代君よりも白銀二。巻物三を下さる。少老京極備中守高久同じ御祝に
より巻物下され。貞章院尼の方便して肴箱を進らす。○十二日三縁山 惇信院殿靈
廟に松平伊豆守信明代參す。山内攝津守豊泰卒す。豊泰請ひおき。宗家土佐守豊策も
願ひたてまつるにより。その子松太郎豊武をして遺領一萬三千石をつがしむ。この豊
泰實は宗家土佐守豊敷が五男にして。天明元年正月故遠江守豊産が嗣子となり。その
年三月十五月初見したてまつり。同じき三年五月廿一日家つぎ。その十二月叙爵し。
ことし七月十七日卒す。とし三十九歳。火消役戸田大學正從百人組の頭となり。使番
能勢市十郎頼寛先手筒頭となる。○十三日一橋門外閑地に成らせらる。御拳鴨一羽な
り。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。 清揚院殿靈牌所
に奏者番小笠原近江守貞温代參す。さのふ御成のをり鳥射し書院の番士に時服をた
まふ。この日淑姫君のかた本城後閣へいらせられ御止宿あり。○十五日月次の拜賀例
のごとし。眞田豊後守幸專參觀し。松平宮内少輔忠惠就封のいとま給ひ。朽木肥兒太
郎綱方。大久保帶刀教孝初見したてまつる。山内松太郎豊武襲封を謝し物を獻りて謝
す。日光奉行丸毛長門守利隆。浦賀奉行仙石彌兵衛久功に初て任所への暇給ふ。賜物
規に同じ。牧野備前守忠精子新次郎忠鎮この後鍵二本もたらずべくの御ゆるしあり。

伊豆大島噴火

○十六日小普請より西城小姓組に入もの九人。同じ腰物方に入もの一人。○十七日紅葉山 御宮。 諸廟に御詣あり。○十八日御茶口切により。品々をへ三家のかたがたより使してまいらせらる。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。日光山代參使高家前田信濃守長禧。祭禮の奉行稻葉播磨守正武山より歸り謁す。使番松平原大夫定堅病免して寄合となる。この日大番伴五兵衛政時同じ與頭となる。○廿一日淑姬君尾邸へ歸らせ給ふ。萬年記○廿二日臨時朝會あり。松平伊豆守信明子長次郎信順初見したてまつる。松平山城守信愛就封のいとまたまひ。使番小笠原兵庫信遍。小姓組彦坂三大夫紹芳坂地目付はてゝかへり謁す。小十人頭日根九郎兵衛正婿子午之助。西城小納戸三好中務少輔守貴子愼之丞始めて見えたてまつる。○廿三日吹上の庭園に成らせられ。それより神田橋の邸へ過らせらる。○廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。寄合火災巡視奉はりし戸田内膳氏澄火消役となる。○廿五日濱の庭園に成らせられ。鷹にて鴨若干捉得給ふ。○廿八日勘定高野市郎右衛門武富坂城金奉行を仰付らる。日門へ本月御祈禱の料進らせらるゝ事舊に同じ。○廿九日三縁山 有章院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。○十月朔日月次の拜賀例の如し。松平加賀守齊廣。松平阿波守治昭はじめ參勤のもの四人。戸田大隅守忠喬子玄蕃忠居はじめて見えたてまつる。この日伊豆の國大島焼たるよし注進す。武江年表○二日一橋門外閑地

土屋英直卒

へ成らせらる。御拳は鴨なり。玄猪御祝規のごとし。この日江戸中灰降事夥し。武江年表○三日 大納言殿王子のほとり成らせらる。御拳鴨貳羽なり。王子村金輪寺にて晝餉奉る。寄合甲府勤番の支配牧野播磨守忠義子兵庫忠寛。井上内記正矩子欣之丞。大久保彦左衛門忠順子平助はじめ。父死して家つぐもの廿一人。○四日常陸國土浦の城主土屋但馬守英直卒す。その子保三郎寛直をして遺領九萬五千石を襲しむ。この英直實は故能登守篤直が三男にして。兄能登守泰直が嗣子となり。寛政二年五月廿三日家つぎ。七月廿八日相續謝恩の日初見し。家士も拜したてまつり。同じ九月在所へ暇下され。十一月廿八日叙爵し。後日光代參使又東叡山成役奉はり。同じき十年六月十九日奏者の事奉はり。享和元年十月十一日病により職を辭し。ことし八月十二日卒す。年三十五。さりし二日御成のをり鳥射し番士二人に時服を賜ふ。○五日御生誕の御祝として。高家。詰衆。奏者番。布衣以上。其他のともがらへ席々にして餅酒を下さる。奥にて例の如く散樂あり。松平安藝守齊賢使して口切茶に鮮鯛添てたてまつる。日光門主これよりさき御心地例ならずましゝが。此程さはやがせ給ひ御歸寺により。高家大友因幡守義方して問はせらる。御對面の事は又仰進らせらるべしとなり。奥にして例のまゝに散樂を催さる。觀覽のともがら規に同じ。養老。兼平。松風。眞の盛久。熊坂。龍虎。祝言弓八幡。狂言二人袴。名取川なり。○六日備後國福山の城主阿部伊勢守正倫病により。致仕の御ゆるしありて。その子主計頭正精をして領地十萬石を繼しむ。この

阿部正倫致仕

正倫は故伊豫守正右が長子にして。明和四年九月朔日初見したてまつり。その十二月叙爵し。備中守と稱し今の名にあらため。同じき七年八月廿九日家つぎ。安永三年二月十一日奏者番命ぜられ。同じき六年九月十五日寺社奉行の見習となり。同じき八年四月廿三日本職にすゝみ。天明七年三月七日宿老にのぼり従四位下に叙し。あくる八年二月廿九日病により職を辭し。舊の如く雁の間列に入り。けふ致仕してのち。文化二年八月廿二日卒す。とし六十一。松平加賀守齊廣口切茶に鯛をへて獻る。日光門主山よりがへられしにより。使して蓼菰一匣をまいらせらる。○七日駒場町へ放鷹として成らせられ。御物數鶉九羽捉得たまふ。少老立花出雲守種周從ひて鶉一羽狩得らる。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○九日吹上御庭にして大的御覽あり。先手筒頭間宮友三郎光徳火賊捕盜の事命ぜらる。○十日江州坂田惣持院某本所彌勒寺住職とせらる。○十一日寄合松平小十郎定謚火災巡視の事命ぜらる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。○十四日三縁山 文昭院殿靈廟に御詣あり。夫より護國殿黒本尊御拜覽あり。御裝束所へいらせられて還御なる。○十五日月次拜賀例のごとし。水野壹岐守忠昭養子儼之進忠篤初見したてまつる。阿部主計頭正精。土屋保三郎亮直共に襲封を謝し獻りものあり。秋田信濃守鑑季封地より致仕の事請ひ申すにより。陸奥國三春の地へ目付永井鞆負直堯を檢視としてつかはさる。賜物は金五枚なり。日光奉行三橋飛驒守成方參謁す。本所彌勒寺某

新庄直規致仕

住職を謝し東本獻す。此日未の牌一橋門前閑地に成らせられ。鷹もて小鴨三羽を獲給ふ。○十六日吹上御覽所に成らせられ騎射御覽あり。宿老少老見る事をゆるさる。○十七日紅葉山 御宮代參使立られず。こはうちく御産穢によてなり。○十八日濱の庭園に成らせらる。御拳は若干なりとぞ。この日後閣へ雁三進らせらる。○二十日常陸國麻生の領主新庄駿河守直規病により致仕し。その子龜丸直計に所領一萬石を繼しむ。此直規は故越中守直隆の第二子にして。安永元年の十二月四日嗣子の日襲封し。その月十五日 浚明院殿を拜し奉り。おなじ冬駿河守と改め。寛政六年八月八日大番の頭となり。同じ十一月十二月九日辭職し。けふ致仕し。文化五年三月廿三日卒しぬ。歳五十八。○廿二日重陽に時服獻りし三家のかたぐい始め。連枝。國持。兩本願寺。松平重豪入道榮翁へ御内書を賜ひ。 大納言殿よりは奉書をわたさる。語心院某金地院の住職となる。○廿三日木下川のほとり鷹狩として成らせられ。鴨數多狩得給ふ。○廿四日東叡山 深徳院殿靈廟所に戸田采女正氏教代參し。池上本門寺 御墓には御側本郷大和守泰行代參す。また東叡山 孝恭院殿靈廟に少老井伊兵部少輔直明代參す。○廿五日去りし廿三日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。使番して御拳の鴨を松平加賀守齊廣。松平讚岐守頼儀へ下さる。○廿七日先手弓頭米津周防守田將病免して寄合となる。○十一月朔日月次の拜賀例のごとし。京極壹岐守高賢。寄合大久保隼人教富。伊東主膳祐真駿河國府の城加番はてゝかへり謁す。新庄龜

壽姫生

田沼意信卒

丸直計襲封せしによりさげものす。本所彌勒寺某色衣を謝し東卷獻す。奥にて御催の鼓吹あり。○二日これよりさき十月十五日姫君生れさせたまふ。御腹はちとせのかた。表向御弘なしといへとも。御名は壽姫君と稱したてまつるべしと觸らる。○四日濱の庭園に成らせらる。御羽數鴨若干なり。田沼主計頭意信卒す。嗣子なきにより請ふまゝに支封西城小納戸市左衛門意英弟幾之助意定をして遺領一萬石をつがしむ。この意信實は山城守意知が四男にして。兄左衛門佐意壹が嗣子となり。寛政六年八月十五日初見したてまつり。同じき十二年九月廿八日家つぎ。十二月叙爵し。この九月十二日卒す。とし二十二。新番頭高尾伊賀守信福養子小納戸惣十郎信一。寄合金田伊豫守正扶子主殿正恭。小笠原越中守宗準養子珉之助起言。細井安藝守安常子留之助寛常。内藤徳三郎忠英養子留三郎忠恒。仁賀保大膳誠善子土佐五郎。持弓頭大島雲八義和子兵庫義徳。小納戸神織部忠榮養子龜八郎はじめ。父死して家つぐもの十六人。○六日去りし四日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。○七日備中國庭瀬の領主板倉主水佑勝喜病により。致仕の請をゆるされ。その子輝之進勝氏に領知二萬石をつがしむ。この勝喜實は攝津守勝興が四男にして。兄主水勝志が養子となりて。天明五年四月廿四日家つぎ。同じ廿八日襲封謝恩の日初見したてまつり。其十二月叙爵し。寛政三年六月十六日和田倉御門の成となり。同じ九年四月十九日火災の折聖像遷座の事奉はり。けふ致仕し。此年十二月十一日織部佑にあらためて。天保十三年二月廿二

板倉勝喜致仕

日卒す。年七十八。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に松平伊豆守信明代參す。小納戸花村忠兵衛正彬。久田孫太郎小姓となる。○九日三河島のほとり放鷹として成らせられ。鷺鴨を多く捉得給ふ。○十一日去りし九日御成のをり鳥射し番士二人時服をたまふ。○十二日三緑山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十三日使番して雁下さるゝもの松平越前守治好はじめ十四人。○十四日留守居番山角四郎左衛門定浩老免して寄合となる。褒賜あり。小普請醫湯川安道元倭。坂真菴宗之番醫となる。この日吹上にて鬪的御覽あり。萬年記 ○十五日月次の拜賀例のごとし。松平肥前守齊直參觀す。那須のもの二人も參謁す。松平大和守直恒子直丸直温初見したてまつる。板倉輝之進勝氏。田沼幾之助意定共に家つぎしを謝し奉りものを獻す。甲府勤番の支配酒井内記忠貞賜物有て赴任の暇たまひ。叙爵して壹岐守とあらたむ。その子益吉初見したてまつる。長崎奉行肥田豊後守頼常參謁す。○十六日大番與頭鈴木清左衛門泰元老免して小普請となる。褒金を賜ふ。この日吹上にして仙臺馬視給ふ。○十七日紅葉山 御宮に松平伊豆守信明代參す。日光門主使して口切茶に蜜柑をへてまいらせらる。この日基將棊のものをして其技を鬪はしむ。○十八日大川のほとり成らせらる。御奉は鴨鷺數多く狩捉らせ。又獵を視給ひ。御膳所は箱崎田安邸別墅にて餉奉る。松平肥前守治茂はじめ。使番して雁給ふもの四人。○十九日寄合堀田幸之助一權火消役となり。大番與頭山岡平右衛門景直留守居番となり。徒頭能勢甚四郎頼護。小十人頭三宅

秋田鑑季致仕

助之允政市ともに先手筒頭となり。田安邸用人常見三右衛門直達西城裏門番の頭となり。西城小納戸設樂長三郎貞長徒頭となり。同じ小十人頭江馬平左衛門季寛本城にうつり。同じ小姓組天野勘左衛門常規西城小十人頭となる。この日松平飛驒守利考はじめ十人へ。使番して雁一づゝ下さる。○二十日愛宕真福寺某京智積院住職とせらる。○廿一日吹上に成らせられ南部馬御覽あり。陸奥國三春の城主秋田信濃守鑑季病により致仕し。子なかりしかばその弟安東乙之助孝季をやしなひて所領五萬石をつがしむ。この鑑季は故山城守侍季が子にして。寛政四年三月十五日初見したてまつり。五年十二月叙爵し大炊頭と稱し。のち河内守また今の名にあらため。同じき九年九月二十日家つぎ。けふ致仕してのち。文化八年七月六日卒す。とし三十六。船手頭戸田次郎左衛門山相老免す。○廿二日眞田豊後守幸專始め。使番をして雁下さるゝもの三人。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久代參す。中奥番服部頼母貞勝船手頭となる。○廿五日濱の庭園に成らせらる。御拳の品は鴨若干狩得給ふ。けふ寒に入りしかば。三家のかたゝ使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。この日父致仕して子家つゞ御家人二十二。仙臺駒牽入の事つとめし松平政千代が家人等賜物あり。○廿六日日光門主及び増上寺方丈使し。物獻じ寒中御けしきうかゞふ。持筒頭朽木修理榮綱鍵奉行となり。 仙洞附大久保大隅守忠良持筒頭となる。○廿七日和泉國岸和田城主岡部美濃守長備いまはの願を免され。その子主計頭長

仙洞付大久保忠良持筒頭に轉す

岡部長備の事蹟

目付山木正富仙洞附に任す

大目付安藤惟徳旗奉行に轉す

周に遺領五萬三千石を襲しむ。この長備は故駿河守長修が一子にして。安永五年七月朔日 浚明院殿を拜し奉り。その八月十八日襲封し。安永六年の冬從五位下して美濃守にあらため。此年十一月廿日卒せしなり。歳四十四。この日奥にて宿老のともがら御鷹の雁賜ふ。又松平伊賀守忠濟始め雁下さるゝもの六人。小普請組の支配船越駿河守景範病免して寄合となる。大番富永六郎左衛門正英。渥美源太郎觀憑共におなじ與頭となる。○廿八日南部馬牽入の事つとめし南部大膳大夫利敬の家人等下されも舊に同じ。○廿九日上千葉のほとり成らせられ。鷹放たれて雁鴨小鷲狩給ふ。○三十日日光門主御歸寺により。まうのぼられ御對面あり。目付山木若狹守正富 仙洞附となる。けふ初雪のふりしかば。三家のかたゝ。同じ世子より使まいらせ御けしきうかゞふ。○十二月朔日月次の拜賀例の如し。細川越中守齊茲。松平淡路守利幹。毛利大和守就訓。佐竹壹岐守義知。酒井左衛門尉忠徳。丹羽左京大夫長祥。牧野佐渡守宣成。鍋島紀伊守直知。川々修復の事奉はりしによりものゝ時服を賜ふ事差あり。五島大和守盛運參觀す。目付永井鞆負直堯。秋田信濃守鑑季が領知陸奥國三春よりかへり調す。去りし廿九日御成のをり鳥射し番士一人時服を賜ふ。大目付安藤大和守惟徳旗奉行となる。是迄の足米は其儘賜はる。○二日歳暮の褒物舊の如し。有栖川二品中務卿織仁親王姫君樂宮。この秋九月御下向により留守居松浦越前守信程。臺の上用人東條信濃守長祇。目付伊東長兵衛祐香。使番石野新左衛門廣温。共に道路護送の事命ぜ

らる。府にては留守居酒井因幡守忠敬。臺の上用人中島伊豫守行敬奉はる。○三日
 寒中をとほせられて。使して日光門主及び増上寺方丈に槍重をつかはさる。寄合火災
 巡察奉はりし土屋彌學光直。池田伊三郎長休。久世政之助廣樂。松平求馬介乘讓。堀田
 鐵之丞一知。井上修理正直。石川直吉正邦。土岐縫殿助頼門中奥の小姓となる。小普請
 方改役より小十人組に入もの一人。けふも歳抄の褒賞あり。○四日西城小姓加藤淡路
 守泰豊中奥小姓となる。けふも歳暮の褒賜昨日に同じ。○五日交代寄合伊東千之助祐
 承養子岩丸祐溥はじめ。父死して家つぐもの七人。西城持筒頭堀田土佐守正貴おなじ
 留守居となり。火消役富田中務知良小普請組の支配となり。二九留守居安藤九郎左衛
 門信姿西城先手筒頭となり。書院番柏屋八藏正長おなじ與頭となる。表右筆二人小十
 人組へ貶さる。又一人勘定へ歸さる。○七日金地院某僧祿職の事命せらる。小姓組與
 頭河野主税通毘老免して寄合となり時服を賜ふ。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に
 土井大炊頭利厚代參す。この日西城廣敷番の頭田中吉藏正純表右筆組頭となり。西九
 切手門番の頭谷左仲柄明同じ廣敷番の頭となり。表右筆組頭前田左兵衛安敬西九切
 手門番の頭となる。○九日川渠淡利のこと奉はりし細川越中守齊茲。酒井左衛門尉忠
 徳。丹羽左京大夫長祥。松平淡路守利幹。牧野佐渡守宣成。鍋島紀伊守直知。毛利大和
 守就訓。佐竹壹岐守義知の家人等時服白銀羽織等を賜ふと差あり。○十日歳抄の賞行
 はる。事例の如し。○十一日吹上に成らせられ騎射御覽あり。○十二日三線山 憚

松平直義卒

信院殿靈廟代參使立られず。これうちく御産穢によりてなり。さのふ騎射御覽あり
 しをもて。その師寄合小笠原平兵衛常方に時服を賜ひ。射手のともがら二十五人おの
 ちの金を賜ふ。○十三日千住のほとり放鷹として成らせらる。御得物は黒雀鴨鷓鴣な
 り。掃塵規のごとし。日光門主。三家のかたぐ。並増上寺方丈へ八代蜜柑をおくらせ
 らる。事例の如し。○十四日けふも歳暮の賞行はる。松平上野介直義卒す。子主税助
 直寛をして遺領三萬石と襲しむ。この
 ○十五日月次拜賀例のごとし。尾張中將齊朝卿姉女婚嫁の事を謝せられ。使してもの
 進らせらる。堀田大藏大輔正順はじめ參覲六人。那須衆福原内匠資明子久米之助はじ
 めて見えたてまつる。秋田乙之助孝季家つぎしを謝して。金巻物に馬をへて奉る。浦
 賀奉行仙石彌兵衛久功參謁す。去りし十三日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。
 ○十六日松平淡路守利幹從四位下にす。み。その他從五位下に叙するもの廿八人。土
 井三郎利謙伊豫守。石川内膳總親近江守。板倉輝之進勝氏主水佑。大關吉太郎増陽美
 作守。山内松太郎豊武遠江守。大久保帶刀教孝出雲守。米倉右京昌由丹後守。松浦金三
 郎良織部正。新庄龜丸直計越前守。田沼幾之助意定主計頭。松平大和守直恒子直丸知
 豊大隅守。牧野備前守忠精子新次郎忠鎮河内守。酒井左衛門尉忠徳子新太郎忠器攝津
 守。松浦壹岐守清子三穂松照肥前守。牧野佐渡守宣成子直太郎以成豊前守。水野壹岐
 守忠詔養子儼之進忠篤周防守。大番頭竹中主殿重寛遠江守。小普請奉行蜂屋源八郎成

定近江守。中奥小姓松浦直次郎若狹守。駒木根孫助政曉肥後守。小姓佐野龜五郎貴行左京亮。木村庄橋貞休主水佑。中野定之助清茂播磨守。松平忠左衛門勝貞上野介。西城（二）小姓能。

頭。小納戸長谷川岩之丞保邦主膳正。西城小納戸平岡與右衛門正興玄蕃頭となる。また松平加賀守齊廣請しにより。家士一人叙爵をゆるさる。布衣の士に加へらるゝもの二十四人。小普請組支配久貝忠左衛門正貞。火消役小濱長五郎壽隆。安藤内藏助廣榮。戸田内膳氏澄。堀田幸之助一權。留守居番山岡平右衛門景直。使番本多作左衛門重賀。日根野織部弘篤。荒川常次郎義行。土屋勝右衛門利族。榊原平十郎政堯。曲淵市大夫勝智。書院番與頭精屋八藏正長。西城裏門番之頭原田平兵衛種芳。徒頭小山新三郎英本。西城小十人頭久留源三郎正邦。天野勘左衛門常規。船手頭服部頼母貞勝。西城納戸頭佐橋忠右衛門佳通。奥右筆組頭秋山松之丞惟祺。小納戸中山勘右衛門信珉。神保新五左衛門長通。朝岡新之助定増。杉浦安太郎勝俸。西城小納戸有田七之助貞英なり。又法眼に叙する者四人。奥醫堀本一甫舜珍。西城奥醫川島宗端昌言。古田瑞亥明恒。増山養甫正恬なり。井伊掃部頭直中實母うせしかば。使番近藤勘右衛門用豫を使とし吊慰せらる。再雪降りしにより。三家使して御起居を候し奉る。○十七日紅葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。歳暮の御祝として日光門主使して二種一荷まいらせらる。また門主近々山にのぼらるゝにより。高家戸田備後守氏倚御使して時服枝柿をおくら

せらる。先手筒頭青山三右衛門宣忠西城持筒頭となる。増上寺伴頭光海結城弘經寺住職とせらる。○十八日紅葉山 御宮井 諸廟に御詣あり。○十九日濱の庭園に成らせらる。御拳鴨若干狩らせらる。水戸中納言治保卿のもとに。牧野備前守忠精。土井大炊頭利厚御使して。中將治紀卿息女順姫のかた二條左大臣治孝公子中將齊信卿。鄰姫のかた應司左大臣政經公子大納言政通卿へ婚嫁の事仰出さる。よて治保卿父子まうのぼられ謝したてまつらる。番醫田中浚川玄鈞日光門主御登山により。そへてつかはさるべきよし命ぜらる。奥右筆組頭格秋山松之丞惟祺子表右筆金之丞維良父の蔭にて兩番にうつさる。幕奉行大野左門義著老免して小普請となる。褒金を賜ふ。鳥居丹波守忠壽使番して雁を下さる。太田備中守資愛へも同じ。○二十日日光門主御登山によりまうのぼられ御對面あり。はてし御饗應あり。寄合火災の地巡視奉はりし大久保玄蕃忠陽火消役となり。小姓組蜂屋勝五郎正登おなじ與頭となる。○廿一日歳暮の御祝として。三家のかたぐはじめ。萬石以上。松平重豪入道榮翁。兩本願寺。例のともがらより時服たてまつる。大納言殿へもおなじ。少老京極備中守高久年老しまたて勤務怠らざりしをもて郭外供奉御免あり。又西城御側岩本内膳正正利おなじ事により。宿直及び郭外供奉御免。かつ紅裏着する事をも御ゆるしあり。去りし十九日御成のをり鳥射し番士二人時服を下さる。堀田大藏大輔正順へ使番して雁を下さる。この日奥にて申樂の御遊あり。例の輩觀覽免さる。樂は繪馬。忠度。砧。竹の雪。籠太鼓。

老中松平信明

葛城。天狗。亂。狂言は目近。米骨。水汲新發意。節分等なり。○廿二日宿老松平伊豆守信明病により。請ふまゝに職免され舊班にかへさる。この日少老のともがらへ御鷹の雁を給ふ。貞章院尼のかた用人泉本正助忠篤。御臺所廣敷番の頭木曾七郎左衛門萬年。賄頭大木金助真則。明樂八五郎茂村。勘定組頭岸彦十郎雅法。拂方金奉行杉浦助左衛門。細工頭馬場助左衛門萬年。小普請方近藤重藏。川船改役久須美六郎左衛門祐明。西城臺所頭江見新五郎政久。民部卿の方郡奉行西村左太郎武邦ともに永く拜謁以上の列にくはへらる。○廿三日臨時の朝會あり。寄合石川岩之丞總集。西城目付松浦大膳忠子熊之助。使番小笠原政之助直信子鐵之丞信順。近藤勘右衛門用豫養子十兵衛。日根野織部弘篤子右近。曲淵市大夫勝智子求馬。徒頭坂部善次郎直之子鎌五郎。小十人頭小出左京亮守傅子又五郎。應匠頭内山七兵衛永恭子茂十郎始め初見のもの多し。西城目付石谷周防守清豐本城にうつり。勘定吟味役澤次郎右衛門幸純西城目付となる。松平和泉守乘寛はじめ。雁下さるゝもの十七人。西城御側岩本内膳正正利御使して。菊千代のかた水痘酒湯を祝して鮮魚をつかはさる。萬年記 ○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。歳暮の御祝として。増上守方丈。小石川傳通院まうのぼりものたてまつる。寄合岡田將監善明。土井左門利豊ともに火災巡視の事命ぜらる。勘定組頭太田作兵衛政邦林奉行とせらる。この月十日 姫君生れさせたまふ。御腹おみせの方。表向御弘めなしといへども。御名淺姫君と稱しまいらす。こよひ

淨瑠璃

追儼の御祝規の如し。戸田采女正氏教これを勤む。日門使して御書棚。後撰和歌集。臺のうへに御文臺。安樂心院宮御遺物として獻ぜらる。西城へは御印籠なり。萬年記 ○廿五日立春。仙石越前守久道。龜井隱岐守矩賢久能 御宮其他修復の事奉はりしによりおのゝ時服を賜ふ。およびその家人等賜物また差あり。こたび順姫鄰姫のかた婚嫁の事により。水戸中納言治保卿父子使して物まいらせ謝したてまつらる。旗奉行長田阿波守繁口養子西城目付六左衛門繁昌。西城留守居三島但馬守政喜子清左衛門政元。火消役巨勢十左衛門利喬子鐵八郎。先手筒頭成瀬吉藏正延子安次郎。西城先手筒頭坪内久四郎定英子右膳定泉。書院番與頭土岐市右衛門頼春養子熊二郎。西城裏門番の頭近山六左衛門安親孫勝五郎安通始め。父死して家つぐ者廿六人。又永井出羽守尙佐始め六人へ雁を下さる。表右筆里見八郎右衛門義章同じ與頭となる。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御側高井飛驒守清寅代參す。伊達若狹守村芳。關但馬守長輝。來春參向公卿の館伴命ぜらる。代官早川八郎左衛門養子伊兵衛。菅沼安十郎定昌子長三郎定立。藏奉行杉島彦三郎清壽子富之助。勘定吟味方改役大瀬新三郎常成子雄之丞常運。勘定方村山百之助惟敬養子辰五郎。中村與兵衛豊伴子又左衛門。長尾貫一郎資尹子嘉一郎召出されて勘定方となり。其他小普請よりも出るものまた多し。明の春豊前國宇佐宮筑前國香椎宮奉幣使立らるゝにより命ぜらるゝむねあり。松平伊豆守信明はじめ八人雁下さる。○廿八日月次の拜賀例のごとし。僧侶住職及び祝巫歳暮を

ほぎ奉るもの多し。從五位下に叙するもの三人。秋田乙之助孝季山城守。松平主税助直寛大藏少輔。西城小姓組番頭森川織部俊世下總守とあらたむ。布衣の士に加はるもの二人。火消役大久保玄蕃忠陽。小姓組與頭蜂屋勝五郎正登なり。飛驒郡代小出大助照方留守居となる。

文恭院殿御實紀卷三十六 文化元年正月に始り六月に終る御齡三十二

文化元年甲子 二月十九日改元 正月元日歳首の拜賀例のごとし。○二日三日また同じ。この夜謠曲はじめの式規に同じ。○五日木下川のほとりへ放鷹として成らせらる。御拳は鴨若干狩得給ふ。○六日僧侶祠官の拜賀また同じ。春雪降りしかば。三家の方々使して御けしきうかゞはる。この日午後吹上の園庭にならせらる。○七日若菜の御祝例のごとし。高家中條河内守信義は伊勢御使。戸田土佐守氏明は京の御使。大澤右京大夫基之は日光山。大納言殿御使を兼ね命ぜられ。共にいとま下さる。賜物は規に同じ。けふ目付して觸られしは。國用つかさどる人々代りしにより。會計局はじめ。作事方小普請方など。専らその事つかさどる局々の取締方是迄のごとく怠りなく。いよ／＼節儉を專にすべし。つかさどる人々代れば。振合もかはらんなど思ふはあるまじきことなり。重立たる局にて。頃日聊にても心ゆるめば。都て諸向のひゞきにもなるべけれ

松平容住卒

ば。厚く此事を存じ怠慢すべからずとなり。○八日東叡山 嚴有院殿 凌明院殿 靈廟に戸田采女正氏教代參す。○九日去りし五日御成のをり鳥射し番士二人時服を賜ふ。○十日東叡山 諸廟及び 深徳院殿。 至心院殿靈牌所に御詣あり。松平若狹守容住在所にて卒せるにより。使番戸川隱岐守安悌して。その父肥後守容頼を吊慰せらる。○十一日具足の御祝規のごとし。連歌興行また同じ。昌逸。かげいく世君がときはの松の春。御旬。千尋のどけき庭の呉竹。玄頭。馬車數そふ門に年立てと附奉りて。つさ／＼百韻にみつ。この日弓場はじめあり。射當しもの當坐の賜祿例のごとし。使番水野小十郎元休先手弓頭となり。寄合戸川大次郎安章。根來喜内正聖。小姓組彦坂三大夫紹芳使番となる。○十二日三緑山 惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。さのふ弓場はじめありしにて。その師徒頭小笠原館次郎持齡時服を賜ひ。射手の番士黄金を下さる。○十三日御乗馬はじめありしにて。厩方の輩賜物あり。紀伊中納言治寶卿濱の庭園にて羽合ありし鴨一番使してたてまつらる。○十四日三緑山 文昭院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○十五日月次の賀例の如し。今朝山王の祠へ御側白須甲斐守政雅御使して。大刀黄金一枚進薦あり。僧侶祠官歳首の拜賀す。毛利大和守就壽就封の暇下さる。岡部左膳長愼家つぎしを謝し金綿を獻ず。午後吹上の庭園に遊ばせらる。○十六日勘定中川文三郎永政同じ與頭となる。○十七日紅葉山 御宮並に 諸廟に 兩御所ともに御詣あり。○十八日濱の庭園に成らせら

所司代青山
忠裕老中に
任ず
大坂城代
業正誠所司
代に、阿部
奉行阿部正
由大坂城代
に任ず

る。御拳鴨。尾長。ひとりなり。○二十日東叡山 大猷院殿。 有徳院殿靈廟に土
井大炊頭利厚代參す。去りし十八日御成のをり鳥射し番士一人時服を下さる。○廿一
日また雪ふりしかば。三家の方々使して物まいらせ御けしきうかゞはる。寄合小笠原
中務長如本所深川火災巡視の事命ぜらる。又西城表右筆蟻川善九郎親贊幕奉行とな
る。○廿三日京所司代青山下野守忠裕老臣の列となる。その事をけさとく紀伊中納言
治寶卿に土井大炊頭利厚。水戸中納言治保卿に戸田采女正氏教御使して傳へらる。大
坂城代稻葉丹後守正誥京所司代となり侍從に任じ。奏者番兼寺社奉行阿部播磨守正
由大坂城代となり從四位下に叙す。よてその事上直布衣のともがらに宿老牧野備前
守忠精これを傳へ。また尾張中將齊朝卿幼稚たるを以て。御使をまいらせられず。家
司めして傳へらる。○廿四日三縁山 諸廟に御詣雨にて延滞せらる。よて 台徳
院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。東叡山 孝恭院殿靈廟に少老京極備中守高久
代參す。高家大澤右京大夫基之口光山よりかへり謁す。日光門主歸寺ありしかば。高
家宮原長門守義潔御使して慰勞せらる。○廿六日東叡山 至心院殿靈廟に御側岡
部因幡守長貴代參す。西城小姓本多岩五郎忠貞官料二百苞下さる。西城御仰石谷直吉
清香小姓となり。青山三四郎長容西城小姓となる。○廿七日西城徒士頭藤堂近江守良
英病免して寄合となる。○廿八日月次の賀例のごとし。松平彈正忠正路參觀す。閑院
伏見家の使者はじめ。遠國の僧侶祠官等歳首の拜賀例の如し。使番倉橋三郎五郎政利

奏者番大久
保忠貞寺社
奉行を兼任
す

駿府目付はて、歸り謁す。奏者番大久保安藝守忠貞寺社の奉行を兼しめられ。御膳奉
行村垣左太郎定行勘定吟味役となり。納戸頭河尻甚五郎春之勘定吟味役を兼しめら
れて。官料は並のごとくに下さる。○廿九日紀伊中納言治寶卿御女豊姫の方請はるま
まに。松平加賀守齊廣が養子裕次郎へ縁組の事仰出さるゝによて。けさ土井大炊頭利
厚。青山下野守忠裕御使す。中納言治寶卿には謝してまうのぼらる。加賀守齊廣召て。
その事故野備前守忠精傳ふ。大番山田甚平直郷老免して小普請に入り褒金を賜ふ。日
門へ銀百枚時ふくつかはさる。本月御禱料なり。御使は高家大澤下野守基季なり。
○晦日増上寺 諸廟御詣雨降しかば延らる。よて 有章院殿靈廟に青山下野守
忠裕代參す。○この月より二月に至り雪ふる事數度に及んで雨降らず。火災繁し。櫻王
殿 ○二月朔日白木書院へ出給ひ。日光久能兩山の御鏡の併符籙いたゞかせ給ふこと
例のごとし。日光門主まうのぼられ歳首の御對面あり。はて、青蓮院門跡使者見えな
てまつり。はて、山門總代はじめ。台宗の僧侶等拜賀例のごとし。高家中條河内守信
義伊勢よりかへり謁す。午後より一橋門外の閑地に成らせらる。御物數は鴨ひとり
狩せらる。○三日紀伊中納言治寶卿使して。こたび縁組のこと謝して二種一荷をまい
らせらる。勘定組頭田口五郎左衛門喜古飛驒郡代となり。布衣の士にくはへられ實祿
百苞に増加あり。○五日目付して觸れられしは。頃年初午祭すとて騷擾する聞へあ
り。兒童打寄て太鼓などうちはやすはさる事なれど。年たけたる者どもうちまじりて

初午祭に小
兒の外歌舞
するを禁ず

まひうたひなどするはあるまじき事なり。此旨あまねく諭告すべしとなり。○六日けさ聖廟に御側高井飛驒清寅御使して。太刀黄金一枚進薦あり。小姓組番頭高井但馬守常房御使して。紀伊中納言治寶卿のもとに御鷹の鶴をおくらせらる。中納言治寶卿同じ事を謝してまうのぼらる。西城書院番大島雲九郎義順同じ徒士頭となる。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○九日奏者番松平和泉守乘寛して。松平加賀守齊廣のもとに巻物十。一種一荷を贈らせらる。西城よりは一種一荷なり。こは養父松平肥前守治脩が子裕次郎利命をもて加賀守齊廣が嗣子と仰出されしによりてなり。裕次郎利命。肥前守治脩に一種一荷をつかはさる。この日奥能あり。輪藏。知章。東北。安宅。唐船。鐵輪。昭君。狂言麻生。三人片輪。猿座頭。佐渡狐なり。例の輩觀覽せしめらる。○十一日小普請より大番に入るもの十五人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。西城小納戸落合郷八久疆病もて奥の勤をゆるさる。○十三日水戸中納言治保卿には小姓組番頭秋元隼人正保朝御使し。尾張中將齊朝卿には書院番頭本多大隅守政房御使して。御鷹の鶴を贈らせらる。中納言治保卿にはその事を謝してまうのぼられ。中將の方には使まいらせて謝し奉る。○十四日紅葉山 諸廟御詣あり。○十五日月次の賀例のごとし。松平右近將監武厚はじめ。就封の暇たまはるもの十一人。伊東鶴三郎祐民。板倉内膳正勝長子□三郎勝俊。一柳土佐守末英子隼人末昭初見したてまつる。知恩院使僧はじめ。遠國の寺社歳首の拜賀例のごとし。

旗雲御引く

改元

し。箱館奉行羽太安藝守正養。仙洞附山木若狭守正富ともにはじめて赴任の暇下さる。賜物は恒例の如し。大番頭建部内匠頭政堅。内藤甲斐守正範二條在番の暇たまふ。賜物規にもなじ。與頭及び番士迄も例のごとし。脇坂淡路守安董としごろの勤勞を賞せられて。時服を賜ひて見えたてまつる。けさ水戸中將治紀卿のもとに。書院番頭巨勢日向守利和御使して御鷹の鶴をおくらせらる。○十七日紅葉山 御宮に青山下野守忠裕代參す。西城腰物方秋間新右衛門武直田安邸物頭とせらる。この口巳の牌過る頃西南より東北へ白き旗雲たなびく。皆人何たる事をしらす。繼王代一覽には正月とす。何れか是なるや。武江年表○十八日濱の庭園に成らせらる。御物數鴨ひとりを狩らせらる。○十九日群臣みなまうのぼり。年號文化と改元あるのよし。席々にして宿老土井大炊頭利厚これを傳ふ。紀伊中納言治寶卿。水戸中納言治保卿。水戸中將治紀卿には同じ御祝としてまうのぼられ。尾張中將齊朝卿には使まいらせらる。この事により病氣幼稚の輩は老臣の許へ使出し。在國在邑の輩は飛札出すべしと令せらる。使番日根野織部弘篤して。松平加賀守齊廣に御鷹の鶴をおくらせらる。京所司代稻葉丹後守正誡。大坂城代阿部播磨守正山ちのく一萬兩の恩貸あり。これは任所に赴くによりてなり。この日小姓組管新左衛門忠長。西城書院番本多隼人忠廉共に逼塞せしめらる。こは山田次郎吉が養父太郎右衛門直清妻圓珠尼。家の書類武器等を次郎吉へゆづらず。家事の悪きは取鎮方も有しに。隼人忠廉。書院番天野□右衛門光景同道にて次郎吉方へ來り。官長の指揮もこれある趣申

なし。右の品々相渡べく様圓珠尼へ申聞。彼是鹿忽の取計に及びしより。終に町奉行
應へ出し始末になり。不行届の義。そが上官長より搜索のせつもひが事のみ申立不束
の至りを咎められてなり。○廿日東叡山 乘臺院殿靈廟に御側本郷大和守泰行代
參す。高家戸田土佐守氏明京より歸調す。○廿一日歳暮の御祝として時服たてまつり
し三家の方々はじめ。萬石以上の輩へ御内書を賜ひ。 大納言殿より奉書をわたさ
る。去りし十八日御成のをり鳥射し番士三人時服を賜ふ。○廿二日金地院某總祿職の
御朱印を賜ふ。松平越前守治好父致仕左兵衛督重富に使番鶴殿十郎左衛門長居。松平
豊後守齊宣父致仕重豪入道に倉橋三郎五郎政利して。おの／＼御應の鶴をおくらせ
らる。○廿三日紀伊中納言治寶卿のもとに戸田采女正氏致。牧野備前守忠精御使し
て。息女翁姫の方を民部卿齊敦卿嫡子徳川備千代の方へ定婚の事仰出され。民部卿齊
敦卿のもとへは青山下野守忠裕御使して。おなじ事仰つかはさる。よて中納言治寶卿
にはまうのぼられ。白木書院にて宿老に謁せられ。民部卿齊敦卿にはまうのぼられ御
對面せられて退でらる。同じ事によて高家。詰衆。奏者番。布衣の輩おの／＼祝したて
まつる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。○廿五日小姓組
三宅傳右衛門子龜太郎罪ありて斬に處せらる。その他連及のもの多し。けふ令せらる
るは。近ごろしからざる筋にて金借受る族もあるよし聞ゆ。さきにも令せられしごと
く。いよ／＼かゝる事なきやう心得べし。こたび駿府貸付金の事につきて。いかゞの

勅院使下向

筋も聞へしにより。此事猶又沙汰せらるゝとなり。○廿六日東叡山 至心院殿靈牌
所に牧野備前守忠精代參す。○廿七日紀伊中納言治寶卿は翁姫のかた定婚を謝せら
れ。使して二種一荷をたてまつらる。○廿八日月次の賀例の如し。松平肥前守治茂。水
野左近將監忠鼎。五島大和守盛運就封の暇たまふ。肥前守治茂。左近將監忠鼎と共に
崎港の事命ぜらる。一條家よりは息女定婚を謝せられ獻りものす。僧侶僧正入院を謝
し束卷を獻する者あり。此日公卿參着ありしかば。土井大炊頭利厚御使して慰勞せら
る。高家戸田土佐守氏明副て參る。午後吹上の庭園に遊ばせらる。○三月朔日 兩
御所御表へ出まし公卿引見により。溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番まうのぼる。
勅使廣橋前大納言伊光卿。千種前中納言有政卿。院使梅小路前中納言定福卿御對
面あり。歳首を賀して。 兩御所へ 禁裏。 仙洞。 中宮よりの進らせもの
例の如し。次に攝家門跡勾當内侍の使者。おの／＼もたてまつり見えたてまつる。
また公卿等みづからの拜賀あり。前大納言伊光卿には傳奏命ぜられしを謝し。その家
司。樂人總代。冠帽末廣師。吉田三位の使者にいたりて見えたてまつる。さて御對面濟
ませられしにより。高家大澤右京大夫基之して。公卿の旅館に鹽鶴一匹。樽一荷を贈
らせられ。日野伊豫守資施して明日申樂命ぜられしにより。まうのぼり觀覽あるべき
よし仰つかはさる。同じ事によて紀水のかた／＼へも仰進らせらる。此日上巳の御祝
として。日光門主使して二種一荷。三家のかた／＼使して一種一荷を進らせらる。○

二日公卿饗應の申樂あり。紀水の方々はじめ。溜詰。普第の大名。高家。詰衆。奏者番。布衣の輩まうのぼり。紀水の兩卿公卿御對面あり。夫より御次伺公の輩見をたてまつりてのち。少老井伊兵部少輔直朗申樂大夫へ樂はじむべしを傳ふ。番組は翁三番。水室。箴。六浦。石橋。祝言弓八幡。狂言二番。大黒連歌。米市なり。唐織要脚廣蓋例のごとし。席々にして御饗應あり。地下の輩料理を賜ふ。この日堀重門は先手頭高木又兵衛資堅。中の門は多賀三右衛門高補。臺所口は水野小十郎元休警衛す。○三日上巳の御祝規の如し。○四日公卿辭見により。溜詰。普第の輩。奏者番まうのぼり白木書院へ出たまひ。勅使 院使御對面あり。御返詞仰含められ。大納言殿にもおなじ。はては歸洛の暇たまひ賜物あり。その他攝家門跡の使者はじめ。冠帽末廣師にいたりて暇下され。もの賜ふ事例に同じ。○五日吹上の庭園に成らせられ。それより一橋邸へ立寄せらる。寄合松平源大夫定堅子源太郎。戸田次郎左衛門由相子主計由昌はじめ。父死して家つぐもの五人。小普請より書院番に入もの九人。○六日 御臺所西城へ入らせらる。甲府勤番支配瀧川出羽守利雍その勤勞を賞せられて時服を賜ふ。日光門主使して山の櫻花一桶を進らす。○七日けさ公卿發途により。伊達若狹守村芳。關但馬守長輝まうのぼり老臣に調し退く。二條一條家の使番いとま下され賜物あり。拂方金奉行杉浦助左衛門老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○八日東叡山凌明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參し。蓮光院殿靈牌所に御側白須甲斐守政雍

酒井忠交の事蹟

代參す。○九日清水の官邸に成らせらる。大納言殿にも同じ。○十日書院番頭淺野中務少輔長富大番頭となる。○十二日三綠山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十三日番町藥圃に成らせられ。夫より淑姫君の方に立寄せらる。播磨國姫路城主酒井雅樂頭忠道支封酒井左近將監忠交卒せるにより。雅樂頭忠道請まゝに。遺領一萬石を其子左京忠實につがしめらる。此忠交は宗家雅樂頭忠恭の第八子にして。幼名は盛之助。寶曆十三年三月十五日 凌明院殿へはじめて拜謁し。明和七年の閏六月二十三日宗家より廩米を分ちて。一萬石帝鑑間班に列し。其冬從五位下に叙し兼縫殿頭に任じ。寛政四年正月二十六日左近將監と改め。このとし正月二十日卒せり。歳五十二。この日上杉彈正大弼齊定驛使して御應の鶴下されしを謝し奉る。○十四日さのふ淑姫君の御方に立よらせ給ひしを謝して。尾張中將齊朝卿より使まいらす。○十五日月次の賀例のごとし。紀伊中納言治寶卿封地のいとま仰出さる。よてまうのぼり謝し奉らるゝにより。饗せられて對面せられ。御應馬をまいらせらる。京所司代稻葉丹後守正謙赴任のいとまたまひ。壽命の御刀。御馬。黄金。時服。羽織を下さる。臺の上よりはちりめん五卷なり。松平加賀守齊廣就封の暇たまひ御應馬を下され。松平肥前守治茂養子左衛門佐齊直就封のいとま賜ひ御馬を下さる。松平豊後守齊宣參觀す。中納言治寶卿及び加賀守齊廣。豊後守齊宣の家士等も拜謁す。又寄合横田主税貞松。中山勘解由直有。書院番與頭柏屋八藏正長養子内藏助正親。西城小納戸井戸新十郎養

蘭人入貢

子辨橋。奥醫山添熙泰院直辰嫡孫宗吉はじめ。初見したてまつるもの多し。紀伊中納言治寶卿には 御臺所より賜物ありしを謝し使まいらす。○十六日濱の庭園に成らせらる。西城書院番仙石宇兵衛政廣老免して小普請に入り褒金を賜ふ。此日入貢の蘭人御覽あり。獻物は猩々緋貳反。黒大羅紗三反。紅葉色羅紗三反。藍海松茶大羅紗。紫鶯大羅紗。桔梗色大羅紗。黄羅紗。仙齋茶大羅紗。青茶色大羅紗。柿色大羅紗。白羅紗。紅鶯色天鵝絨。黒花色天鵝絨。皿紗なり。○十七日紅葉山 御宮に土井大炊頭利厚代參す。○十八日淑姫の方歳首として西城へ入らせらる。○十九日王子のほとりへ成らせられ。鷹にて雉を狩捉給ふ。少老堀田攝津守正教從ひ奉りてこれも雉子を狩得らる。○二十日奥詰醫河野良以通明奥醫となり。奥醫堀本一甫齋珍子好安元悌めし出されて奥詰醫となり。廩米二十口をたまふ。○廿一日鐵砲玉藥奉行眞崎彦左衛門保吉裏門切手番改となる。大番江原九郎右衛門一清老免して小普請に入り褒金をたまふ。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に井伊兵部少輔直朝代參す。西城裏門番の頭大前孫兵衛房明老免して寄合となり時服を賜ふ。阿部主計頭正精。堀内藏頭直皓。大番頭市橋下總守長昭ともに奏者番となり。留守居酒井因幡守忠敬西城御側となり。小姓組番頭高井但馬守常房書院番頭となり。小普請組支配溝口相模守直舊小姓組番頭となり。徒士頭戸川大學達旨先手筒頭となり。目付伊東長兵衛祐香徒士頭となる。又目付永井靱負直堯さきに八貫野鹿狩のとき。西城書院番飯塚主水忠顯へ槍突當しは。全く

過の事とは申ながら。一己の働さを心がけ打込の場所にて迫合し故と相聞。御番方の不作法など指揮すべき役義にて。不似合の仕方不調法の事をもて職放たしめらる。この日吹上にて大的御覽あり。○廿六日小納戸小川七郎左衛門廣隆西城裏門番の頭となり。官料はそのまゝたまはる。○廿七日寄合近藤主殿頭用爲子豊太郎用温。秋田内膳季濟養子中務季毅。朽木左京金綱子龜太郎はじめ。父致仕して子家つぐもの十九人。留守居駒木根大内記政永は酒井因幡守忠敬にかはり。目付土屋帶刀直廉は伊東長兵衛祐香にかはりて。ともに有栖川家姫君樂宮の御方下向の事奉はるべしと命ぜらる。佐竹右京大夫義和驛使して御鷹の鶴給ひしを謝せらる。○廿八日青山下野守忠裕京への暇たまひ。御手づから御羽織を下さる。吹上の園にて草鹿御覽あり。○廿九日御臺所濱の庭園に成らせらる。○晦日小普請奉行有田播磨守貞勝東叡山 靈廟拜殿等修復の事奉はりしにて時服を賜ひ。屬吏等賜物差あり。旗奉行芝與一右衛門正盛勘定組頭となる。○四月朔日月次の賀例のごとし。酒井左京忠實家つぎしを謝し獻りものす。常州黒子千妙寺信解院權僧正東卷獻り住職并に權僧正を謝し奉る。加茂社人葵を獻ず。佐渡奉行鈴木新吉正義赴任の暇たまふ。賜物恒例のごとし。○二日大納言殿淺草のほとりへ成らせらる。淺草寺にて御憩息あり。○三日西城小納戸飯河善左衛門信門子勝之丞始め。父死して家つぐ者五人。此日奥にして散樂の御遊あり。西城の宿老少老祝する事をゆるさる。御裳濯。碓潜。空蟬。滿仲。合甫。當麻。附祝言。

狂言餅酒。武惡。花折新發意。太刀集なり。○四日書院番頭永見伊豫守爲貞留守居となり。火消役逸見左近長祥小普請組支配となり。西城目付齋藤以左衛門利通。小納戸江原孫三郎親章共に目付となる。先手筒頭大河内善兵衛政壽病により火賊捕盜の事ゆるされ。同じ職間宮友三郎光徳明の年の四月まで善兵衛政壽に代らしめらる。○六日須崎のほとりへ成らせらる。鷹放たせ給ひて鶺鴒ひな狩捉給ふ。立花出雲守種周陪從して同じく水鶏狩えらる。この日未中牌のころ還御なりて。即刻吹上の園にならせらる。賄調役中村幸左衛門御膳所臺所頭となる。○七日日光門主近々御登山あるにより。高家中條河内守信義御使して袷衣をおくらせらる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に戸田采女正氏敷代參す。番醫湯川安道元淡日光門主御登山により。添てのぼるべき由命ぜらる。細川長門守與徳大番頭となる。○九日西城同朋頭半田丹阿彌本城にうつり。同朋池田貞阿彌西城の同じ頭となる。○十日高家六角主殿頭廣胖は日光山 御宮代參使。 大納言殿御使を兼ね。板倉周防守勝駿は 靈廟代參使。板倉主水祐勝喜。米倉丹後守昌俊は祭祀の奉行命ぜられて各暇下さる。賜物は例に同じ。日光門主近々御登山により。まうのぼられ御對面ありて饗たまふ。小姓石谷直吉清香特旨にて官料三百俵下さる。○十一日深川のほとりへ放鷹として成らせらる。御物數大小鶺鴒。黒さぎを捉獲給ふ。御厨所は千田新田民部卿別墅なり。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。西城小姓組進物番奉はりし櫻井庄兵衛勝強西城

目付となる。小普請より西城腰物方に入るもの一人。○十三日松平主計頭宗允より申出しは。封地宮津城下より乾の方山手成相寺觀音境内。去年十二月下旬より鐘樓堂下百間程地裂。當子正月下旬より所に寄七八尺も陥入。晝夜に五六分づゝ陥入たる所もあり。其外谷間關所も出來。境内諸堂社及び寺院傾たる所あり。人馬の死傷なしといへども。異變なれば驛をばせて聞へ上ぐとなり。○十四日小姓組平岩與次右衛門親俊御膳奉行となる。○十五日月次の賀例の如し。上杉彈正大弼治廣。松平若狹守容衆。伊達遠江守村壽。丹羽左京大夫長祥。松平上總介齊政はじめ。參觀の者十四人。此日大番山崎八左衛門正賢。小十人與頭折井吉右衛門明正 臺の上廣敷番の頭となる。○十六日勘定小川甚四郎良休老免して小普請に入り褒銀をたまふ。○十七日紅葉山 御宮に 兩御所御詣あり。○十八日富士見寶藏番の頭朝比奈長九郎昌因老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○十九日目付遠山金四郎景晋。佐野宇右衛門庸貞菊千代君御宮參の事奉はるべきよし命ぜらる。○二十日東叡山 大猷院殿靈廟 心觀院殿靈牌所に御詣あり。高家六角主殿頭廣胖。祭祀奉行板倉主水佑勝喜。米倉丹後守昌俊日光山よりかへり調す。○廿一日吹上の庭園に成らせられ。小普請の輩乘馬御覽あり。○廿二日臨時朝會あり。大坂城代阿部播磨守正由任所へのいとまたまひ。鎮清の御刀。御馬。時服を下さる。松平越前守治好。細川越中守齊茲。松平阿波守治昭。松平大和守直恒。松平大膳大夫齊房。松平相模守齊邦。立花左近將監鑑壽。松平左兵衛佐直周。

松平飛騨守利考。松平越後守康人はじめ。就封の暇たまはるもの三十七人。越前守治好は御鷹馬を下され。相模守齊邦は相州綱廣の御刀御馬を下され。牧野越中守貞喜子左京貞幹初見したてまつり。小姓組番頭津田山城守信之は播磨守正由引渡の事命ぜられ。目付土屋長三郎正備は小笠原右近將監忠苗封地にて病により。致仕のこと請ひ申せしかば豊前國小倉へ檢視としていとま下さる。長三郎正備子榮之助初見したてまつる。飛騨郡代田口五郎左衛門喜〇赴任のいとま下さる。西城小姓組番頭森川下總守俊世書院番頭となり。先手筒頭山田讚岐守利往西城小姓組番頭となり。寄合火災巡視奉はりし土井左門利豊火消役となる。この日申牌より三九にならせらる。〇廿三日吹上へ成らせられ。三奉行公事裁斷のさまを聞し召る。大納言殿深川のほとりへ成らせらる。〇廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老立花出雲守種周代參す。板倉周防守勝陵日光山よりかへり調す。〇廿五日吹上の庭園に成らせられ。小普請の輩乗馬御覽あり。〇廿六日白木書院へ出給ひ。布衣の輩及び寄合諸番士小普請の輩武技御覽あり。布衣以上寄合の輩へは吸物酒たまひ。番士その他の輩へは布帛を賜ふ。〇廿七日小普請より大番に入るもの十人。〇廿八日月次の賀例のごとし。相良志摩守頼徳はじめ參觀のもの二人。紀伊中納言治寶卿は歸封を謝し。御使して三種二荷たてまつらる。少老井伊兵部少輔直朝。岸姫君御入興の事奉はるべきよし命ぜらる。けふ令せらるは。各局にて取はからふ事々新になしはじむるはいふ迄もなく。ささくの仕來

宗齊吹上に
三奉行の
公事裁斷を
聽く

繪草紙出版
發賣の制

とは。聊にてもかはりたらんには。其事聞へ上て後にはからふべし。たとへばかくする方簡便なりとて。試に其事とりはからず。いよくその方然るべければ。其節聞へあげんと思ふ事也とも。先聞へ上て後にはからふべしとなり。〇廿九日三縁山 有章院殿靈廟に御詣あるべかりしかど雨にて延らる。よて戸田采女正氏教代參す。〇この月市井に令せられしは。繪草紙の類しばく觸られしを。今にいろく品のうりひさぐにより。この度査檢のうへそれく咎められぬ。この後は左の如く心得べし。壹枚繪草雙紙の類。天正以來の武者に姓氏をあらはし書くはいふまでもなし。紋所及び合印姓氏等紛らはしくるがくべからず。壹枚繪に和歌並に景色の地名。角力の名。歌舞妓役者遊女の名等は記すべし。その他の詞書一切禁すべし。彩色摺したる繪本の雙紙近頃多く見ゆ。墨ばかりにて板行し彩色加ふべからず。その他前々令せられし旨。堅く守りてうりひさぐべし。此度絶板せられし外にも令に違ひたるは。行事共糺察して速に絶板せしめ。等閑の事なからんやうはからふべし。此旨背かば重く咎めらるべしとなり。〇五月朔日月次の賀例のごとし。端午の御祝として。日光門主使して二種一荷をまいらせらる。井伊掃部頭直中はじめ。就封のいとまたまはるもの四人。掃部頭直中。松平越中守定信。松平讚岐守頼儀は御鷹馬を下さる。松平隱岐守定國參觀す。井上壹岐守正紀就封の暇給ふ。けふ令せられしは。頃日米價いやしく諸人艱困すべければ。三百俵以下の人々には。この夏の借米は皆金にて賜はるべし。されども米請取

たしと思ふものには。借米たまはるべければ。勘定奉行へ問はかるべしとなり。○二日端午の御祝として。三家の方々万石以上の盡使して時服たてまつる。大納言殿へもおなじ。小普請その他より小十人組に入るもの九人。兩番に准じたる西城山里庭番。梶野平助秀名は庭番。坂城破損奉行加藤久五郎則孝は鐵砲玉藥奉行。勘定五島三六郎信房は旗奉行。小十人齋木甚五左衛門正恒は同じ與頭。小普請和多田八三郎直迪は小十人に准じ西城山里庭番となる。此日千本吉之丞居隆西城小納戸の職を病もて免さる。○三日兩國橋より御乗船。濱の庭園へ。兩御所ともに成らせらる。雀三羽を得給ふ。大番頭中坊河内守廣看子鍋五郎廣彭はじめ。父死して家つぐもの五人。○五日端午の御祝規のごとし。○六日日光奉行支配組頭金子助三郎忠庸廣敷番の頭となさる。○八日東叡山。嚴有院殿靈廟に御詣雨にて滯延せらる。よりにて戸田采女正氏教代參し。同じ山の。凌明院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○九日小納戸頭取小野安藝守近義先手筒頭となり。寄合上田彌右衛門義茂は火災巡視を命ぜらる。那須衆二人いとま下さる。○十日東叡山。常憲院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十一日三縁山。淳信院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。○十三日尾張中將齊朝卿使して封地の駒をたてまつらる。○十四日三縁山。文昭院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。○十五日月次の賀例のごとし。松平甲斐守保光。本多隱岐守康完就封の暇給ふ。松平山城守信愛はじめ。參觀のもの三人。書院番頭佐野肥前守義行は賜物ありて。

津輕親連
年暇地の
事を勤むる
石高と爲す

紀伊國への御使命ぜられいとま下さる。大番頭安藤伊豫守直之。堀近江守直起二條成役の暇たまはる。與頭番士まで同じ。賜物規のごとし。佐渡奉行飯塚伊兵衛政長任所より歸謁す。この日津輕越中守寧親蝦夷地の事連年勤るにより。七萬石高になし下さる。○十六日小納戸頭取に准じたる長谷川主膳正保邦頭取の職となる。○十七日紅葉山。御宮。諸廟に御詣あり。○十八日日光門主より住心院權僧正をまいらせて。これよりさき。大猷院殿。有徳院殿。凌明院殿。孝恭院殿御法會濟ませられしにて。請はるすまゝに御教の事仰出されしをよろこびて謝し申さる。この日奥能あり。養老。頼政。雲雀山。枕慈童。咸陽宮。船橋。融。舞。の狂言はり鮎。どもり。宗論。樂阿彌。仁王なり。例のともがら觀覽せらる。○十九日午前より吹上へならせられて騎射御覽あり。○二十日東叡山。大猷院殿。有徳院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。小普請より西城書院番に入るもの八人。大番小十人小普請より。西城新番に入る者八人。○廿一日日光門主御歸寺ありしにて。高家大友因幡守義方御使して慰勞せらる。書院番鳥居三右衛門重陳老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○廿二日青山下野守忠裕京より歸り謁す。日光門主御歸寺により使僧して岩茸を進らす。○廿四日三縁山。台徳院殿靈廟に青山下野守忠裕代參し。東叡山。孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正教代參す。日光門主御歸寺によりまうのぼられ御對面あり。寄合内藤留五郎忠恒三縁山。桂昌院殿御法會警衛の事命ぜらる。小普請より大番に入る者一人。

蝦夷地に天
台宗五ヶ寺
を建立す

天台淨土禪
三宗の寺を
蝦夷地に建
立す
朝鮮の聘禮
を對馬にて
受くるに
決定す

○廿六日作事奉行平賀式部少輔貞愛は。三縁山御裝束所及び方丈その他修復の事奉はりしにて時服を賜ひ。所屬の輩賜物差あり。甲斐國川々普請の事つとめし勘定のもの賜物あり。○廿八日水尾兩卿及び水世子の方々へ御使して巢鷹をおくらせらる。よて三卿まうのぼられ謝せらる。此日勘定久保寺忠大夫交□日光奉行支配與頭命ぜられ。永く拜謁の列にくはへらる。又日門へ本月御祈禱料つかはさる。御使は高家六角主殿頭廣胖なり。○廿九日三縁山 有章院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。先手筒頭戸川大學達旨火賊捕盜のこと命ぜらる。○この月蝦夷の地へ天台宗五ヶ寺を建らる。○六月朔日月次の賀例のごとし。佐竹右京大夫義和參觀す。松平豊後守齊宣子又三郎齊興。有馬左兵衛佐譽純養子藏人一純初見したてまつり。豊後守齊宣。左兵衛佐譽純はちなじ事謝してまみえたてまつる。天台宗等持院某。淨土宗善光寺某。禪宗國泰寺某の三ヶ寺。こたび蝦夷の地に開基住職を命ぜられしを謝しおのく束巻を獻る。水戸兩卿へ朝鮮の信使來聘の事。さきにうちくの仰せありしに任せ。對州にして聘禮相整ふよしを。かの國へ仰つかはせられしに承諾の趣。近年かの國來聘たるべくよしを老臣して傳へらる。同じ事を出仕の輩へも命ぜらる。巳の牌より芝浦のほとりへ成らせられ獵視たまひ。夫より濱の園に遊ばせらる。この日巾の牌頃より天俄に曇り大雨車軸を流し。また霹靂大にしてみな人魂を飛す。この時音羽町の邊にして七歳の女兒を空中へまさあげ。翌日江戸川より死骸上りしとぞ。武江年表○二日戸田采女

田羽國大地
あり象瀧崩

正氏教朝鮮來聘の事奉はるべきよし命ぜらる。西城槍奉行安部信濃守信富ちなじ留守居となり。先手筒頭高力平八郎直道西城槍奉行となり。徒士頭大林彌左衛門親中先手頭となり。大番與頭小幡次郎八當寄徒士頭となる。○三日先手筒頭岡部内記忠英手紙萬之助忠愛。寄合川勝齋宮廣次孫長八郎。近藤隼人用倫養子常吉をはじめ。父死して家つぐもの十四人。○五日尾張中將の方使して巢鷹をたてまつらる。○六日出羽國大地震。象瀧崩れ日本の佳景を絶す。六郷佐渡守政速が領内由利郡本庄城門橋崩石垣崩れ。藩臣住居及び市井大に損ずといふ。一覽○七日小普請より大番に入るもの一人。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に土井大炊頭利厚代參す。小普請組支配本多兵庫成存病免して寄合となる。○九日東叡山 淨圓院殿靈牌所に牧野備前守忠精代參す。○十一日臨時朝會あり。榊原式部大輔政教はじめ參觀のもの十五人。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟御詣御こゝち例ならず渡らせ給ひしにより。戸田采女正氏教代參す。○十三日けふも臨時朝會行はる。松平和泉守乘寛はじめ。就封の暇たまはるもの二十六人。小姓組頭津田山城守信文大坂城代引渡はてゝかへり謁す。この日大番飯室富之助昌親同じ與頭となる。○十四日土用に入りしかば。日光門主使して掛香をまいらせ。三家の方々使し。溜詰。高家。詰衆。奏者番はまうのぼりて御けしきうかゞふ。松平隱岐守定國病により。奏者番阿部主計頭正精してとはせらる。○十五日山王の祠へ御側平岡美濃守頼長御使して。金三枚御進薦あり。増上寺方丈使して。生花一桶熟瓜

松平定國卒

一籠をたてまつり昇中の御けしきさうかゞふ。この日 兩御所並後閣よりも吹上に
 ならせられ。山王祭祀の練物を祝給ふ。神輿は徒頭して護送す。城中門々先手の警衛
 例に同じ。萬年この曉に月蝕する事九分。○十六日嘉定の御祝例のごとし。○十七日紅
 葉山 御宮に牧野備前守忠精代參す。松平隱岐守定國うせしかば。御側白須甲斐守
 政雍御使して。徳川右衛門督齊匡卿をとほせらる。大納言殿よりも同じ。小納戸
 能勢助之丞頼匡病により奥の勤をゆるさる。○十八日松平隱岐守定國うせしによて。
 奏者番堀内藏頭直皓御使して。其子立丸定則の方に香銀卅枚をおくらせらる。勘定恩
 田新八郎忠礎。小普請古橋文三郎久敬代官の職となる。○十九日小普請より大番に入
 る者一人。尾邸より使して巢雀鷄二据さげらる。○二十日東叡山 有徳院殿靈廟
 に御詣あり。徳川備千代のかた病危篤により。御側本郷大和守泰行御使して。一橋民
 部卿齊敦卿を問せらる。○廿一日三縁山にて 桂昌院殿百回忌御法會行はる。導師
 大僧正つかふまつる。備千代のかたきのふ逝せられしにより。音楽を停廢せらる。
 事三日。この備千代の方は一橋民部卿齊敦卿の子にして。母堂は北の方靖安院殿とぞ。
 享和三年四月二十四日生れさせ給ひ。終にうせさせ給ひしなり。御歳二。よて牧野備
 前守忠精して。一橋亞相。徳川民部卿の方を吊慰として遣さる。○廿二日三縁山
 桂昌院殿百回忌御法會濟ませられしにより。 靈牌所に土井大炊頭利厚代參し。又
 大炊頭利厚御使として増上寺方丈に施物として白銀百枚。且僧中へも銀子を下さる。

壽姫卒

住吉社焼亡
せるを以て
一千兩を寄
附す

備千代の方うせられしによて。一橋民部卿齊敦卿のもとに。少老京極備中守高久御使
 して香資の銀三十枚をおくらせられ。又御側大久保豊前守忠温御使して。制中を問は
 せられて冰糖一壺をおくらせらる。○廿三日増上寺方丈 桂昌院殿御法會はて。さ
 のふ施物ありしを謝して。まうのぼり宿老に謁し退く。○廿四日東叡山 孝恭院殿
 靈廟に少老京極備中守高久代參す。天守番の頭松井忠左衛門政照老免して小普請に
 入り褒金を賜ふ。日光門主使して不忍池の新藕一籠をまいらす。壽姫君此ほどなやみ
 たまひしが。この日巳の下刻ばかりにかくれさせたまひぬ。こは 御所第十九の御
 子にして。御腹はおとせの方。享和三年十月十五日生まれさせ給ひ。ことし二月十九日
 御色直し御箸初めありて。けふ御とし二歳にて終らせ給ひしが。さきくの例により
 御氣色伺に及ばずとなり。○廿五日三家の方々はじめ。端午に時服献りし萬石以上の
 蓋御内書を賜ひ。 大納言殿より奉書をわたさる。○廿六日壽姫君御事香院殿と
 諭しまいらせ。けふ未の刻に傳通院におくりまいらす。鷹師與頭中村三郎右衛門則方
 富士見寶藏番の頭となる。○廿七日御側岡部因幡守長貴して。日門へ暑中御尋として
 檜重進らせらる。又使番して増上寺方丈へ同じ品つかはさる。大番堀七郎右衛門利之
 老免して褒金あり。○廿八日鐵砲方井上左大夫正治先手筒頭となる。鐵砲方もこれま
 でのごとしと命ぜらる。○廿九日攝州住吉四社本社災に罹り。一千兩御寄附ありしと
 ぞ。一覽代 小普請より大番に入るもの一人。○晦日けふも小普請より大番小十人に入

る者おのゝ一人。

文恭院殿御實紀卷卅七 文化元年七月に始り十二月に終る

○七月朔日月次の賀例のごとし。松平主殿頭忠馮。安部攝津守信亨參觀す。松平山城守信愛。松平彈正忠正升。小笠原信濃守長禎。本多大和守忠居は坂城加番命ぜられ暇たまふ。松平周防守康定はじめ。就封のいとまたまはるもの三人。賜物舊におなじ。樂宮の御迎として暇たまはるもの。留守居松浦越前守信程。御臺所用人東條信濃守長祇。目付土屋帶刀直廉。使番石野新左衛門廣温はじめ所屬の輩尙多し。賜物差あり。又長崎奉行肥田豊後守頼常賜物舊に同じうして赴任の暇下さる。箱館奉行戸川筑前守安倫歸調す。大番頭高木主水正正剛。細川長門守興徳坂城在番の暇たまふ。與頭番士も同じ。賜物舊規の如し。○三日 臺の上用達鈴木五郎兵衛春祥天守番の頭となり。應師山川仁右衛門定直同じ與頭となる。この日増山備中守正寧父致仕雪齋常々不愼の義に相聞。不埒の事により急度愼あるよしを。大目付井上美濃守利恭して傳ふ。○三日那須衆福原内匠資明子久米吉。寄合小倉相模守正眞子式部正幸はじめ。父死して家つぐ者十人。○四日七夕の御祝として。日光門主使して二種一荷をまいらす。○五日播磨國小野領主一柳土佐守末英病にて致仕す。所領一万石はその子隼人末昭に

増山正賢身
持不愼に
り賜物舊規
を命ず

一柳末英致仕

つがしむ。この末英は

○六日七夕の御祝として。三家の方々始め。例の輩使して鮭料を進らす。大番石黒十郎左衛門敬勝同じ與頭となる。○八日東叡山 凌明院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。○十日大塚護持院高隆初瀬小池坊住職となさる。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に牧野備前守忠精代參す。寄合指揮せし佐藤修理信顯小普請組支配となる。越後瀧谷慈光寺隱居惠措越生龍穩寺住職となる。○十四日紅葉山 諸廟に御詣あり。東叡山 至心院殿靈廟所に御側平岡美濃守頼長代參す。此日大雷。都下卅七ヶ寺に震すといふ。不朽○十五日孟蘭盆會により。東叡三縁兩山に御使して施物例の如し。表右筆田丸新左衛門直純田安邸小十人頭命ぜらる。○十六日先手筒頭間宮友三郎光徳捕盜加役の事病免す。戸川大學達旨盜賊考察の事明の年の七月まで勤よと命ぜらる。○十七日紅葉山 御宮に青山下野守忠裕代參す。奥詰醫堀本好安元悌奥醫となり。廩米二百俵。官料百俵下さる。奥日○十八日豊奉行河田安右衛門兼彥は書物奉行。作事の下奉行橋本忠左衛門は豊奉行命ぜられ。安右衛門兼彥は永く拜調の列に入るべしとなり。○二十日豊前國小倉城主小笠原右近將監忠苗病により致仕の請をゆるさる。所領十五萬石は其養子伊豫守忠固に繼しむ。この忠苗實は信濃守長達が第二子にして。幼名を保三郎といふ。明和九年の三月八日嗣子にさだめられ。安永二年十一月朔日はじめて 凌明院殿を拜し奉り。その冬從五の下して伊豫守に任じ。寛政三年正月廿

小笠原忠苗
致仕

積時政由政務を以て預ける居忠烈に預ける

田沼意定卒

九日襲封し。その年十二月十六日從四位下に叙し。同じ月十八日右近將監と改め。同十一年の冬侍從にすゝみ。このとし七月廿日在所におゐて致仕し。同十月六日左京大夫に改め。同じ五年二月廿日卒す。とし六十三。又さらに伊豫守忠固をめてして。右近將監忠苗は家事の示方とくかずといへどもこたび致仕をも乞しにより。持旨もてその沙汰に及ばれず。今忠固は家譲りたるはじめなれば。よろづに心いれ沙汰せよと老臣して傳へらる。代官篠山十兵衛景義年久しく精勤を賞せられて。布衣の士にくはへらる。○廿二日裏門切手番の頭平岡彦兵衛民休病をもて職を辭す。○廿三日小普請植崎九八郎政由御政務の事ども建白し。その他輕からざる儀まで申觸し不届なるをもて。鳥居丹波守忠憲に預しめらる。○廿四日東叡山 孝恭院殿靈廟に少老堀田攝津守正敦代參す。○廿五日書院番頭近藤淡路守政明病免して寄合となる。寄合大久保喜右衛門忠官子主殿忠興。大前孫兵衛房明子熊次郎房諷。岩田平十郎定功子兵之助定達はじめ。父致仕して子家つぐもの二十一人。孫兵衛房明は養老料二百苞を下さる。○廿六日陸奥國下村の領主田沼主計頭意定卒す。嗣子なきにより。請ふまゝに祖先主殿頭意次が四子田代玄蕃意正をして遺領一萬石をつがしむ。この意定實は支封能登守意致の第二子にして。幼名は幾之助といふ。享和三年十一月四日嗣子の口襲封し。其月十五日はじめて 文恭院殿に拜謁し。その冬從五位下に叙し主計頭と稱し。このとし七月廿六日卒せり。年二十一。新番窪田主水正愷同じ與頭となり。西城表臺所頭江

松平定國の事蹟

見新五郎政久同城御膳所同職となる。西城小十人與頭澤井文大夫茂方老免して褒金あり。田安邸の用人に准じたる長柄奉行中島傳右衛門正信病により職ゆるさる。○廿八日月次の賀例のごとし。奥平大膳大夫昌高はじめ參觀のもの三人。青山大膳亮幸孝就封のいとま下さる。一柳隼人末昭家つぎしを謝して物獻る。本多越中守忠誠子正之進忠知初見したてまつる。目付土屋長三郎正備は豊前國小倉よりかへり謁し。使番坂本小大夫直諒。小姓組榊原隼之助忠之は大坂目付にさゝれ暇下さる。賜物恒例の如し。初瀬小池坊。越生龍穩寺共に東卷獻じ住職を謝す。○八月朔日當賀例の如し。○二日伊豫國松山城主松平隱岐守定國卒せしかば。其子立丸定則へ所領十五萬石をつがしむ。此定國は明和五年十月廿二日故隱岐守定靜の養嗣となり。實は田安黃門宗武卿の第六子にして。幼名豊丸といふ。同じき八年八月十五日 浚明院殿を拜み奉り。安永元年十二月十八日從四位下中務大輔と改め。八年八月晦日封襲ぎ。その年九月十一日隱岐守と改稱し。十一月朔日溜間に候し。十二月侍從に進み。天明五年四月七日廩米千俵を庶流小納戸小十郎定胤に増與へ。寛政六年四月十五日左少將に昇り。島后御使。ことし六月十六日卒す。歳四十八。○三日水尾兩卿及び水世子へ御鷹の告天子をつかはさる。又使番して松平越前守治好父致仕左兵衛督重富はじめ。雲雀下さるゝもの七人。父死して家つぐ御家人五人。○四日小普請山田保太郎。鈴木政之助正丈。三宅内藏助。阿久津丑助直内表右筆となり。吉田貞之助端商。大久保佐十郎。小林鐵太郎政

留守居役以外
の者を以て
勤向等に
關したる事
項を同合せ
又は掛合せ
を禁ず
西丸若年寄
松平乘保本
丸附に傳ず

武西丸表右筆となる。この日松平左京大夫頼啓はじめ。使番して雲雀下さるゝもの七人。○五日那須衆一人いとま下さる。小姓組番頭津田山城守信久書院番頭となり。西城小姓組番頭戸田出羽守光弘小姓組番頭となり。小普請組支配渡邊平十郎久西城小雀賜はる者五人。又奥にて老臣に同じ品を下さる。○六日羅灌寺のほとりへ成らせらる。御奉は燕雀なり。大川の邊にて從士の水泳を御覽あり。○七日尾張中將齊朝卿のもとに御側岡部因幡守長貴御使す。こは聖聰院尼故中將治行 卿北の方のかたかくれさせ給ひしにてなり。西城よりも御懇詞あり。○八日東叡山 浚明院殿靈廟に戸田采女正氏教代參す。尾張中將の方に奏者番内藤豐前守信教御使して。香銀三十枚をおくらせらる。御臺所よりは五枚なり。大番大久保彦大夫忠寛大坂破損奉行とせらる。○十日釋奠により今朝御側大久保豐前守忠温代參し。太刀馬資金一枚薦めらる。小姓組長半四郎信政老免して小普請に入り褒金を賜ふ。○十二日三縁山 惇信院殿靈廟に青山下野守忠裕代參す。けふ令せらるゝは。すべて諸家より主人の勤務にかゝはりたる事を問はかり。及び掛合の事は。留守居役の者を以て申聞べきに。頃日留守居役にもあらざる者を用向のありく出す族もあるよしなり。平常の事に。かゝる事此後なすべからずとなり。○十三日西城少老松平能登守乘保本城にうつる。よてその事上直布衣以上の輩へ牧野備前守忠精これを傳ふ。○十四日留守居駒木根大内記政永。小普

奏者番青山
幸完四丸若
年寄に任ず

牧野宣成致仕

請奉行有田播磨守貞勝は。二丸後閣長局新たに營作つとめしにて。時服あるは黄金をへて賜ひ。其他所屬の盞金銀賜物差あり。材木石奉行鳥居八右衛門正恒裏門切手番の頭となさる。○十五日月次の賀例のごとし。松平立丸定則襲封を謝して見えなてまつり。金に綿をへて獻る。大久保山城守忠喜はじめ參觀のもの七人。堀田大藏少輔正順はじめ就封のいとまたまはる者七人。使番奥山八十五郎良恭賜物舊のまゝにして。駿府目付にさいれいとま下さる。奏者番青山大膳亮幸完西城少老となる。上州澁川眞光寺權僧正東卷を獻じ。住職並權僧正を謝し奉る。○十六日勘定吟味役村垣左大夫定行子専次郎範行召出されて兩番格庭番となり。賄頭明樂八五郎茂村子松次郎茂正めし出されて小十人格庭番となる。午後三丸に遊ばせらる。○十七日紅葉山 御宮に土井大炊頭利厚代參す。○十九日午後より 兩御所共に吹上に遊歩せらる。○二十日東叡山 心觀院殿靈牌所に土井大炊頭利厚代參す。火消役西郷齋宮員豐小普請組支配となる。○廿一日丹後國田邊城主牧野佐渡守宣成病にて請まゝに致仕す。所領三萬五千石は其子豐前守以成に繼しむ。此宣成は故豐前守惟成の第五男にして。幼名虎次郎といふ。兄ども皆身まかりしかば。天明三年七月十八日嗣子となり。その秋九月十六日家つがしめられ。同じ年の十二月十五日 浚明院殿を拜し奉り。同じ冬十二月二十八日從五位下して佐渡守に任じ。この日致仕し。同じ八年三月廿六日終りをよくす。歳は四十八とぞ。○廿三日水邸より後閣へ鮭を進らせらる。○廿四日東叡